

えひめ防災フォーラム（平成26年 8 月 12 日）



四国災害アーカイブス記念講演会
（平成26年 4 月 21 日）

愛媛大学と松山市の合同記者発表
（平成27年 3 月 30 日）



社会基盤メンテナンスエキスパート養成講座
【前期】平成26年10月27日～31日
【後期】平成26年11月17日～21日



伊方町防災キャラバン（平成26年9月7日）



防災士養成講座
 平日コース 平成26年8月21日～22日
 休日コース 平成26年8月23日～24日



松山アーバンデザインセンター
 日常的な利用の光景



みんなの広場
 土日の様子



風景づくり夏の学校2014 道後温泉提案競技
 パネルセッションの様子
 （平成26年9月19日）



アーバンデザインスクール
 （平成26年11月29日）

序 文

日本は自然災害大国である。この4年だけ見ても、2011年3月11日の東日本大震災では18,490名、2012年7月11日～14日の九州北部豪雨災害では30名、2013年10月16日の伊豆大島土石流災害では39名、2014年8月20日の広島土砂災害では74名、そして9月27日の御嶽山噴火では63名が犠牲になった。

日本は千年に一度という大規模地震の発生期に入り、また、地球温暖化に伴う異常気象による大規模な気象災害も頻発してきている。国力が衰えた日本を滅ぼすほどの被害をもたらすと想定される南海トラフ巨大地震も、首都直下型地震も発生が秒読み段階に入っていると行って過言ではない。

戦後の日本が発展した要因の一つに自然災害を押さえ込んだことが挙げられる。戦争で焦土と化した日本は、「一吹き千人」と表されるほどの自然災害大国であった。しかし、5千名が犠牲になった昭和34年の伊勢湾台風を契機に災害対策基本法が制定された。そして、精力的に防災対策に取り組んだ結果、自然災害による犠牲者は激減した。そのため自然災害をほぼ抑え込んだと過信していた。そこに発生したのが1995年の阪神淡路大震災である。6434人が犠牲になり、日本が誇る土木構造物である阪神高速道路神戸線の高架が倒壊した写真は世界に配信された。

阪神淡路大震災以降、地震の活動期に入ったと言われている。実際、それ以降、全国各地で地震が頻発してきている。そして、2011年3月11日午後2時46分、日本をマグニチュード9.0の巨大地震が三陸沿岸を襲った。観測史上最大規模の東日本大震災である。巨大津波が三陸沿岸一帯をのみ込み、福島第一原子力発電所では全電源が喪失し、核燃料がメルトダウンするという惨劇に見舞われた。

昨年8月20日未明に広島市は記録的な短時間豪雨に見舞われた。深夜の午前4時半までの3時間で200mmを超える豪雨が降った。それも、50mm、70mm、100mmというように順次、時間雨量が増えたからたまったものではない。沢という沢から土石流が出て、避難する機会を逃した多くの人が犠牲になった。また、昨年9月27日の昼前、何の前触れもなく御嶽山が噴火した。快晴の秋空に恵まれ、紅葉が見事に色づき、その上、土曜日という絶好の行楽条件に恵まれて、御嶽山は多くの登山客で賑わっていた。登山道はさながら銀座通りのようであったことであろう。しかし、その美しい御嶽山は突然の噴火に阿鼻叫喚の地獄と化した。昼時、山頂で弁当を広げていた登山客の足元から水蒸気爆発による噴火が発生した。頂上付近では50cmもの火山灰が積もり、火砕流が3kmも流れ下った。1mを超えるような巨大な噴石も混じった噴火であった。

以上、見てきたように、日本は大規模自然災害の多発期にある。そのため、今まで以上に防災への真剣な取り組みが求められる。愛媛大学防災情報研究センターも微力ながら地域防災力向上のために活動している。本報告書に昨年一年間の活動成果をまとめている。本報告書を手にする方々が、本センターの活動に協力いただけるよう強く願う。

2015年5月26日

愛媛大学防災情報研究センター長 矢田部龍一

愛媛大学防災情報研究センター一年報 目次

序文

目次

1. 研究組織及び研究スタッフ	1
2. 活動状況	
2.1 平成 25 年度活動報告会	8
2.2 えひめ防災フォーラム 2014 -南海トラフ巨大地震から生命を守る-	9
2.3 防災キャラバン	12
2.4 愛媛地域防災力研究連携協議会	17
2.5 災害現地調査・調査報告会	20
2.6 四国防災八十八話研究会	23
2.7 アーバンデザイン研究部門	24
2.8 社会基盤メンテナンスエキスパート(ME)養成講座	26
2.9 西日本高速道路(株)四国支社との平成 26 年度連携推進会議	32
2.10 「実践的學生防災リーダー育成プログラム」導入に伴う愛媛大学と 松山市の合同記者発表	34
2.11 その他の講演会等	35
2.12 防災情報研究センターニュース(メールマガジン)	43
3. センターが受け入れた研究活動	44
4. センター教員による研究・地域貢献活動	46
5. 管理・運営	
5.1 運営委員会議事録	76
5.2 外部評価委員会議事録	83
6. 規程等	86

1. 研究組織および研究スタッフ

センター長，副センター長のもとに，6つの研究部門（災害救急医療・ケア研究部門，地域防災システム研究部門，社会基盤整備部門，アジア・地域防災情報ネットワーク部門，南海トラフ巨大地震研究部門，アーバンデザイン研究部門）を置く。下記に，平成26年度の研究スタッフを示す。センター長，副センター長の他，センター所属の教員が18名，客員教授・准教授が10名，客員研究員が4名，並びにセンター活動を支援していただく協力教員8名で構成されている。

センター長

氏名 矢田部 龍一 [YATABE Ryuichi]
所属 大学院理工学研究科生産環境工学専攻
役職 教授・副学長・理事
専門 地盤工学
最終学歴 1979.3 京都大学大学院工学研究科修士課程土木工学専攻 修了

副センター長

氏名 高橋 治郎 [TAKAHASHI Jiro]
所属 教育学部
役職 教授・副センター長
専門 構造地質，防災地質
最終学歴 1978.3 東北大学大学院理学研究科博士課程 満期退学

氏名 竹田 正彦 [TAKEDA Masahiko]
所属 防災情報研究センター
役職 教授・副センター長
専門 河川工学，災害復旧制度
最終学歴 1991.3 名古屋大学工学研究科土木工学専攻博士前期課程 修了

氏名 新階 寛恭 [SHINGAI Hiroyasu]
所属 防災情報研究センター
役職 教授・副センター長
専門 都市計画，都市交通
最終学歴 1995.3 東京大学大学院建築学専攻修士課程 修了

<災害救急医療・ケア研究部門>

地域の関係機関との連携を考慮した災害発生時の救急医療・ヘルスケア体制及び搬送支援体制の構築・情報共有に関する調査・研究を行い、心的ケアを含む実践的な災害医療の教材を開発する。

部門長

氏名 相引 眞幸 [AIBIKI Mayuki]
所属 大学院医学系研究科医学専攻
役職 教授, 附属病院副院長 (医療再生・災害危機管理担当)
専門 救急医学, 重症患者管理学
最終学歴 1978.3 金沢医科大学医学部医学科 卒業

氏名 木村 映善 [KIMURA Eizen]
所属 大学院医学系研究科医学専攻
役職 准教授
専門 医療情報学, 医療社会学, 看護情報学, 医用工学
最終学歴 2003.3 愛媛大学大学院医学研究科生体機能博士課程 修了

氏名 加藤 匡宏 [KATO Tadahiro]
所属 教育学部附属教育実践総合センター
役職 准教授
専門 産業保健領域における人間工学の視点からみた労働安全器具の開発および安全, 安心町づくり
最終学歴 1990.3 広島大学大学院医学系研究科社会医学系博士課程 修了

<地域防災システム研究部門>

自然災害発生メカニズムや対策技術を研究し、発生した災害実態や気象・地質・構築物などの地域特性を調査する。それらの調査・研究を通して得られた知見・知識を蓄積する。

部門長

氏名 松尾 芳雄 [MATSUO Yoshio]
所属 農学部生物資源学科
役職 教授
専門 地域計画情報学・農村計画学
最終学歴 1980.3 京都大学大学院農学研究科農業工学専攻後期博士課程研究指導認定

氏名 小林 範之 [KOBAYASHI Noriyuki]
所属 農学部生物資源学科
役職 教授
専門 地盤工学
最終学歴 1991.3 京都大学大学院農学研究科農業工学修士課程 修了

<社会基盤整備部門>

国土保全という視点に加え，災害に強い都市計画，避難支援技術，復旧・事業継続のためのリスク評価と機能維持計画など防災・減災という視点や環境・景観保全の視点からの社会資本整備技術を開発・展開する。

部門長

氏 名 吉井 稔雄 [YOSHII Toshio]
所 属 大学院理工学研究科生産環境工学専攻
役 職 教授
専 門 交通工学
最終学歴 1994.3 東京大学大学院工学系研究科修士課程土木工学専攻 修了

氏 名 廣田 清治 [HIROTA Kiyoharu]
所 属 防災情報研究センター
役 職 教授
専 門 地質工学
最終学歴 2007.3 愛媛大学大学院理工学研究科博士後期課程生産環境工学専攻 修了

氏 名 森脇 亮 [MORIWAKI Ryo]
所 属 大学院理工学研究科生産環境工学専攻
役 職 教授
専 門 気象学・水文学
最終学歴 1996.3 東京工業大学工学部土木工学科 卒業

氏 名 門田 章宏 [KADOTA Akihiro]
所 属 大学院理工学研究科生産環境工学専攻
役 職 准教授
専 門 河川工学
最終学歴 1997.3 京都大学大学院工学研究科博士課程環境地球工学専攻 単位取得認定退学

<アジア・地域防災情報ネットワーク部門>

地域の視点からの防災・災害対応に関する自然科学・人文社会面の教材の開発，災害時のライフラインや医療に関する基盤情報ネットワーク構築に関する調査・研究を行う。その成果を用いて地域の教育・啓蒙を行い，さらにアジア各地域に重点的に展開する。

部門長

氏名 榊原 正幸 [SAKAKIBARA Masayuki]
所属 大学院理工学研究科数理物質科学専攻
役職 教授
専門 地質学，岩石学，応用地球科学
最終学歴 1987.9 北海道大学大学院理学研究科地質学鉱物学博士後期課程 修了

氏名 二神 透 [FUTAGAMI Tohru]
所属 防災情報研究センター
役職 准教授
専門 都市防災計画，地震火災シミュレータ，避難シミュレータ，救急情報工学，土木計画学，
中山間地防災計画，住民参加，合意形成
最終学歴 1990.3 金沢大学大学院自然科学研究科システム科学博士課程 修了

<南海トラフ巨大地震研究部門>

南海トラフ巨大地震に備えて、防災教育、避難行動、業務継続、防災 GIS、自主防災活動に関する研究を重点的に展開する。

部門長

氏名 竹田 正彦 [TAKEDA Masahiko]
所属 防災情報研究センター
役職 教授・副センター長
専門 河川工学，災害復旧制度
最終学歴 1991.3 名古屋大学工学研究科土木工学専攻博士前期課程 修了

氏名 岡村 未対 [OKAMURA Mitsu]
所属 大学院理工学研究科生産環境工学専攻
役職 教授
専門 地盤工学
最終学歴 1993.3 東京工業大学大学院理工学研究科土木工学博士課程 修了

氏 名 森 伸一郎 [MORI Shinichiro]
所 属 大学院理工学研究科生産環境工学専攻
役 職 准教授
専 門 地震工学, 地震地盤工学, 防災工学
最終学歴 1980.3 京都大学工学部土木工学科 卒業

<アーバンデザイン研究部門>

公・民・学が連携して、都市デザインとまちづくりに関する調査研究から実践、さらには学習・教育を行い、まちづくりの担い手を育成する。

部門長

氏 名 新階 寛恭 [SHINGAI Hiroyasu]
所 属 防災情報研究センター
役 職 教授・副センター長
専 門 都市計画, 都市交通
最終学歴 1995.3 東京大学大学院建築学専攻修士課程 修了

氏 名 松本 啓治 [MATSUMOTO Keiji]
所 属 防災情報研究センター
役 職 教授
専 門 まちづくり
最終学歴 1972.3 愛媛大学農学部農業工学科 卒業

氏 名 千代田 憲子 [CHIYODA Noriko]
所 属 教育学部
役 職 教授
専 門 デザイン, パブリックデザイン(街路景観), テキスタイル造形
最終学歴 2003.3 九州芸術工科大学大学院芸術工学研究科生活環境専攻博士後期課程 修了

氏 名 松村 暢彦 [MATSUMURA Nobuhiko]
所 属 大学院理工学研究科生産環境工学専攻
役 職 教授
専 門 地域デザイン
最終学歴 1995.3 大阪大学工学研究科土木工学専攻博士後期課程 中退

氏 名 羽鳥 剛史 [HATORI Tsuyoshi]
所 属 大学院理工学研究科生産環境工学専攻
役 職 准教授
専 門 社会マネジメント
最終学歴 2006.3 京都大学工学研究科都市社会工学専攻博士課程 修了

氏 名 片岡 由香 [KATAOKA Yuka]
所 属 防災情報研究センター
役 職 助教
専 門 景観デザイン
最終学歴 2013.3 京都大学大学院工学研究科都市環境工学専攻博士後期課程 修了

【客員教授】

氏 名 柏谷 増男 [KASHIWADANI Masuo]
所 属 愛媛大学 名誉教授・防災情報研究センター客員教授
専 門 都市計画, 交通計画, 地域計画

氏 名 羽藤 英二 [HATO Eiji]
所 属 東京大学大学院工学研究科 教授
専 門 交通工学, 都市空間工学, 都市交通計画, 風景づくり

氏 名 木下 誠也 [KINOSHITA Seiya]
所 属 日本大学生産工学部土木工学科
専 門 建設マネジメント, 国土マネジメント, 河川・水資源の計画・管理, 防災

氏 名 鳥居 謙一 [TORII Kenichi]
所 属 国土交通省国土技術政策総合研究所 水防災システム研究官
専 門 海岸工学, 防災工学

氏 名 三浦 真紀 [MIURA Masanori]
所 属 国土交通省四国地方整備局 局長
専 門 防災行政

氏 名 岡田 清隆 [OKADA Kiyotaka]
所 属 愛媛県県民環境部 部長
専 門 防災行政

氏 名 田村 弘文 [TAMURA Hirofumi]
所 属 愛媛県土木部 部長
専 門 土木行政

氏 名 右城 猛 [USHIRO Takeshi]
所 属 株式会社第一コンサルタンツ 代表取締役社長
専 門 擁壁設計, 落石対策

氏 名 MADHAV Kumar Nepal
所 属 ネパール制憲議会議員 憲法策定委員会委員長
専 門 ヒマラヤ環境学, 開発政治学

【客員准教授】

氏 名 DAHAL Ranjan Kumar
所 属 理工学研究科 客員研究員 (ネパール トリブバン大学 講師)
専 門 応用地質学, 地すべり防災学

【客員研究員】

氏 名 TULADHAR Gangalal
所 属 ヒマラヤ保全会 会長
専 門 防災教育, ヒマラヤ環境学, 開発政治学

氏 名 石飛 直彦
所 属 復建調査設計株式会社 松山支店 技術課長
専 門 まちづくり, 社会実験調査

氏 名 泉谷 昇
所 属 NPO 法人いよココロザシ大学 理事長・学長
専 門 まちづくり, 社会実験調査

氏 名 大山 雄己
所 属 東京大学大学院工学系研究科 特別研究員
専 門 まちづくり, 社会実験調査

【協力教員】

法 文 学 部 : 寺内 浩 (協力分野 : 古文書調査, 歴史研究)

理工学研究科 : 渡邊 政広 (協力分野 : 洪水災害)

理工学研究科 : 小林 真也 (協力分野 : 災害時の情報伝達)

理工学研究科 : 井内 國光 (協力分野 : 渇水被害, 水資源システム, 地球温暖化, 地盤沈下,
土壌・地盤・水汚染, 災害発生時の災害調査と情報提供)

理工学研究科 : 倉内 慎也 (協力分野 : 防災計画)

理工学研究科 : 木下 尚樹 (協力分野 : 土砂災害, 大規模崩壊)

理工学研究科 : 安原 英明 (協力分野 : 渇水災害, 水資源システム, 土砂災害, 地すべり,
大規模崩壊)

理工学研究科 : バンダリ ネットラ P. (協力分野 : 地盤防災, 災害情報データベース)

2. 活動状況

2.1 平成 25 年度活動報告会

愛媛大学防災情報研究センターは、平成 26 年 5 月 28 日（水）に、愛媛大学南加記念ホールにて 85 人の参加者を得て平成 25 年度の活動報告会を開催しました。

まず、竹田正彦副センター長が、四国クリエイト協会からの寄附講座の期間満了と松山市からの寄附講座新設に伴う防災情報研究センターの新体制、また、県下市町で展開している防災キャラバン、それと新たにスタートした愛媛大学社会基盤 ME 養成試行講座やえひめ防災フォーラム 2013 の紹介などを行いました。

次に、4 月 1 日に発足したアーバンデザイン研究部門長である新階寛恭教授が、これからの松山のまちづくりを推進する「核」としての「松山アーバンデザインセンター」の設置目的や今後の活動方針について講演しました。

続いて、四国地方整備局の林重延総括防災調整官が、「南海トラフ巨大地震に対する四国地震防災基本戦略の取り組み」と題して講演しました。多数の写真や資料を用いて、南海トラフ巨大地震への取り組みの状況が分かりやすく説明されました。

最後に、竹田副センター長が、3 月 14 日発生した伊予灘地震の初動対応に関わるウェブアンケート調査結果の中間報告を行いました。防災に対する意識レベルの違いが地震後の行動に関わってくるという結果が得られたことなどが紹介しました。

参加者は、報告や講演に熱心に耳を傾けており、南海トラフ巨大地震への対応や今後の松山市のまちづくりを考える上で、大いに参考になったことと思います。

日 時：平成 26 年 5 月 28 日(水) 13:30～15:30

場 所：愛媛大学南加記念ホール

参加者：85 名

プログラム：

開会挨拶

愛媛大学防災情報研究センター長 矢田部 龍一

平成 25 年度防災情報研究センター活動報告

愛媛大学防災情報研究センター 副センター長 竹田 正彦

アーバンデザインセンターの設立について

愛媛大学防災情報研究センター 副センター長 新階 寛恭
(アーバンデザイン研究部門)

南海トラフ巨大地震に対する四国地震防災基本戦略の取り組み

四国地方整備局 総括防災調整官 林 重延 氏

伊予灘地震（3 月 14 日発生）への初動対応調査について

愛媛大学防災情報研究センター 副センター長 竹田 正彦

閉会挨拶

愛媛大学防災情報研究センター 副センター長 竹田 正彦



矢田部センター長の挨拶



会場風景

2.2 えひめ防災フォーラム 2014 ー南海トラフ巨大地震から生命を守るー

8月12日（水）に開催いたしました「えひめ防災フォーラム 2014」には、愛媛県副知事，愛媛県内 20 市町の市長，町長をはじめとして，愛媛県下各地から 1200 名の方に参加いただきました。えひめ防災フォーラムも平成 22 年に第 1 回を開催しましてから今年で第 5 回を迎えることができ，参加者も 1,000 名を超えるほどの規模に成長してまいりました。県民，地域の防災意識も年を追うごとに確実なものとなっていることを実感しております。これも県下をあげての継続的な取り組みの積み重ねが産んだ成果であると考えております。引き続き皆様のご協力をお願いするものであります。

しかし，えひめ防災フォーラムの翌週には死者・行方不明者 74 名に及ぶ大規模な土砂災害が広島市内で発生し，改めて防災・減災に対する備えがいかに重要であるかを認識することとなりました。

愛媛県内においても地震だけでなく，土砂災害による被害に備える必要があります。今後も防災意識の醸成に取り組んでいく必要があります。これまでえひめ防災フォーラムは委員の皆様が一同に会する形で実施してまいりましたが，今後の活動では，地域に根ざした活動がさらに重要なものとなっていると判断されることから，次回からは開催方法を変えて実施したいと考えております。開催方法等が決まりましたら改めてご連絡させていただきます。

南海トラフ巨大地震による愛媛県の被害は甚大なものとなります。このような巨大地震に備えるためにも，これまでのフォーラム，そして今後のフォーラムの取り組みが愛媛県内の各自治体や地域防災力の向上に役立てられることを心より願うものです。

最後に，改めてえひめ防災フォーラムを盛会裏に開催できましたことを皆様方に心より感謝申し上げます。ましてお礼のご挨拶とさせていただきます。

主 催：愛媛大学防災情報研究センター，愛媛地域防災力研究連携協議会
共 催：国土交通省四国地方整備局，愛媛県，（公社）土木学会四国支部
後 援：四国 4 大学防災関連研究センター連携協議会，愛媛県教育委員会，

(一社) 四国クリエイト協会, NHK 松山放送局, 南海放送, テレビ愛媛,
あいテレビ, 愛媛朝日テレビ, 愛媛新聞社

日 時 : 平成 26 年 8 月 12 日 (火) 13 : 30 ~ 16 : 40

場 所 : ひめぎんホール メインホール

参加者 : 1,200 名

プログラム :

開会挨拶

愛媛大学長 柳澤 康信

来賓挨拶

愛媛県知事 中村 時広 氏

(代理 上甲 俊史副知事)

基調講演 「愛媛県地震被害想定と防災・減災対策について」

愛媛県県民環境部防災局長 杉野 洋介 氏

四国防災八十八話感想文コンクール最優秀賞・優秀賞作品の紹介 愛南町立各小学校の皆さん
パネルディスカッション

—さらなる減災に向けて、何をなすべきか—

コーディネーター : 愛媛大学防災情報研究センター長 矢田部 龍一

パネリスト : 愛媛大学長 柳澤 康信

松山地方気象台長

上窪 哲郎 氏

愛媛県県民環境部防災局長

杉野 洋介 氏

愛媛県土木部長

田村 弘文 氏

愛媛県教育委員会事務局副教育長

井上 正 氏

松山市長

野志 克仁 氏 (代理) 副市長 遠藤 美武 氏

今治市長

菅 良二 氏 (代理) 副市長 長野 和幸 氏

宇和島市長

石橋 寛久 氏

八幡浜市長

大城 一郎 氏 (代理) 副市長 橋本 顕治 氏

新居浜市長

石川 勝行 氏

西条市長

青野 勝 氏

大洲市長

清水 裕 氏

伊予市長

武智 邦典 氏

四国中央市長

篠原 実 氏 (代理) 副市長 真部 讓 氏

西予市長

三好 幹二 氏

東温市長

高須賀 功 氏

上島町長

上村 俊之 氏 (代理) 副町長 宮川 阪光 氏

久万高原町長

高野 宗城 氏

松前町長

白石 勝也 氏

砥部町長

佐川 秀紀 氏

内子町長

稲本 隆壽 氏 (代理) 副町長 稲田 繁 氏

伊方町長

山下 和彦 氏 (代理) 副町長 森口 又兵衛 氏

松野町長

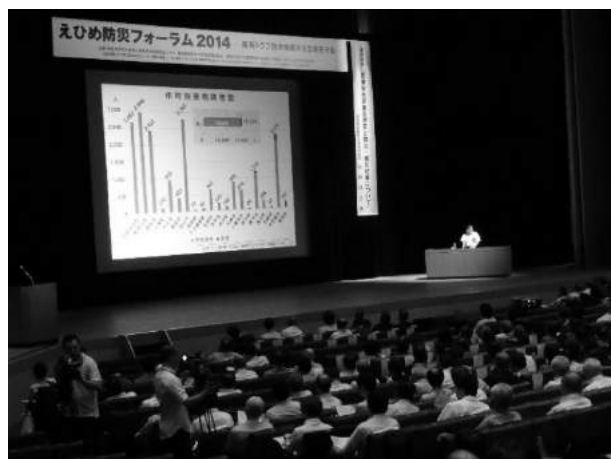
阪本 壽明 氏

鬼北町長
愛南町長

甲岡 秀文 氏
清水 雅文 氏

閉会挨拶

愛媛大学防災情報研究センター長 矢田部 龍一



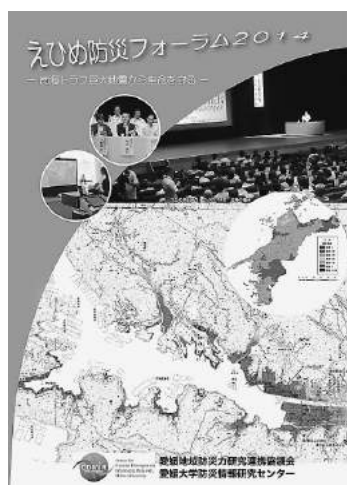
杉野防災局長基調講演



会場風景



パネルディスカッション



えひめ防災フォーラム 2014 報告書

2.3 防災キャラバン

南海トラフ巨大地震研究部門の設置を記念し、近年日本各地で発生している自然災害に関する話題と、愛媛県並びに開催市町に関係する自然災害、そして、家庭力と地域力の強化による自然災害への備えをテーマに「防災キャラバン」として、県内の市町で地元自治体と連携した防災講演会を開催しています。平成26年度は、下記の5市町で開催しました。

2.3.1 内子町

6月29日（日）10時から内子町文化交流センターにおいて、内子町並びに内子町消防団と共催による防災キャラバンを開催し、425名の参加がありました。

開催に先立ち、愛媛大学防災情報研究センター竹田副センター長及び稲田内子町副町長から、防災は意識だけでなく行動も必要であることや、内子町は津波の心配はないが土砂災害に注意しなければならないとの挨拶がありました。

引き続き、愛媛大学防災情報研究センター二神准教授が、「愛媛県の地震被害想定と内子町の減災」

と題した講演で、過去の災害記録や地震の規模の大きさを分かりやすいパワーポイントやシミュレーターを用いて解説しました。次に、松山地方気象台藤原次長が、「大雨や台風による災害から身を守るために」と題した講演で、気象現象や台風の知識、防災気象情報などについて分かり易く解説されました。

休憩を挟んだあと、上川自主防災会岡さんより、上川地区の過去の訓練の様子や高齢化が進む地域ならではの支え合いマップを作成したことなどの講演がありました。

次に、質疑意見交換が行われました。まず、「防災に対して何を行えばよいか」と会場からの質問に対し、松山地方気象台藤原次長より、「地震が発生したときのことを考えると、寝室に高さ90cm以上のものを置かないようにする」と回答がありました。また、「地震発生時はどのようなことを行えばよいか」と質問に対し、二神准教授並びに藤原次長より「揺れている最中に逃げるのは大変危険である」と回答がありました。

最後に、高橋内子町消防団長から「官民一体となり、防災に強い内子町を作る」と閉会の挨拶があり、とても有意義な防災キャラバンとなりました。



二神准教授の講演

日 時：平成26年6月29日（日） 10：00～12：00

場 所：内子町文化交流センター スバル

共 催：内子町、内子町消防団、愛媛大学防災情報研究センター

参加者：425名

プログラム：

開会挨拶

愛媛大学防災情報研究センター副センター長 竹田 正彦

内子町副町長 稲田 繁 氏

講演

「愛媛県の地震被害想定と内子町の減災」

愛媛大学防災情報研究センター 准教授 二神 透

「大雨や台風による災害から身を守るために」

松山气象台 次長 藤原 清 氏

事例発表

「上川自主防災会の取り組み」

上川自主防災会 室岡 勝彦 氏

閉会挨拶

内子町消防団長 高橋 賢次 氏

2.3.2 伊方町

9月7日（日）10時30分から伊方町生涯学習センターにおいて、伊方町と共催による防災キャラバンを開催し、約150名の参加がありました。

開催に先立ち、愛媛大学防災情報研究センター矢田部センター長及び山下伊方町長から、一人ひとりが高い防災意識を持つことの重要さや、自分の命は最低限守らなければならないと挨拶がありました。

引き続き、愛媛大学防災情報研究センター二神准教授が、「愛媛県の被害想定と伊方町の減災について」と題した講演で、過去の事故・災害から地域で備えることの大切さや、それぞれの地域の災害特性に備える必要性をシミュレーターを用いて説明し、また阪神淡路大震災の実際の揺れを迫力のある動画を用いて解説されました。講演後は、会場内の出席者から「南海トラフ巨大地震にどう備えればよいか。」との質問に対して、「伊方町はトンネルも多く、代替経路も少ないので、避難経路を確保し家族間でも避難場所を決めておくことが大切である。」と二神准教授より回答があるなど、活発な意見交換会となりました。

引き続き、伊方町立三崎小学校鎌田校長による「三崎小学校 地域ぐるみの青少年防災キャンプ事例発表」では、小学生の防災キャンプの紹介が行われました。

最後に、伊方町自主防災会連絡協議会の佐々木会長より「命がなくなると元に戻らない。自助、共助が重要である。」との閉会の挨拶があり、有意義なキャラバンとなりました。



矢田部センター長の挨拶

日 時：平成26年9月7日（日） 10：30～12：00

場 所：伊方町生涯学習センター5階 大ホール

共 催：伊方町、愛媛大学防災情報研究センター

参加者：150名

プログラム：

開会挨拶

伊方町長 山下 和彦 氏

愛媛大学防災情報研究センター長 矢田部 龍一

講演

「愛媛県の被害想定と伊方町の減災について」

愛媛大学防災情報研究センター 准教授 二神 透

「三崎小学校 地域ぐるみの青少年防災キャンプ事例発表」

防災キャンプ実行委員会

閉会挨拶

伊方町自主防災会連絡協議会 会長 佐々木 光昭 氏

2.3.3 大洲市

9月28日(日)13時30分より大洲市総合福祉センターにおいて、地域自主防災会、自治会役員、消防団、防災士ら、132名の参加がありました。開催に先立ち、愛媛大学防災情報研究センター矢田部センター長・大洲市清水市長より、広島土砂災害についてのお話があり、大洲は、土砂災害、水害に備える必要があるとの挨拶がありました。引き続き、愛媛大学防災情報研究センター二神准教授が、「愛媛県の地震被害想定と大洲市の減災」と題した講演で、南海トラフ巨大地震が発生した場合。大洲市での震度や液状化、地震火災、建物倒壊について、シミュレーションを交えての被害状況と減災方法について解説しました。次に、松山地方気象台藤原次長より、「大雨や台風による災害から身を守るために」と



題して、気象情報の収集と適切な判断によって命を守ることができるとの講演がありました。最後に大洲市消防団 上満副団長より、「大洲市消防団の取り組み」と題して、活発に住民の命を守るための取り組みが紹介されました。

閉会に挨拶は、大洲市自主防災組織連絡協議会 小澤会長より、地域が連携して備えることが大事であるとのお言葉を頂きました。

二神准教授の講演

日時：平成26年9月28日(日) 13:30～15:30

場所：大洲市総合福祉センター 4階 多目的ホール

共催：大洲市、愛媛大学防災情報研究センター

後援：国土交通省四国地方整備局大洲河川国道事務所、大洲市消防団、

大洲市自主防災組織連絡協議会

参加者：132名

プログラム：

開会挨拶

愛媛大学防災情報研究センター長 矢田部 龍一

大洲市長 清水 裕 氏

講演

「愛媛県の地震被害想定と大洲市の減災」

愛媛大学防災情報研究センター 准教授 二神 透
「大雨や台風による災害から身を守るために」 松山地方気象台次長 藤原 清 氏
事例発表

「大洲市消防団の取組み」 大洲市消防団副団長 上田 恒雄 氏
閉会挨拶 大洲市自主防災組織連絡協議会会長 小澤 功 氏

2.3.4 久万高原町

11月25日(火)19時より久万高原町産業文化センターにて、地域自主防災会、自治会役員、消防団、防災士ら、230名の参加がありました。開催に先立ち、竹田愛媛大学防災情報研究副センター長・高野久万高原町長より、久万高原町は津波の心配はないが、地震や豪雨による土砂災害に備える必要があるとの挨拶がありました。引き続き、愛媛大学防災情報研究センター二神准教授が、「愛媛県の地震被害想定と久万高原町の減災」と題した講演で、南海トラフ巨大地震が発生した場合。久万高原町での震度や液状化、土砂災害、地震火災、建物倒壊について、シミュレーションを交えての被害状況と減災方法について解説しました。次に、松山地方気象台藤原次長より、「大雨や台風による災害から身を守るために」と題して、気象情報の収集と適切な判断によって命を守ることができるとの講演がありました。最後に愛媛県土木部建築住宅課小沢主任より、「木造住宅の耐震化への補助制度の紹介について」と題して、地震対策は自宅の耐震化が基本であり、そのための補助事業を活用していただきたいとの紹介がありました。

閉会に挨拶は、永井久万高原町副町長より、自助・共助・公助が連携して備えることが大事であるとのお言葉を頂きました。

日 時：平成26年11月25日(火) 19:00～21:00

場 所：久万高原町産業文化会館 ホール

共 催：久万高原町、愛媛大学防災情報研究センター

後 援：久万高原町消防団、久万高原町防災士会、アマチュア無線非常通信協力会

参加者：230名

プログラム：

開会挨拶 愛媛大学防災情報研究センター副センター長 竹田 正彦
久万高原町長 高野 宗城 氏

講演

「大雨や台風による災害から身を守るために」 松山気象台次長 藤原 清 氏

「愛媛県の地震被害想定と久万高原町の減災」

愛媛大学防災情報研究センター 准教授 二神 透

木造住宅の耐震化への補助制度の紹介について

愛媛県土木部建築住宅課 主任 小沢 英二 氏

閉会挨拶 久万高原町副町長 永井 修一 氏

2.3.5 今治市

11月30日（日）10時から今治市日高小学校屋内運動場において、地域自主防災会、自治会役員、消防団、防災士、日高小学校5年生、地元中学生ら、370名の参加がありました。

開催に先立ち、竹島日高地区自治会長、管今治市長、矢田部愛媛大学防災情報研究センター長から、地域住民と子供たちが連携し日ごろからの備えが命を守るために大事であるとの挨拶がありました。引き続き、防災標語表彰式があり、小学生、中学生、一般の部における素晴らしい防災標語の紹介と賞状の授与が行われました。続いて、日高小学校5年生有志による防災の取り組みが紹介され、地震が起こった時の対応や、地域の防災マップや防災ハンドブックといった具体的な取り組み内容に、会場の大人も興味深く聞き入っていました。最後に、二神愛媛大学防災情報研究センター准教授が、「今治市の地震被害想定と日高地区の減災」と題した講演で、南海トラフ巨大地震が発生した場合、今治市、日高地区での震度や液状化、地震火災、建物倒壊について、シミュレーションを交えての被害状況と減災方法について解説しました。閉会式では、桧垣日高地区自治会防災部会長より、地域が連携した持続的な防災活動が大切であるとの挨拶がありました。

今回は、子どもと大人が一体となって地震に備えるといった、非常に有意義な防災キャラバンとなりました。

日 時：平成26年11月30日（日） 10：00～12：00

場 所：日高小学校体育館

共 催：今治市、日高地区自主防災会、愛媛大学防災情報研究センター

参加者：370名

プログラム：

開会挨拶

日高地区自治会長 竹島 宏 氏

今治市長 菅 良二 氏

愛媛大学防災情報研究センター長 矢田部 龍一

防災標語コンテスト

日高小5年生による防災の取り組みについて研究発表

講演

「今治市の地震被害想定と日高地区の減災について」

愛媛大学防災情報研究センター 准教授 二神 透

閉会挨拶

日高地区自治会防災部会長 桧垣 秀利 氏

2.4 愛媛地域防災力研究連携協議会

2.4.1 自治体業務継続研究会・防災GIS研究会 合同研究会

8月12日(水)に自治体業務継続研究会と防災GIS研究会を合同で開催した。

自治体業務継続研究会では、業務継続計画の策定について意見交換を行い、計画策定を進めるにあたっての課題について共有を図った。課題解決に向けて、既に計画を策定済みの自治体からその策定の過程について紹介を受けることで、組織内の合意を得る方策について検討することとした。

防災GIS研究会では、昨年度に構築した防災情報提供システムの概要について説明を行なった。これまでの取り組みにより収集された各自治体の防災情報を地理情報システムに搭載し、自治体の境界を越えて共有が可能となるものである。今後は、このシステムの活用について検討を進めることとされた。

2.4.2 避難問題研究会・自主防災研究会・防災教育研究会 合同研究会

8月12日(水)に避難問題研究会・自主防災研究会・防災教育研究会の合同研究会を開催した。

事前に各市町に配布したアンケート調査、

1. 昨年の防災フォーラム(2013年8月20日開催)以降における貴自治体の取り組み実績の内容と進捗状況
2. 水・食料の備蓄について
3. 自主防災組織の現状や支援について
4. 家屋倒壊、火災などの対策について
5. 避難について
6. 災害時避難行動要支援者の支援について

について議論を行った。

各市町とも、愛媛県の南海トラフ巨大地震の被害想定を受けて、地域防災計画の見直しを行っており、水・食糧については自治体でまかなうことは財政的に厳しく、住民への備えの周知の徹底を確認した。

また、どの市町も空き家が増え、老朽化した建物が倒壊する恐れもあり、避難経路の安全性を高めるための対策が課題であることを確認した。災害時避難行動要支援者については、少子高齢化の下、個別支援者が不足していることも大きな課題であるとの報告があった。今後も、各市町の取り組みについて情報共有が必要であることを確認した。

日 時：平成26年8月12日(水) 10:00~11:30

場 所：愛媛大学社会連携推進機構2階 研修室

参加者：27名

プログラム：

(10:00~10:40) 自治体業務継続研究会・防災GIS研究会 合同協議会

(11:50~11:30) 避難問題研究会・自主防災研究会・防災教育研究会 合同研究会

2.4.3 愛媛地域防災力研究連携協議会 規約

(名称)

第1条 この協議会は、愛媛地域防災力研究連携協議会（以下「本協議会」という）と称する。

(目的)

第2条 本協議会は、愛媛大学防災情報研究センター、愛媛県、愛媛県教育委員会、愛媛県内市町が連携し、国の機関の協力を得ながら、地域防災力に関する調査・研究、情報交換を行うことをもって、愛媛県における地域防災力の向上に寄与することを目的とする。

(構成)

第3条 本協議会は、別表-1に掲げる委員をもって構成する。

2 本協議会には、会長および副会長2名を置く。

3 会長および副会長の任期は、3年とする。

(選任)

第4条 会長は、愛媛大学防災情報研究センター長をもって充てる。

2 副会長は、別表-1の第4号委員の中から会長が指名する。

(職務)

第5条 会長は、本協議会を代表して会務を処理する。

2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があった場合、会長に代わり会務を処理する。

(招集)

第6条 本協議会は、会長が招集する。

(研究会)

第7条 地域防災力向上の課題を解決するため、調査・研究・情報交換活動を行う別表-2に掲げる研究会を設置する。

2 研究会は、委員の推薦する者で構成する。

3 研究会の活動期間は、3年とする。ただし、継続を妨げない。

(えひめ防災フォーラム)

第8条 県民の防災意識の啓発ならびに研究会活動の成果報告のため「えひめ防災フォーラム」を毎年8月下旬に開催する。

(事務局)

第9条 事務局を、愛媛大学防災情報研究センター内に置く。

別表-1

第1号委員（大学関係）

愛媛大学防災情報研究センター長

第2号委員（国関係）

国土交通省四国地方整備局企画部長、気象庁松山地方気象台長

第3号委員（県関係）

愛媛県民環境部長，愛媛県土木部長，愛媛県教育委員会副教育長

第4号委員（市町関係）

松山市長，今治市長，宇和島市長，八幡浜市長，新居浜市長，西条市長，大洲市長，伊予市長，
四国中央市長，西予市長，東温市長，上島町長，久万高原町長，松前町長，砥部町長，内子町長，
伊方町長，松野町長，鬼北町長，愛南町長

別表-2

避難問題研究会，自主防災研究会，防災教育研究会，自治体業務継続計画研究会，防災GIS研究会

2.5 災害現地調査・調査報告会

2.5.1 広島土砂災害の調査報告会

愛媛大学防災情報研究センターにて、平成26年9月10日(水)、関係者の関心の高い中、広島土砂災害の調査報告会を終えました。行政関係者、自主防災会、企業関係者、および報道関係者の方々など、75名の参加がありました。参加者の皆様にはお忙しいところ集まっていただき、誠にありがとうございました。

近年は、異常気象で豪雨、竜巻、落雷など従来型の自然災害と比べると被災規模が格段に大きなものとなっています。このような豪雨災害は全国的な広がりを見せておりますが、四国に目を向けますと、8月に入ってからの徳島県での台風11号による豪雨災害、高知県での台風12号、11号による総雨量2000mmを超える豪雨災害が生じております。

広島土砂災害は、その後、まさに息つく暇もなく8月20日に発生し、死者73名、行方不明者1名(9月10日時点)の人的被害が生じております。この度の調査報告会は、当センターで8月27日の視察を行い、専門家・研究者7人で30日、31日の2日間行いました調査結果に基づいております。矢田部龍一センター長の開会挨拶ではじまり、下記のプログラムで講演を行いました。

防災情報研究センターでは、今後とも自然災害に対して誠実に向き合い、適確な調査、解析を行い、社会に還元できる手法・工法などを提言して行きたいと考えております。

主 催：愛媛大学防災情報研究センター、四国5大学連携防災・減災教育研究協議会

共 催：土木学会四国支部四国地域緊急災害調査委員会、地盤工学会四国支部

日 時：平成26年9月10日(水) 13:15～(受付12:45～)

場 所：愛媛大学社会連携推進機構2階 研修室

プログラム：

開会挨拶	愛媛大学防災情報研究センター長 矢田部 龍一
広島土砂災害の調査概要と今後の活動方針	愛媛大学防災情報研究センター 教授 廣田 清治
土石流の土量と被害-広島と愛媛の土石流災害比較-	
	日本技術士会四国支部副支部長 須賀 幸一 氏
土石流災害と被災家屋ダメージの範囲	香川大学工学部 准教授 野々村 敦子 氏
丹波豪雨災害と広島土砂災害の比較	愛媛大学大学院理工学研究科 准教授 森 伸一郎
3種類の土砂災害を同列に扱うべきか？	香川大学工学部 教授 長谷川 修一 氏
閉会挨拶	愛媛大学大学院理工学研究科 准教授 森 伸一郎



廣田教授の講演



広島土砂災害現場

2.5.2 四国地方12月豪雪災害対策と長野県神城断層地震被害調査報告

愛媛大学防災情報研究センターは、平成27年1月16日（金）14時から愛媛大学社会連携推進機構2階研修室において、四国地方12月豪雪災害対策と長野県神城断層地震被害調査の報告会を開催し、自治体職員、建設業関係者等会社員、学生ら約40名の参加がありました。

開催に先立ち、愛媛大学防災情報研究センター長から開会の挨拶があり、引き続き、国土交通省四国



森准教授の講演

地方整備局・林重延総括防災調整官から、「四国地方の平成26年12月5日からの大雪における雪害対策」と題した講演をいただき、12月5日にゲリラ豪雪が発生し、徳島県西部の一部に孤立した地域が発生、また平成26年11月に改正された災害対策基本法を初めて適用し、運転手の同意なく、重機を用いて車を動かし、放置車両や立ち往生車両の移動を行ったとの説明があり、小型の除雪車を四国でも何台か保有する必要があると訴えました。

また、愛媛大学大学院理工学研究科森伸一郎准教授から「2014年長野県神城断層地震の被害調査」報告があり、長野県北部で昨年発生した最大震度6弱を

記録した地域において、限定的であるが強烈にゆれた場所があったことから、今後ゆれやすさマップを作成する必要があること、断層変異による構造物被害の現状や災害直後の救援活動とその時の共助により、死者が0であったことなどの報告がありました。

参加者は講演に熱心に耳を傾け、今後の防災対策に対して、大いに参考になったことと思います。

主 催：愛媛大学防災情報研究センター

共 催：国土交通省四国地方整備局

日 時：平成27年1月16日(金) 14:00～15:30

会 場：愛媛大学社会連携推進機構 2階 研修室

内 容：

1. 四国地方の平成 26 年 12 月 5 日からの大雪における雪害対策
国土交通省四国地方整備局 総括防災調整官 林 重延 氏
2. 2014 年長野県神城断層地震の被害調査報告
愛媛大学大学院理工学研究科 准教授 森 伸一郎

2.6 四国防災八十八話研究会

愛媛大学防災情報研究センターは、愛南町ならびに愛南町教育委員会と連携して、四国防災八十八話感想文コンクール表彰式及び作品発表会を、平成26年3月7日に御荘文化センターで開催しました。

厳正な審査の上、小学校の部では最優秀賞1編、優秀賞2編の3編が、中学校の部では最優秀賞1編、優秀賞2編の3編が表彰されました。受賞した児童生徒は、それぞれの作文を、保護者などの多くの参加者を前に堂々と発表しました。この子供たちが地域の将来を担う人材となり、地域防災の柱になってくれる日も近いことと期待されます。

平成26年度の入賞者は下記のとおりです。

最優秀賞	小学校の部	愛南町立福浦小学校	4年	川崎	蒼士
	中学校の部	愛南町立一本松中学校	1年	宮本	武尊
優秀賞	小学校の部	愛南町立平城小学校	5年	清水	美紗
		愛南町立一本松小学校	5年	宮崎	孝太郎
	中学校の部	愛南町立一本松中学校	3年	宮本	瑠奈
		愛南町立御荘中学校	1年	岡田	佳弥

入賞作品は、(<http://cdmir.jp/download/>) にアップしています。

2.7 アーバンデザイン研究部門

防災情報研究センターでは、松山市都市再生協議会からの寄附を受けて、平成26年度から3年間の予定で「アーバンデザイン研究部門」を設置しました。主な活動は、下記のとおりです。詳しくは、別冊「松山アーバンデザインセンター平成26年度年報」をご覧ください。

- 2014.5.8：一番町大街道口景観整備実施設計他業務委託選考委員会に参加（松山市役所）
- 2014.5.9：アーバンデザイン講演会（愛媛大学南加記念ホール）
- 2014.5.14：市役所幹部へのUDCM事業説明（松山市役所）
- 2014.5.17：第一回道後温泉活性化懇談会に出席（椿の湯）
- 2014.5.20：第三回松山市都市再生協議会に出席（松山市役所）
- 2014.5.20：松山市賑わい再生社会実験業務委託選考委員会に参加（松山市役所）
- 2014.6.18：松山青年会議所理事長対談（松山青年会議所）
- 2014.7.11：松山銀天街L字地区賑わい再生推進本部会合に参加（松山銀天街商店街組合事務所）
- 2014.7.15：第二回道後温泉活性化懇談会に出席（椿の湯）
- 2014.7.15：松山銀天街L字地区賑わい再生推進本部会合にて、L字地区の方向性をアドバイス（組合事務所）
- 2014.7.25：第一回一番町大街道口景観整備専門部会に出席（松山市役所）
- 2014.7.26：風景づくり夏の学校 課題説明会を開催（東京大学）
- 2014.7.29：風景づくり夏の学校 現地説明会を開催（道後地区ほか）
- 2014.7.29：東京大学復興デザイン研究体セミナーにて講演（メルパルク広島）
- 2014.7.31：松山銀天街L字地区賑わい再生推進本部戦略会議にて、調査方向性をアドバイス（組合事務所）
- 2014.8.1：松山商工会議所地域開発委員会にて講演（松山商工会議所）
- 2014.8.27：第二回一番町大街道口景観整備専門部会に出席（松山市役所）
- 2014.9.2：松山銀天街L字地区賑わい再生推進本部戦略会議にて、コンセプトについてアドバイス（組合事務所）
- 2014.9.19・20：風景づくり夏の学校（道後地区および愛媛大学南加ホール）
- 2014.10.6：第四回松山市都市再生協議会に出席（松山市役所）
- 2014.10.16：第三回一番町大街道口景観整備専門部会に出席（松山市役所）
- 2014.10.22：路面電車を主とした公共交通利便性向上検討業務委託選考委員会に出席（松山市役所）
- 2014.10.28：松山銀天街L字地区賑わい再生推進本部戦略会議にて、配置計画についてアドバイス（組合事務所）
- 2014.11.1：まちなかひろば及びUDCM拠点施設オープン、オープニングフォーラム（UDCM、坂の上の雲ミュージアム）
- 2014.11.21・29：アーバンデザインスクール（第1回、第2回）（UDCM）
- 2014.11.27：道後活性化まちづくり勉強会（道後商店街主催）にてアドバイス、アンケート調査実施（道後地区）

2014.12.1 : UDCK・UDCY・立命館大学他による UDCM 視察 (UDCM)

2014.12.2 : 松山銀天街L字地区賑わい再生推進本部戦略会議にて、海外調査報告 (組合事務所)

2014.12.3 : 風景づくり夏の学校 かるたワークショップ (道後地区ほか)

2014.12.3 : 第1回アーバンデザイン研究会を開催 (UDCM)

2014.12.5 : アーバンデザインスクール (第3回) (UDCM)

2014.12.13 : 工作+DIYワークショップ (UDCM、みんなのひろば)

2014.12.19 : アーバンデザインスクール (第4回) (UDCM)

2015.1.9・17・23 : アーバンデザインスクール (第5回, 第6回, 第7回) (UDCM)

2015.1.15 : 愛媛大学工学部若手勉強会にて研究発表 (愛媛大学)

2015.1.22 : 道後活性化まちづくり勉強会 (道後商店街主催) にてアドバイス, アンケート調査結果報告 (道後地区)

2015.1.27 : 松山銀天街L字地区賑わい再生推進本部戦略会議にて、配置計画についてアドバイス (組合事務所)

2015.1.29 : 松山駅周辺景観計画等策定基礎調査業務委託選考委員会 (松山市役所)

2015.1.29 : 松山駅周辺拠点街区に関する整備計画調査検討業務委託選考委員会 (松山市役所)

2015.1.31 : 第2回アーバンデザイン研究会を開催 (東京大学)

2015.2.2 : 公共施設マネジメントセミナーにて講演 (全日空ホテル)

2015.2.6・7 : アーバンデザインスクール (第8回) (UDCM)

2015.2.7 : 第四回道後温泉活性化懇談会に出席 (椿の湯)

2015.2.9 : 自転車シンポジウム in 松山に参加 (愛媛大学南加ホール)

2015.2.13 : 第四回一番町大街道口景観整備専門部会 (松山市役所)

2015.2.18 : 全日本建設技術講演会にて講演 (松山市役所)

2015.2.24 : アーバンデザインスクール (第9回) (UDCM)

2015.2.26 : 道後活性化まちづくり勉強会 (道後商店街主催) にてアドバイス, 再開発事例紹介 (道後地区)

2015.3.5 : アーバンデザインスクール (第10回) (UDCM)

2015.3.7 : 全国UDCフォーラムにて講演 (UDCK 柏の葉)

2015.3.11 : 愛媛県庁21世紀研究会にて講演 (愛媛県庁)

2015.3.20 : アーバンデザインスクール (第11回) (UDCM)

2015.3.21・22 : 道後源泉クイズ&ウォークを開催 (道後地区)

2015.3.23 : 松山アーバンデザインビジョン研究会を開催 (UDCM)

2015.3.25 : 第五回松山市都市再生協議会に出席 (松山市役所)

2015.3.26 : 第五回道後温泉活性化懇談会に出席 (椿の湯), 道後活性化まちづくり勉強会 (道後商店街主催) にてアドバイス (道後地区)

2015.3.27 : 風景づくり夏の学校 成果報告+座談会を開催 (坂の上の雲ミュージアム)

2.8 社会基盤メンテナンスエキスパート（ME）養成講座

岐阜，長崎で始動した ME 養成の取り組みを，愛媛にも発展させることを目的に，平成 25 年度には試行講座を，平成 26 年度には 10 日間の本格講座を実施しました。

講師による講義，演習，現地実習からなる効果的なカリキュラムの進行により，受講生のスキルがアップするとともに，官民入り混じった多様な所属の技術者が同じ講義を受けることで，受講生の間に連帯感が生まれ，人的ネットワークが強い絆で結びつけられていく様子が見て取れました。

今後は，講義の充実を図るとともに，受講生同士はもとより，講師をも含めた ME の輪が広がることに期待しています。

【実施スケジュール】

受講申請書受付

期間：平成 26 年 9 月 16 日（火）～平成 26 年 9 月 30 日（火）

ME 養成講座（前期 5 日間，後期 5 日間の合計 10 日間）

【前期日程】平成 26 年 10 月 27 日（月）～平成 26 年 10 月 31 日（金）

【後期日程】平成 26 年 11 月 17 日（月）～平成 26 年 11 月 21 日（金）

ME 認定試験

期日：平成 26 年 12 月 12 日（金） 筆記試験（180 分）

期日：平成 26 年 12 月 19 日（金） プレゼンテーション試験（発表 7 分，質疑 8 分）

ME シンポジウム & ME 認定書授与式

期日：平成 27 年 1 月 9 日（金）

場所：愛媛大学 南加記念ホール

参加者：139 名

【協議会等の開催状況】

9 月 12 日	第 1 回愛媛社会基盤メンテナンス推進協議会
10 月 2 日	社会基盤メンテナンス（ME）養成講座 受講生申込審査
12 月 2 日	第 2 回愛媛社会基盤メンテナンス推進協議会
12 月 2 日	第 1 回社会基盤メンテナンスエキスパート審査委員会
12 月 19 日	第 2 回社会基盤メンテナンスエキスパート審査委員会
12 月 19 日	第 3 回愛媛社会基盤メンテナンス推進協議会

表 1. 平成 26 年度社会基盤メンテナンスエキスパート (ME) 養成講座一覧表.

	1 時限目 (8:30~10:00)	2 時限目 (10:20~11:50)	3 時限目 (12:40~14:10)	4 時限目 (14:30~16:00)	5 時限目 (16:20~17:50)
1 日目	ガイダンス	社会資本と アセットマネジメント	道路法の改正と 道路保全	アセットマネジメント概論 (構造物全般)	アセットマネジメント概論 (構造物全般)
2 日目	ライフサイクルコスト概論 (構造物全般)	演習 ライフサイクルコスト概論	上下水道の維持管理	フィールドワーク 下水道の維持管理	ワークショップ (質疑 応答、レポート作成)
3 日目	リスクマネジメント概論	橋梁構造物の設計と 維持管理	橋梁の劣化予測・評価手 法の現状と使い方	演習 橋梁の劣化予測・ 評価手法の現状と使い方	ワークショップ (質疑 応答、レポート作成)
4 日目	橋梁の耐震補強	橋梁の補修設計	コンクリート橋の 損傷と対策	鋼橋の損傷と対策	ワークショップ (質疑 応答、レポート作成)
5 日目	橋梁の点検手法	橋梁の維持管理 (現場説明有り)	フィールドワーク 橋梁の維持管理		ワークショップ (質疑 応答、レポート作成)
6 日目	健全度評価手法 (土構造物)	土構造物の 設計と浸透	斜面・構造物の 維持管理	演習斜面・構造物の 維持管理	ワークショップ (質疑 応答、レポート作成)
7 日目	擁壁の設計と 維持管理	演習 擁壁の設計と 維持管理	フィールドワーク 擁壁・斜面の維持管理		擁壁・斜面の 維持管理 まとめ
8 日目	河川の維持管理	河川構造物の維持管理	トンネルの維持管理	フィールドワーク トンネルの維持管理 (トンネルの維持管理 まとめ)	
9 日目	舗装の設計と維持管理	洪水被害の概要と対策	土砂災害の概要と対策	演習洪水被害・土砂災害の予測と対策	
10 日目	地震発生による 被害と対策	津波発生と被害想定	演習地震災害の ソフト対策	ワークショップ (ME認定試験について)	閉講式

※最終日の閉講式で修了証を授与

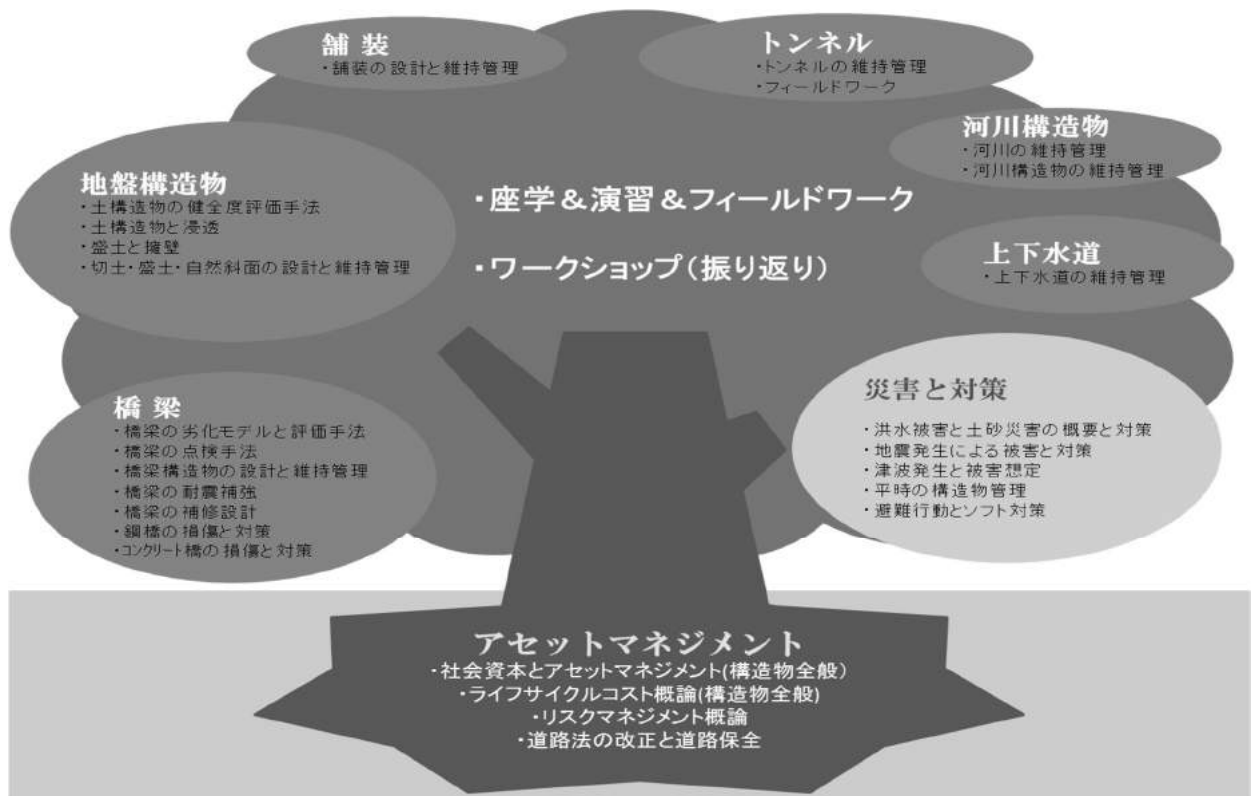


図 1. 社会基盤メンテナンスエキスパート養成講座科目構成関係イメージ図

表 2. 講座の実施状況



講義の様子（1日目）



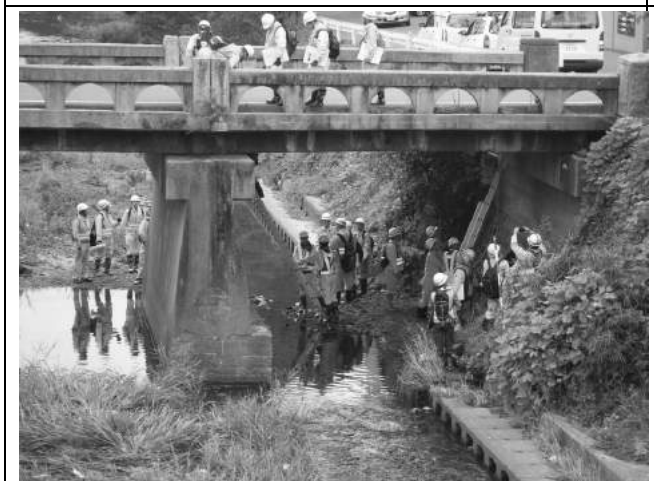
ワークショップの様子（1日目）



フィールドワークの様子（2日目）



講義の様子（4日目）



フィールドワークの様子（5日目）



フィールドワークの様子（8日目）

愛媛大学・社会基盤メンテナンスエキスパート（ME）養成講座シンポジウム
－愛媛と四国の社会基盤を維持管理する技術者人材育成プロジェクト－

■日時：2015年1月9日（金）14:30～16:40

■場所：愛媛大学城北キャンパス内 南加記念ホール

■プログラム

- 14:00～ 受付
- 14:30～14:35 開会挨拶
愛媛大学防災情報研究センター長 矢田部 龍一
- 14:35～15:05 講演「インフラ維持管理をめぐる国土交通省の最近の取り組み」
国土交通省総合政策局事業総括調整官 佐藤 寿延 氏
- 15:05～15:30 講演「愛媛県社会基盤の現状と今後の取り組みについて」
愛媛県土木部技術監 溝口 宏樹 氏
- 15:30～15:45 講演「愛媛と四国のインフラを守る人材育成講座について」
愛媛大学工学部環境建設工学科長 森脇 亮
- 15:45～15:55 講演「ME養成講座を終えての感想」
株式会社芙蓉コンサルタント常務取締役
(ME養成講座講師) 須賀 幸一 氏
- 15:55～16:15 社会基盤メンテナンスエキスパート（ME）認定証授与式
- 16:15～16:35 発表「ME養成講座で得た成果」 (ME代表)
- 16:35～16:40 閉会挨拶 国土交通省四国地方整備局企画部長 石井 一生 氏

(司会：愛媛大学防災情報研究センター 副センター長 竹田正彦)

主催：愛媛大学防災情報研究センター，愛媛社会基盤メンテナンス推進協議会

共催：愛媛大学工学部環境建設工学科

参加者数：139名



図2. シンポジウムでの発表の一部（右端写真はME認定者による発表風景）



図 3. ME 認定証授与と会場の様子（矢田部センター長から各々ME 認定者に手渡される）



図 4. 受講生 26 名とスタッフ

社会基盤メンテナンスエキスパート（ME）養成講座の目的と意義

養成講座は、あらたな社会基盤の整備，既存社会基盤の維持管理・補修の計画・設計・実施技術を習得し，地域の活性化に貢献できる人材としての社会基盤メンテナンスエキスパート（ME）を育成することを目的としています。

我が国では，経済成長とともに道路を中心とした多くの社会基盤の整備がなされてきましたが，これらの構造物は劣化が促進される傾向にあります。そして，少子高齢化に伴い新たな社会基盤の整備，および維持・管理に携わる技術者が不足傾向にあり，行政と業界双方の技術力を向上させる取り組みが必要不可欠な課題としてあります。このような状況下で，社会基盤の構造物の長寿命化を図るなど国の施策として求められており，構造物等の劣化状態を適確に診断し対処できる技術者を育成することは，地域を含め，これからの我が国土を守るためにも非常に意義のあることです。

【愛媛社会基盤メンテナンス推進協議会】

愛媛大学 防災情報研究センター/工学部環境建設工学科
国土交通省 四国地方整備局 企画部/松山河川国道事務所
愛媛県 土木部 管理局 技術企画室
松山市役所 都市整備部道路管理課/下水道部下水道政策課
松山市役所 下水道部下水道サービス課/公営企業局建設整備課
今治市役所 都市建設部 道路課
宇和島市役所 建設部 建設課
八幡浜市役所 産業建設部 建設課
新居浜市役所 建設部 道路課
西条市役所 建設部 建設道路課
大洲市役所 建設部 建設課
伊予市役所 産業建設部 土木管理課
四国中央市役所 建設課
西予市役所 産業建設部 建設課
東温市役所 まちづくり課
上島町役場 建設課
久万高原町役場 建設課 公共土木班
松前町役場 まちづくり課
砥部町役場 建設課
内子町役場 建設デザイン課
伊方町役場 建設課
松野町役場 建設課
鬼北町役場 建設課
愛南町役場 建設課
西日本高速道路（株）四国支社
（一社）愛媛県建設業協会
愛媛県土木施工管理技士会
（一社）建設コンサルタント協会四国支部
（一社）愛媛県測量設計業協会
（一社）全国地質調査業協会連合会 四国地質調査業協会愛媛支部
愛媛県管工事協同組合連合会
（一社）全国特定法面保護協会 四国地方支部 愛媛県事務所
愛媛県法面工事業協同組合
特定非営利活動法人 愛媛県建設技術支援センター

2.9 西日本高速道路（株）四国支社との平成 26 年度連携推進会議

日 時： 平成 27 年 3 月 12 日（木）15 時 00 分～17 時 30 分

場 所： 愛媛大学校友会館 2 階サロン

出席者： 委員（愛媛大学 3 名，西日本高速道路（株）6 名）

陪席（愛媛大学 6 名，西日本高速道路（株）7 名）

1. 研究連携課題の状況報告について

本年度の NEXCO 西日本四国支社との共同研究として、高速道路における事故発生リスク要因の分析、およびその認知状況に関する分析の進捗報告を行った。前者については、事故リスクが高い区間を対象に、プローブカーデータを用いた車両走行挙動と事故リスクの関係分析を行い、一般車両と貨物車等の商用車との間に速度差が生ずる区間において事故リスクが高いとの分析結果を報告した。

また、後者については、一般ドライバーを対象にアンケート調査を実施した結果、一般道路よりも高速道路のほうが事故リスクが高いとの思い込みをしている人が約 2 割程度存在すること等を報告した。

①高速道路盛土地盤への液状化対策「空気注入工法の野外実験」最終報告

内田 純二 技術計画課調査役

②LED トンネル照明器具の付加価値検討

エンジ四国事業推進部 木村 正義 副部長

③耐候性鋼橋梁の維持管理（補修塗装）に関する研究【中間報告】

エンジ四国調査設計部 古川 清司 部長

④高速道路の事故発生リスクに関する研究

愛媛大学理工学研究科生産環境工学専攻 倉内 慎也 准教授

2. 話題提供

NEXCO 西日本四国支社では四国内すべての高速道路に関係し多くの切土法面が対策管理されている。地質帯にもよりますが、切土法面は多くの場合膨潤性粘土鉱物を含む粘土シームの存在が原因で安定性を失う。これは主に切土に伴う応力解放が原因であるが、現在これらの法面の多くはアンカー打設法を用いて対策されているが、長期的に考えれば応力緩和に伴い法面が不安定化する可能性は十分にある。そこで、高速道路の重要性を考え切土法面の安定性を確保するために、特に膨潤性粘土鉱物を含む粘土シームが存在する切土法面を調査、安定性評価、そして対策工の見直しなどを行っていく必要がある。

本話題提供では、上記内容を中心に化学物質注入による膨潤性粘土鉱物を含む粘性土の強度増加に関する力学・鉱物学的研究が紹介された。

①西日本高速道路株式会社四国支社

「台風 12 号・11 号による災害報告」

内田 純二 技術計画課調査役

「道路構築物の健全度評価について」

大蔵 崇 技術計画課長代理

②愛媛大学

「津波・水災害を想定した高速道路避難場所の有効性に関するシミュレータの開発」

愛媛大学防災情報研究センター 二神 透 准教授

NEXCO 西日本が洪水時が津波時に高速道路を避難場所として活用するためには、住民とともにシミュレーターを使って安全に避難できるかの確認（コミュニケーション）が必要であるとの話題提供を行った。

「粘土鉱物分析による切土のり面の崩壊検討」

愛媛大学理工学研究科生産環境工学専攻 NETRA Prakash Bhandary 助教



矢田部センター長挨拶



ネトラ助教の講演

2.10 「実践的學生防災リーダー育成プログラム」導入に伴う愛媛大学と松山市の合同記者発表

愛媛大学と松山市は、平成27年4月入学の1年生から、地域防災リーダーとなる学生を育成するプログラムを連携して導入することになりました。松山市消防局や危機管理担当部の職員らも講義を担当し、受講した学生が防災士の資格を取得するなど実践的な内容で、地域防災の中核となる人材を育成していきたいと考えています。

日 時： 平成27年3月30日（月）11：20～11：45

場 所： 愛媛大学本部棟5階第一会議室

参加者： 愛媛大学5名、松山市5名

プログラム：

挨拶

松山市長 野志 克仁 氏

愛媛大学長 柳澤 康信

松山市の防災・減災への取組について

松山市消防局長 芳野 浩三 氏

愛媛大学実践的學生防災リーダー育成プログラムについて

愛媛大学理事・副学長 矢田部 龍一

質疑応答



記者会見風景

2.11 その他の講演会等

2.11.1 四国災害アーカイブス記念講演会及び東南海・南海地震対策に関する調査研究報告会

一般社団法人四国クリエイト協会より平成22年10月1日～平成26年3月31日の間、標記の寄附講座を受け入れて、東南海・南海地震研究に取り組んできました。また、一般社団法人四国クリエイト協会は平成22年より四国災害アーカイブスの構築に取り組み、平成26年4月7日に本格運用に漕ぎつけました。これらの成果の普及を図るために、合同講演会の開催を企画しました。

合同講演会は平成26年4月21日（月）に、120名の参加を得て、松山全日空ホテルにて開催しました。報告会では、一般社団法人四国クリエイト協会の福田昌史理事長と愛媛大学の柳澤康信学長の挨拶に続いて、まず、四国災害アーカイブス事業検討委員会の村上仁士委員長が四国災害アーカイブス事業の概要を説明しました。四国災害アーカイブスは、平成26年4月7日から9種類の災害情報約2万8千件をインターネットで公開しています。そして、部分運用を開始した平成24年7月から平成26年3月までのアクセス件数は4万5千件を超えています。その後、愛媛県県民環境部防災局危機管理監の薬師寺隆彦氏が愛媛県の防災・減災への取り組みについて講演しました。

寄附講座の研究成果に関しては、愛媛大学防災情報研究センター教員が、避難問題研究、自主防災研究、自治体業務継続研究、防災教育研究、防災GIS研究の5つの研究課題に関して分かりやすく報告しました。また、公共事業執行システム改革の道筋と法案提出に漕ぎつけるまでの取り組みも報告しました。

南海トラフ巨大地震は、四国地域が一体となって取り組まなければならない最大の課題の一つです。今回の合同報告会の開催は、地域防災力の向上を目指すために、過去の災害の歴史を学び、自分の住む地域の弱点を再確認する必要があることを認識する良い機会となったことと思います。

主 催：一般社団法人四国クリエイト協会、愛媛大学防災情報研究センター

共 催：国土交通省四国地方整備局、愛媛県、（公社）土木学会四国支部

後 援：NHK松山放送局、南海放送、テレビ愛媛、あいテレビ、愛媛朝日テレビ、
愛媛新聞社

日 時：平成26年4月21日（月）13：30～16：30

場 所：松山全日空ホテル

参加者：120名

プログラム：

開会挨拶 一般社団法人四国クリエイト協会理事長 福田 昌史 氏
国立大学法人愛媛大学長 柳澤 康信

四国災害アーカイブス事業検討委員会の取組概要

徳島大学名誉教授 四国災害アーカイブス事業検討委員会委員長 村上 仁士 氏

特別講演

「愛媛県の防災・減災への取り組み」 愛媛県県民環境部防災局危機管理監 薬師寺 隆彦 氏
寄附講座・成果報告

「東南海・南海地震防災対策に関する調査研究報告」

(1) 四国災害アーカイブスの活用と東南海・南海地震への備え

愛媛大学理事・副学長，防災情報研究センター長 矢田部 龍一

(2) 調査研究4年間（42カ月）の取り組み

愛媛大学防災情報研究センター副センター長 高橋 治郎

愛媛大学防災情報研究センター副センター長 竹田 正彦

愛媛大学防災情報研究センター准教授 二神 透

元 愛媛大学防災情報研究センター准教授 村岡 治道 氏

(3) 公共事業執行システム改革の道筋～迫り来る巨大災害に備えて～

元 愛媛大学防災情報研究センター教授 木下 誠也 氏



矢田部センター長の講演



会場風景

2.11.2 第1回松山アーバンデザイン講演会

松山市都市再生協議会からの寄附を受けて、平成26年4月から3年間の予定で「アーバンデザイン研究部門」を設置しました。この設置を記念して、平成26年5月9日（金）に南加記念ホールで、200人を超える参加者を得て下記の講演会を開催しました。

講演では、矢田部龍一防災情報研究センター長，遠藤美武松山市副市長の挨拶の後，松本啓治防災情報研究センター教授が坂の上の雲のまちづくりの概要と今後の松山市のまちづくり構想を，新階寛恭防災情報研究センター副センター長が全国のまちづくりにおける最近の特徴的な事例を報告しました。何れの講演も豊富な経験に裏打ちされた説得力のあるものであり，今後松山市のまちづくりに大いに力を振るってくれることを期待させるものとなりました。

また，遠藤松山市副市長をはじめとして，松山市のまちづくりに係わる60人を超える職員が参加したことにより，愛媛大学と松山市の今後の連携を深める良い機会となりました。

主 催：愛媛大学防災情報研究センター

共 催：松山市

日 時：平成 26 年 5 月 9 日（金） 14:30～16:00

会 場：愛媛大学南加記念ホール

参加者：206 名

プログラム：

- 14:30 開会挨拶 愛媛大学防災情報研究センター長 矢田部 龍一
開会挨拶 松山市副市長 遠藤 美武 氏
- 14:45 「松山市が進めてきた『坂の上の雲』のまちづくり」
愛媛大学防災情報研究センター アーバンデザイン研究部門 教授 松本 啓治
- 15:20 「全国の中での特徴的なまちづくり」
愛媛大学防災情報研究センター副センター長
アーバンデザイン研究部門 教授 新階 寛恭
- 15:55 閉会挨拶 愛媛大学防災情報研究センター副センター長 竹田 正彦

2.11.3 公共調達に係る記念講演

7月8日（火）15時から愛媛大学南加記念ホールにおいて、品確法等が改正されて間もないこの時期に、日本大学生産工学部土木工学科・木下教授をお招きして記念講演を開催いたしました。台風8号が接近しつつある天候の中、126名もの多数の参加を頂きましたことに感謝申し上げます。

開催に先立ち、愛媛大学防災情報研究センター竹田副センター長及び一般社団法人四国クリエイト協会・福田理事長から、開会の挨拶がありました。

引き続き、国土交通省四国地方整備局・近藤技術調整管理官より、「品確法改正の概要について」と題した講演で、分かりやすく詳細なパワーポイントを用いて、総合評価方式の説明がなされました。また、法改正の理念を現場で実現するためには、国と地方公共団体が相互に緊密な連携を図りながら協力することの大切さや、国が地方公共団体、事業者等の意見を聞いて、発注者共通の運用指針を策定することが重要であると解説されました。

次に、今年3月まで愛媛大学の教授として公共調達制度について国内外の視点から研究に取り組み、その成果が高く評価され平成25年度土木学会賞論文賞を受賞された、愛媛大学防災情報研究センター木下客員教授から、「海外との比較によるわが国公共調達制度の道筋」と題した講演で、公共工事調達方式の変遷や入札契約制度を海外と比較について分かりやすく解説されました。また、品確法改正の経緯や、裁量の幅が広い交渉付き競争方式も紹介されました。

参加者は講演に熱心に耳を傾け、今後の業務の展開に対して、大いに参考になったことと思います。

主 催：愛媛大学防災情報研究センター

共 催：国土交通省四国地方整備局，一般社団法人四国クリエイト協会

日 時：平成 26 年 7 月 8 日（火） 15：00～17：00

場 所：愛媛大学南加記念ホール

参加者：126名

プログラム：

開会挨拶

愛媛大学防災情報研究センター副センター長 竹田 正彦

一般社団法人四国クリエイト協会理事長 福田 昌史 氏

講演

「品確法改正の概要について」 国土交通省四国地方整備局技術調整管理官 近藤 秀樹 氏

「海外との比較によるわが国公共調達制度の道筋」

日本大学生産工学部土木工学科教授

愛媛大学防災情報研究センター客員教授 木下 誠也 氏

閉会挨拶

愛媛大学防災情報研究センター副センター長 竹田 正彦



木下客員教授の講演

2.11.4 防災士養成講座

愛媛大学防災情報研究センターは、松山市の協力の下、平成26年8月21日(木)～24日(日)まで、「防災士養成講座」を松山市保健所消防合同庁舎防災センターで開催し、平日(木・金)コースと休日(土・日)コース併せて、自主防災会の皆様、企業関係者、学生など350名の参加がありました。

この講座は、防災に関する正しい知識と技能を持ち、災害時には、自助、共助の中心として地域で活躍できる防災士を養成することを目的としています。

開催に先立ち、愛媛大学防災情報研究センター矢田部龍一センター長から先日の広島豪雨災害において、多数の死者や行方不明者など悲劇的な状況となっており、想像を超えた豪雨は、今後もどこでも起こり得ることです。自分の命は自分で守ることが基本ですが、災害弱者をいかに守るかを含め、災害の危険度を認識できる防災士(地域のリーダー)の役割は重要です。この講座において、防災に関する意識・知識・技能を高めていただき、災害時に活躍できる防災士を目指していただきたいとのあいさつがありました。また、講座の途中で野志松山市長が激励のあいさつに来ていただき、東日本大震災時のご自身

の経験から、命の大切さと防災士の役割の重要について説明され、参加者全員が防災士の資格を取得し、地域における防災組織のリーダーとして活躍してほしいとのお話をいただきました。

なお、講座内容は、愛媛大学防災情報研究センターの教員から、近年の自然災害に学ぶ、耐震診断と補強、風水害、土砂災害とその対策、都市防災等についての講義を担当、また松山市職員から防災士の役割、避難所運営、松山市における災害とその対応等の講義及び災害から命を守る救助技術の実技として、ロープワーク、応急担架の作成や搬送方法、倒壊家屋からの救出救護の方法について参加者一人ひとりが技術の習得をされました。最終日、日本防災士機構が実施する防災士の試験を希望された参加者は、緊張の中、真剣に試験問題に取り組んでいました。

来年度も愛媛大学公開講座「防災士養成講座」は、(松山市のご協力をいただき)引き続き実施する予定です。

主 催：愛媛大学防災情報研究センター

日 時：第1回 平成26年8月21日(木)～22日(金)

第2回 平成26年8月23日(土)～24日(日)

場 所：松山市保健所・消防合同庁舎

参加者：350名

講座日程(カリキュラム)：

日程	会場	時 限	時 分	講 義 内 容	講 師	
1 日 目	松山市保健所・消防合同庁舎	趣旨説明 ビデオ上映	9:15～9:30	オリエンテーション		
		1時限目	9:30～10:30	防災士の役割	松山市消防局 芝 大輔 講師	
		2時限目	10:40～11:40	近年の自然災害に学ぶ	愛媛大学 矢田部龍一 講師	
		昼 食(防災ビデオ上映)				
		3時限目	12:40～13:40	耐震診断と補強	愛媛大学 二神 透 講師	
		4時限目	13:50～14:50	風水害、土砂災害とその対策	愛媛大学 竹田 正彦 講師	
		5時限目	15:00～16:00	都市防災	愛媛大学 二神 透 講師	
		6時限目	16:10～17:10	地震のしくみと被害	愛媛大学 二神 透 講師	
			17:10～17:20	事務連絡		

2 日 目	松山市保健所・消防合同庁舎	1時限目	9:30～11:40	災害から命を守る救助技術 実技指導	松山市消防局	
		2時限目				
		昼 食（防災ビデオ上映）				
		3時限目	12:40～13:40	避難所運営	松山市 二宮 達司 講師	
		4時限目	13:50～14:50	地域の防災活動	松山市消防局 渡部 幸雄 講師	
		5時限目	15:00～16:00	地域防災計画と防災マップ	松山市 矢野 秋文 講師	
		6時限目	16:10～17:10	松山市における災害とその対応	松山市 上野 恵 講師	
		日本防災士 機構 主催	17:30～18:30	防災士資格取得試験	NPO法人日本防災士機構が実施する 防災士資格取得試験です。	

※ 第1回・第2回とも講座日程（カリキュラム）は同じです。



授業風景



実技指導

2.11.5 防災教育推進連絡協議会

平成26年度愛媛県教育委員会主催の防災教育推進連絡協議会が、平成26年8月25日（月）久万高原町及び東温市で開催されました。今後12月まで愛媛県内20市町で順次開催され本学防災情報研究センターの教員がアドバイザーとして、各市町の地震被害想定と地域（特に学校、行政、自主防災組織等）連携について、講演を行うとともに学校の管理者との意見交換を行いました。

今年最初に開催した久万高原町における協議会（久万高原町立久万町民館）においては、学校管理者ら 20 名参加しました。まず総務課から地域防災計画，備蓄，避難所運営（マニュアルを含む）の説明



会場風景

があり，参加者から孤立した場合の衛星電話の設置要望や学校が避難所になった場合の責任の所在をはっきりさせてほしい等の意見がありました。本学防災情報研究センター二神准教授から自主防災組織，行政と学校が話し合う機会を設け，お互いの立場で役割を分担することは必要であるが，緊急の場合などマニュアル通り運営できないこともあることから，実態に沿った運用も大切であると説明しました。また地区防災計画について，役割を明確化すること，地域の危険場合（ハザードマップ）を把握すること，防災意識の普及啓発として防災のゲーム（例えばHUGゲーム（愛媛県下6セット所有））や普通行われている行事の中

に防災の視点を加えるなどが大切であることを説明しました。参加した学校関係者は，最近の異常気象により他地域では災害が発生していることから熱心に受講するとともに地域防災力向上及び特に行政との密なる連携の必要性が大切であることを実感する協議会となりました。

2.11.6 国際防災講演会「ネパールの斜面防災の現状と防災組織の役割」

平成 27 年 2 月 16 日（月）に防災情報研究センターにてネパールからの講師を招いて「国際防災講演会」を開催いたしました。防災情報研究センターは現在 6 つの研究部門で構成されており，その一つは「アジア・地域防災情報ネットワーク部門」であるが，アジアの各国との連携を目的に設置したものです。そこで，平成 18 年にネパールヒマラヤにおける防災研究を中心とした活動を展開する目的とネパールの各大学との交流を進めるために愛媛大学カトマンズサテライトオフィスを設置し，それ以来様々な防災教育研究活動を実施しています。ネパールにおける防災教育研究活動はネパールにおける数多くの国際会議や講演会を通じて報告してきましたが，愛媛大学においても数回その報告会を開催しています。今回の「国際防災講演会」もその一環です。



会場風景

講師としてネパール国元文部大臣・現国会議員で，防災情報研究センターの客員研究員の Gangalal Tuladhar 氏と香川大学大学院博士後期課程修了者で，ネパール国立トリブバン大学地質学科准教授，そして防災情報研究センターの客員准教授の RanjanKumar Dahal 博士を招きました。Tuladhar 氏は現在ネパールにおいてヒマラヤ地域の環境と防災を中心に活動を実施している NPO 組織「ヒマラヤ保

全会」の会長もしており、今回「Role of NPOs in Advocating Disaster Management Policies in Nepal ～Case of Himalaya Conservation Group ～」（和訳：ネパールの防災政策主張における NPO の役割 ～ヒマラヤ保全会を例に～）と題した講演をしていただきました。また、Dahal 博士には昨年 8 月に発生した大規模斜面崩壊と地すべりダムに関する内容で、「Hazard Management Perspective of Roadside Landslides in Nepal ～Lessons from the 2014 Jure Landslide Disaster～」(和訳：ネパールの道路沿い地すべり斜面崩壊に対するハザード管理的観点 ～2014 年ジュレ地すべり災害による教訓～)と題した講演をしていただきました。

講演会参加者は 30 名超え、その殆どは愛媛大学にいるネパール、インドネシア、モザンビークなどの留学生でした。学外からも数名の方々に参加いただきました。講演のあと短い時間を設け、各講師が参加者による質問に答え、活発な質疑応答の時間とされました。

開会に先立ち防災情報研究センター矢田部センター長から国際防災講演開催の趣旨とセンターのアジア地域と連携について説明があり、閉会の挨拶は部門長の榊原正幸教授よりいただきました。

主 催：愛媛大学防災情報研究センター

後 援：地盤工学会四国支部愛媛県地盤工学研究会

日 時：平成 27 年 2 月 16 日（月）15:00～17:00

場 所：愛媛大学社会連携推進機構 2 階 研修室

参加者：31 名

プログラム：

開会挨拶 愛媛大学防災情報研究センター長 矢田部 龍一

講演 1 「Hazard Management Perspective of Roadside Landslides in Nepal—Lessons from the 2014 Jure Landslide Disaster—」

ネパール国立トリブバン大学准教授

愛媛大学防災情報研究センター客員准教授 Dr. Ranjan Kumar Dahal

講演 2 「Role of NPOs in Advocating Disaster Management Policies in Nepal—Case of Himalaya Conservation Group —」

ネパール国制憲議会議員・Himalaya Conservation Group 会長

愛媛大学防災情報研究センター客員研究員 Gangalal Tuladhar

閉会挨拶 愛媛大学防災情報研究センター アジア・地域防災情報ネットワーク部門長 榊原 正幸

2.12 防災情報研究センターニュース（メールマガジン）

本年度は、36件のメルマガ配信を行いました。3月末時点の登録者数は、1266名です。
 メールマガジン配信希望の方は、センターHPからお申し込みください。また、バックナンバーも
 センターHPで公開しています。
 防災情報研究センター ホームページ <http://cdmir.jp/>

発行日	号	タイトル
2014.4.1	338	寄附講座「松山アーバンデザイン研究部門」が設置されました
2014.4.18	339	<ご挨拶> 新任挨拶 防災情報研究センター副センター長 新階 寛恭 <ご挨拶> 新任挨拶 防災情報研究センター教授 松本 啓治
2014.4.18	340	<ご案内> 「第1回松山アーバンデザイン講演会」開催のご案内
2014.4.23	341	<ご報告> 愛媛大学防災情報研究センターと一般社団法人四国クリエイティブ協会が 防災に関する合同講演会を開催しました
2014.4.30	342	<ご案内> 愛媛大学防災情報研究センター平成25年度活動報告会を開催します
2014.5.2	343	<ご案内> 災害対応に関するアンケート調査への協力をお願いします
2014.5.13	344	<ご案内> 愛媛大学公開講座「防災士養成講座」を開催します <ご報告> 第1回松山アーバンデザイン講演会を開催しました
2014.5.29	345	<ご案内> 愛媛大学公開講座「防災士養成講座」について
2014.5.30	346	<ご報告> 愛媛大学防災情報研究センター平成25年度活動報告会を開催しました
2014.6.5	347	<開催案内> 「防災キャラバンin 内子」を開催します(6月29日(日))
2014.6.19	348	<速報> 防災士養成講座申込状況
2014.6.20	349	<開催案内> 「公共調達に係る記念講演」を開催します(7月8日(火))
2014.6.24	350	<速報> 防災士養成講座申込状況 その2
2014.6.26	351	<ご案内> えひめ防災フォーラム2014を開催します(8月12日(火))
2014.7.1	352	<ご報告> 「防災キャラバンin 内子」を開催しました(6月29日(日))
2014.7.2	353	<ご案内> 愛媛大学公開講座「防災士養成講座」の追加募集について <ご案内> 愛媛県地盤工学研究会学術講演会開催について
2014.7.11	354	<開催報告> 公共調達に係る記念講演を開催しました
2014.7.24	355	<ご案内> 「えひめ建設BCP研究会」参加企業の募集について
2014.8.4	356	<ご案内> 「ICT利活用による防災・減災シンポジウム」を開催します
2014.8.18	357	<ご案内> 四国巨大災害危機管理フォーラム開催のご案内
2014.8.26	358	<ご報告> 平成26年度愛媛大学公開講座「防災士養成講座」を開催しました
2014.9.1	359	<ご案内> 広島土砂災害の調査報告会を開催します
2014.9.8	360	<ご案内> 道後温泉「U35都市計画・都施設計提案競技」最終審査会を開催します
2014.9.9	361	<ご報告> 四国巨大災害危機管理フォーラムを開催しました
2014.9.11	362	<ご報告> 広島土砂災害の調査報告会を開催しました <ご挨拶> 新任挨拶 防災情報研究センター教授 廣田 清治
2014.9.17	363	<ご案内> 平成26年度社会基盤メンテナンスエキスパート(ME)養成講座の募集について
2014.9.29	364	<ご案内> 社会基盤メンテナンスエキスパート(ME)養成講座への期待
2014.11.17	365	<ご案内> 防災キャラバンin 久万高原町を開催します
2014.11.27	366	<ご案内> 防災キャラバンin 今治市(日高地区)を開催します
2014.12.1	367	<ご報告> 「防災キャラバンin 今治市日高地区」を開催しました
2014.12.24	368	<ご案内> 社会基盤メンテナンスエキスパート(ME)養成講座シンポジウム開催のご案内
2014.12.25	369	<ご案内> 防災講演会「四国地方12月豪雪災害対策と 長野県神城断層地震被害調査報告」開催のご案内
2015.1.16	370	<ご報告> 防災講演会愛媛大学・社会基盤メンテナンスエキスパート(ME) 養成講座シンポジウムを開催しました
2015.1.19	371	<ご報告> 防災講演会「四国地方12月豪雪災害対策と 長野県神城断層地震被害調査報告」を開催しました
2015.1.22	372	<ご案内> 国際防災講演会「ネパールの斜面防災の現状と防災組織の役割」開催について
2015.2.25	373	<ご報告> 愛媛県政発足記念日知事表彰の受賞

3. センターが受け入れた研究活動

3.1 受託研究

(1) 科学的・社会的好奇心を刺激する自発的減災活動の推進

(契約先：文部科学省，研究者：森，契約金額：2,999,939 円)

内容：全国の大学等における理学・工学・社会科学分野の防災研究の成果を一元的に提供するデータベースを構築するとともに大学等の防災研究の成果の展開を図り、地域の防災・減災対策への研究成果の活用を促進する。

(2) 道後温泉活性化基本計画策定業務委託

(契約先：松山市，研究者：新階・松本・片岡，契約金額：9,720,000 円)

内容：平成 26 年度（道後温泉本館改築 120 周年）から、平成 36 年度（改築 130 周年）までの 10 年間にかかる短期・中期・長期の計画として、3 つの重要点整備地区（椿の湯エリア、本館・冠山エリア、上人坂エリア）を中心に、道後温泉地域全体の活性化のための基本計画を策定するものとする。

(3) 平成 26 年度成長分野等における中核的専門人材養成等の戦略的推進

(契約先：文部科学省高等教育局長，研究者：矢田部，契約金額：12,061,079 円)

内容：高度成長期に整備された橋やトンネルといったインフラ（社会資本）の損傷や劣化が、日毎に進んでおり、安全な社会資本整備の重要性が認識されている。しかし、老朽化したインフラが増加する一方で、インフラの維持・再生を担う技術者が不足している課題を解決すべく、昨年度人材育成試行講座を実施した上で、更なる長期的視野に立った、地域の核となる専門家を養成することを目的に、社会基盤（ME）の人材養成講座を開講する。

(4) 平成 26 年度肱川管理方策検討業務

(契約先：大洲河川国道事務所，研究者：門田，契約金額：3,456,000 円)

内容：今後の河川管理の高度化に資するために、洪水中の河床変動をコントロールする方法として、他の河川で有効性が報告されているハイドロバリア水製の、肱川への適用性の概略検討を行う。

(5) 平成 26 年度水域生物を指標とした瀬切れ河川影響評価

(契約先：四国地方整備局，研究者：矢田部，契約金額：2,451,600 円)

内容：瀬切れの期間・区間の拡大が水域に生息する生物にどのような影響をおよぼしているのか調査することを目的としており、瀬切れと河川流量の実態調査及び魚類・底生物等の水域に生息する生物の成育・生息・繁殖環境におよぼす影響に着目し、瀬切れの期間・区間の拡大が魚類等の水域に生息する生物に重大な影響を与えているかを調査検討するものである。

(6) 地下水流動解析調査（重信川中流域）に伴うボーリング調査

（契約先：松山市，研究者：森脇・藤森，契約金額：5,171,364 円）

内容：重信川中流において、3 箇所のボーリング孔と 4 箇所の打込み孔、そして、既存の 1 箇所の観測孔、併せて、計 8 箇所で、1 年間連続した地下水の水位観測等を行い、地下水流動解析調査に必要なデータ収集を行う。

(7) 地下水流動解析調査（重信川中流域）に伴う検証

（契約先：松山市，研究者：小林・泉，契約金額：1,992,751 円）

内容：重信川中流域において、松山市が業務委託で行う解析調査と平行し、流量観測等の補足調査を行うとともに、これらの調査結果を踏まえた検証を行う。

3.2 研究助成金

(1) 津波避難シミュレータの汎用化と提供に関する研究

（契約先：一般社団法人四国クリエイト協会：契約金額：1,000,000 円）

3.3 寄附金

(1) 寄附講座アーバンデザイン研究部門

（契約先：松山市都市再生協議会，助成金額：90,000,000 円）

設置期間：平成 26 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日

(2) その他

(株)愛媛建設コンサルタント,(株)荒谷建設コンサルタント,日本プロテクト(株),
愛媛県建設技術支援センター

4. センター教員による研究・地域貢献活動

矢田部 龍一

社会貢献活動：

1. 2015.1.29 近年の土砂災害を考える、愛媛県砂防協会平成 26 年度砂防講習会、愛媛県美術館講堂、100 名
2. 2015.1.20 四国における総合防災の展開、土木学会四国支部、サンポートホール高松、140 名
3. 2015.1.18 近年の自然災害と防災士の役割、松山市平成 27 年防災シンポジウム、松山市総合コミュニティセンター、1000 名
4. 2014.11.20 近年の自然災害とその教訓について、松山市防災教育連絡協議会、松山市青少年センター、100 名
5. 2014.10.28 最近の災害を踏まえた学校の防災体制及び地域との連携強化について、今治市防災教育連絡協議会、今治市総合福祉センター、50 名
6. 2014.10.10 愛媛での減災への取り組み、土木学会四国支部タスクフォース防災講演会、サンポートホール高松、130 名
7. 2014.9.19 Short introduction of current Japanese geotechnical activities、Taiwan-Japan-USA Joint Workshop on Geotechnical Engineering、国立高雄第一科技大学、60 名
8. 2014.7.31 松山平野の地盤特性と地震時の地盤災害、WASC 基礎地盤研究所、愛媛大学、50 名
9. 2014.7.24 国土強靱化と四国の地すべり対策、平成 26 年度地すべり防止工事士技術講習会、サン・イレブン高松、120 名
10. 2014.7.23 愛媛大学の産学連携による地域活性化への取り組み、愛媛新聞・愛媛ふるさと会、ホテル JAL シティ松山、50 名
11. 2014.6.27 南海トラフ巨大地震と国土強靱化、愛媛県ジオファイバー協会総会特別講演、松山全日空ホテル、30 名
12. 2014.6.18 アベノミクスと国土強靱化、NPO 日本環境土木工業会、ホテルメトロポリタンエドモント、50 名
13. 2014.6.17 地域産業の活性化と愛媛大学社会連携推進機構、愛媛県商工会議所連合会総会特別講演、大和屋ホテル本館、20 名
14. 2014.6.13 企業の震災対策および危機管理について～東予地区における震災対策の要所～、住友金属鉱山株式会社別子事業所管理者研修会特別講演、星越館、150 名
15. 2014.4.21 四国災害アーカイブスの活用と東南海・南海地震への備え、四国建設クリエイト協会寄付講座報告会、松山全日空ホテル、100 名
16. 徳島大学工学部もの作り創造システム工学系建設工学科外部評価会議：委員長
17. 国土交通省四国地方整備局重信川学識者会議：委員
18. 国土交通省四国地方整備局事業評価監視委員会：委員長
19. 国土交通省四国地方整備局重信流域学識者会議：委員
20. 国土交通省四国地方整備局四国地方整備局道路防災有識者
21. 国土交通省四国地方整備局山鳥坂ダム工事事務所鹿野川ダム施工技術向上委員会：委員長

22. 警視庁日野警察署宅地造成等規制法違反鑑定嘱託
23. 愛媛県防災会議：委員
24. 愛媛県環境審議会：副会長
25. 愛媛県環境影響評価審査会：委員
26. 愛媛県教育委員会学校防災アドバイザー
27. 愛媛県建設工事総合評価審査委員会：委員
28. 松山市下水道事業経営審議会：副会長
29. 松山市都市再生協議会：会長
30. 松山市重信川流域地下水保全連絡会：会長
31. 松山市土壌汚染対策専門委員
32. 松山市石手川ダム水源地域ビジョン推進委員会：委員長
33. 松山市石手川ダム水源地域ビジョン推進連絡協議会：会長
34. 四国中央市教育委員会宇摩向山古墳保存管理計画検討委員会：委員
35. 大洲市大洲城跡石垣保存修復委員会：委員
36. 愛南町愛南町防災教育連携協力協議会：副会長
37. 愛南町愛南町防災教育推進懇談会：委員
38. 独立行政法人国際協力機構ハサスディン大学工学部研究・連携基盤強化プロジェクトに係る国内支援委員会：委員
39. えひめ産業振興財団：理事
40. (公財)えひめ地域政策研究センター評議員
41. (一社)日本建設機械施工協会四国支部運営委員
42. 四国地域イノベーション創出協議会 第19回四国産業技術大賞選考審査会：審査員
43. 公益財団法人大亀スポーツ振興財団評議員
44. 特定非営利活動法人愛媛県建設技術支援センター理事
45. NPO 日本環境土木工業会えひめ支部長
46. 財団法人防災研究協会非常勤研究員
47. 西日本高速道路株式会社四国支社入札監視委員会：委員
48. 重信川の自然をはぐくむ会会長
49. 2015.2.20 愛媛県県政発足記念日知事表彰：愛媛県

論文・研究発表：

1. Tuladhar G, Yatabe R, Dahal, RK, Bhandary NP, 2015. Disaster risk reduction knowledge of local people in Nepal, *Geoenvironmental Disasters*, 2(1):1-12, (Online: 2015.2.26; DOI:10.1186/s40677-014-0011-4)
2. Tiwari RC, Bhandary NP, and Yatabe R, 2015. 3-D elasto-plastic spectral element application to evaluate the stability of large-scale landslides, *Geomechanics and Geoengineering: An International Journal*, p.1-19 (Online First: 2015.2.5; DOI:10.1080/17486025.2014.985337)
3. Tuladhar G, Yatabe R, Dahal RK, Bhandary NP, 2015. Assessment of disaster risk reduction

- knowledge of school teachers in Nepal. *Int J Health Syst Disaster Manage*, 3(1):20-27 (Online: 2015.1.1; DOI:10.4103/2347-9019.147142)
4. Acharya KP, Bhandary NP, Dahal RK, Yatabe R, 2014. Numerical analysis on influence of principal parameters of topography on hillslope instability in a small catchment, *Environmental Earth Sciences* (Online First: 2014.11.5; DOI:10.1007/s12665-014-3819-z) <IF: 1.572>
 5. Acharya KP, Bhandary NP, Dahal RK, Yatabe R, 2014. Seepage and slope stability modelling of rainfall-induced slope failures in topographic hollows, *Geomatics, Natural Hazards and Risk*, (Online first: 2014.9.2, DOI:10.1080/19475705.2014.954150) <IF: 0.622>
 6. Tiwari RC, Bhandary NP, Yatabe R, 2014. Spectral element analysis to evaluate the stability of long and steep slopes, *Acta Geotechnica*, 9(5):753-770, (Published: 2014.10, Online First: 2014.2.22; DOI:10.1007/s11440-013-0292-x) <IF: 1.86>
 7. Tiwari RC, Bhandary NP, Yatabe R, 2014. 3-D elasto-plastic SEM approach for pseudo-static seismic slope stability charts for natural slopes, *Indian Geotechnical Journal* (Springer India), 44(3):305-321, (Published: 2014.9.1, Online First: 2013.11.16; DOI:10.1007/s40098-013-0086-y)
 8. Dixit AM, Yatabe R, Dahal RK, and Bhandary NP, 2014. Public School Earthquake Safety Program in Nepal, *Geomatics, Natural Hazards and Risk*, 5(4):293-319, (Online First: 2013.6.25; DOI:10.1080/19475705.2013.806363) <IF: 0.622>
 9. Tuladhar G, Yatabe R, Dahal RK, and Bhandary NP, 2014. Knowledge of disaster risk reduction among school students in Nepal, *Geomatics, Natural Hazards and Risk*, 5(3):190-207, (Online First: 2013.7.3, DOI:10.1080/19475705.2013.809556) <IF: 0.622>
 10. Dahal RK, Bhandary NP, Hasegawa S, and Yatabe R, 2014. Topo-stress based probabilistic model for shallow landslide susceptibility zonation in the Nepal Himalaya, *Environmental Earth Sciences*, 71(9): 3879-3892 (Published: 2014.5.1, Online First: 2013.9.28; DOI: 10.1007/s12665-013-2774-4) <IF: 1.572>
 11. Timilsina M, Bhandary NP, Dahal RK, Yatabe R, 2014. Distribution probability of large-scale landslides in central Nepal, *Geomorphology* 226: 236–248 (Published: 2014.12.1; Online: 2014.6.27; DOI: 10.1016/j.geomorph.2014.05.031) <IF: 2.577>
 12. Bhat DR, Bhandary NP, and Yatabe R, 2014. Residual-state Creep Behavior of Clayey Soils and its Implication in Landslide Displacement Prediction, *Proc. Int'l Symposium on Geohazards: Science, Engineering, and Management*, 20-21 November 2014, Kathmandu Nepal, p.212-223.
 13. Tiwari RC, Bhandary NP, and Yatabe R, 2014. Accuracy impact factors of SEM for slope stability computations, *Proc. Int'l Symposium on Geohazards: Science, Engineering, and Management*, 20-21 November 2014, Kathmandu Nepal, p.252-258.
 14. Meten M, Bhandary NP, and Yatabe R, 2014. The Application of Weights of Evidence Modelling for Landslide Susceptibility Mapping of Dejen-GohaTsiyon Transect in the Blue Nile Gorge, Central Ethiopia, *Proc. Int'l Symposium on Geohazards: Science, Engineering, and Management*, 20-21 November 2014, Kathmandu Nepal, p.62-76.
 15. Shrestha HK, Yatabe R, and Bhandary NP, 2014. Investigation of Causes of Variation in

- Effectiveness of Horizontal Drains as a Landslide Remediation Measure, Proc. Int'l Symposium on Geohazards: Science, Engineering, and Management, 20-21 November 2014, Kathmandu Nepal, p.245-251.
16. Acharya KP, Bhandary NP, Dahal RK, and Yatabe R, 2014. Parameters Influencing Unsaturated Zone Moisture Storage and Hillslope Instability in a Small Catchment, Proc. Int'l Symposium on Geohazards: Science, Engineering, and Management, 20-21 November 2014, Kathmandu Nepal, p.180-190.
 17. Pathak DR, Bhandary NP, and Yatabe R, 2014. Hierarchical Fuzzy Rule based Model for Groundwater Vulnerability and Assessment of Nitrate Pollution Hazard in Kathmandu Basin, Proc. Int'l Symposium on Geohazards: Science, Engineering, and Management, 20-21 November 2014, Kathmandu Nepal, p.564-571.
 18. Tuladhar G, Yatabe R, Dahal RK, and Bhandary NP, 2014. Disaster Risk Reduction Knowledge of School Teachers in Nepal, Proc. Int'l Symposium on Geohazards: Science, Engineering, and Management, 20-21 November 2014, Kathmandu Nepal, p.165-171.
 19. Bhandary NP, Yatabe R, Yamamoto K, Paudyal YR, 2014. Use of a Sparse Geo-info Database and Ambient Ground Vibration Survey in Earthquake Disaster Risk Study - A Case of Kathmandu Valley -, Proc. 3rd International Conference on the Geohazard Information Zonation and 5th Seminar & Short Course of HASTAG (GIZ2014-HASTAG5), A. Faisal & F. Ahmad (eds.), p.24-35, Indonesia, 2014.10.20-22. (Invited Keynote Paper)
 20. Bhandary NP, 2014. Understanding deep-seated landslide displacement through creep failure theory. Taiwan-Japan-USA Joint Workshop on Geotechnical Engineering, 19 September 2014, Taiwan. (Presentation only)
 21. Bhandary NP, Bhat DR, and Yatabe R, 2014. Understanding Large-Scale Landslide Displacement Behavior Through Residual-State Creep Shear Tests in a Modified Ring Shear Machine, Proc. 12th International Symposium on Geo-disaster Reduction, B. Tiwari et al. (eds.), p.32-41, USA, 2014.9.4-5.
 22. Bhandary NP, Yatabe R, Paudyal YR, and Mori S, 2014. Pre-dominant Period Map for Kathmandu Valley of Nepal: A Quick and Inexpensive Approach to Seismic Damage Risk Assessment, 11th Annual Meeting of Asia and Oceania Geosciences Society (AOGS2014), Japan, 2014.6.28-7.1. (Presentation only)
 23. Koketsu K, Yokoi T, Takai N, Bhandary NP, Miyake H, Sapkota SN, Upreti BN, Parajuli H, Integrated Research on Earthquake and Landslide Disaster Mitigation in the Mountainous Country of Nepal, 11th Annual Meeting of Asia and Oceania Geosciences Society (AOGS2014), Japan, 2014.6.28-7.1. (Presentation only)
 24. Bhat DR, Bhandary NP, and Yatabe R, 2014. Shear strength recovery due to discontinuation of shear at residual state of clayey soils, Proc. 3rd World Landslide Forum, 2-6 June 2014, Beijing, China. (In press)
 25. 矢田部龍一、中野晋、長谷川修一、2015、四国における総合防災の展開、土木学会四国支部、21 世

紀の南海地震と防災、第9巻、pp.123-126、2015.1

26. バンダリ ネットラ P、矢田部龍一、2015、道路を対象とした地震時指定地すべり地崩壊ハザード評価法の検討ー四国地域南海地震を例にー、土木学会四国支部、21世紀の南海地震と防災、第9巻、pp.65-74、2015.1
27. 竹田正彦、二神透、廣田清治、矢田部龍一、2015、南海トラフ巨大地震に向けた官民学連携防災組織の結成と防災教育・啓発の展開について、土木学会四国支部、21世紀の南海地震と防災、第9巻、pp.39-42、2015.1
28. 廣田清治、竹田正彦、二神透、矢田部龍一、2015、社会基盤メンテナンスエキスパート養成講座を通じた維持管理防災対応技術者養成への取り組み、土木学会四国支部、21世紀の南海地震と防災、第9巻、pp.31-38、2015.1
29. 廣田清治、矢田部龍一、山中稔、野々村敦子、2014、2014年8月20日広島土砂災害と斜面維持管理の仕方ー広島市安佐南区の事例ー、土木学会四国支部、平成26年自然災害フォーラム論文集、pp.77-84、2014.12
30. 矢田部龍一、2014、「減災」促す迅速かつ多様な情報伝達、公明、108号、pp.28-33、2014.12
31. Rasyid AR, ネットラ P.バンダリ, 矢田部龍一 (2014). Use of Frequency Ratio Approach in Landslide Susceptibility Mapping in Jeneberang Watershed of South Sulawesi, Indonesia, 平成26年度地盤工学会四国支部技術研究発表会, 平成26年11月13日, 徳島県
32. Endalew MM, Bhandary NP, Yatabe R (2014). Data Sampling Strategies on the Prediction Accuracy of Landslide Susceptibility Maps from Logistic Regression Method: A case of Goha Tsiyon-Dejen Transect in the Blue Nile Gorge of Central Ethiopia, 第49回地盤工学研究発表会, 北九州市, 平成26年7月15日~17日, p.1959-1960.
33. 岡本有希加, Bhandary NP, 矢田部龍一, Bhat DR (2013). 地すべり粘性土の残留状態におけるクリープ破壊予測に関する研究, 第49回地盤工学研究発表会, 北九州市, 平成26年7月15日~17日, p.1839-1840.
34. Bhat DR, Bhandary NP, Yatabe R (2014). Effect of shear rate on residual strength of clayey materials, 第49回地盤工学研究発表会, 北九州市, 平成26年7月15日~17日, p.1841-1842.
35. Bhat DR, Bhandary NP, Yatabe R (2014). Effect of discontinued shearing on residual shear strength of clayey soils, 平成26年度土木学会四国支部第20回技術研究発表会, 平成26年5月31日, 徳島市 (徳島大学)
36. Endalew, MM, Bhandary NP, Yatabe R (2014). Effect of Combination of Landslide Factors on the Prediction Accuracy of Landslide Susceptibility Maps: The Case of Goha Tsiyon-Dejen Transect in the Blue Nile Gorge of Central Ethiopia, 平成26年度土木学会四国支部第20回技術研究発表会, 平成26年5月31日, 徳島市 (徳島大学)
37. 岡本有希加, バンダリ・ネットラ・P., 矢田部龍一 (2014). 粘性土の残留状態におけるクリープせん断試験と地すべり移動挙動に関する研究, 平成26年度土木学会四国支部第20回技術研究発表会, 平成26年5月31日, 徳島市 (徳島大学)

高橋 治郎

社会貢献活動：

1. 2014.4.24「地震などの自然災害にどう備えるか？」 平成 26 年度赤十字奉仕団委員 長会議・研修会(約 50 名)
2. 2014.6.5「南海地震と建築耐震・防災について」 住まいに役立つ防災セミナー(約 30 名)
3. 2014.6.10「南海地震と建築耐震・防災について」 住まいに役立つ防災セミナー(約 40 名)
4. 2014.7.13「漣痕化石と滑川溪谷の地質について」 平成 26 年度第 2 回郷土史講座(約 50 名)
5. 2014.7.30「地域に根ざした防災教育の在り方」 愛媛大学教育学部と今治市教育委員会との連携による校内職員研修会(30 名)
6. 2014.8.1「川と私たち」 「石手川&重信川わくわくバスツアー」 基調講演(約 60 名)
7. 2014.8.31「南海トラフ大地震・地域で備えることの大切さ」 西条市防災講演会(約 80 名)
8. 2014.9.7「地域で求められる避難行動とは」 西条市防災講演会(55 名)
9. 2014.9.30「県防災アドバイザーによる避難所マニュアルについて」 松前町防災教育推進連絡協議会における講演(15 名)
10. 2014.11.10「考える防災学習 考えさせる防災教育」 平成 26 年度 宇和島市防災教育推進連絡協議会(約 80 名)
11. 2014.12.7「南海トラフ巨大地震発生、その時、神拝校区は？」 西条市神拝校区防災教室 (約 150 名)
12. 2014.12.14「災害に何をどう「備える」か？」 西条市神拝校区防災教室(約 100 人)
13. 2014.12.26「学校の防災体制及び地域との連携強化について」平成 26 年度新居浜市防災教育推進連絡協議会(約 60 名)
14. 2014.1.10「地域の防災力 自主防災組織の役割」南予津波被害防止支援事業「地域に広げよう防災意識」(約 30 名)
15. 2014.5.16 松山市立東中学校「職業科」 地形・地質から地球を知る」 講師
16. 2014.6.23 愛媛大学教育学部との連携による校内授業研修 指導助言
17. 2014.7.21,22 平成 26 年度 SSH 事業「四国・関西研修」(四国地質巡検) 講師
18. 2014.8.1 石手川&重信川 わくわくバスツアー 講師
19. 2014.8.28 愛媛大学教育学部と今治市教育委員会との連携事業における防災教育 講師
20. 2014.9.5 西条市防災教育推進連絡協議会 講師・アドバイザー
21. 2014.9.30 松前町防災教育推進連絡協議会 講師・アドバイザー
22. 2014.10.25 自然観察会 断層めぐり 講師
23. 2014.10.27 平成 26 年度八幡浜市防災教育推進連絡協議会 アドバイザー
24. 2014.10.28 平成 26 年度第 2 回今治市防災教育推進連絡協議会 アドバイザー
25. 2014.10.29 愛媛大学教育学部と今治市教育委員会との連携事業における防災教育 指導助言
26. 2014.11.2,3 青少年のための科学の祭典 松山大会 大会委員長
27. 2014.11.19 愛媛大学教育学部と今治市教育委員会との連携による「学校活動」「地震、そのとき、あなたは」の指導助言 指導助言講師
28. 2014.11.20 松山市防災推進運営協議会 アドバイザー
29. 2014.11.27 平成 26 年度防災教育研究会 愛媛大学教育学部・今治市教育委員会連携協力事業 指

導助言

30. 2015.1.20 おもしろ理科出前教室 授業者
31. 2014.12.15 TBS(あいテレビ)
32. 2014.11.15 愛媛新聞
33. 2014.10.21 読売新聞
34. 2014.09.30 愛媛新聞
35. 2014.09.02 テレビ愛媛
36. 愛媛県環境影響評価審議会
37. 平成 26 年度土地履歴調査 地区調査委員会
38. 今治道路における自然由来重金属等の対策に関するアドバイザリー会議
39. 松山市防災会議
40. 伊方原子力発電所環境安全管理委員会原子力安全専門部会
41. 伊方原子力発電所環境安全管理委員会
42. 愛媛県海岸施設等津波対策検討委員会
43. 西条市道前平野地下水資源調査研究委員会
44. 西条市防災対策研究協議会
45. 松山市道後温泉活性化計画審議会
46. 国道 3 3 号三坂地区事前通行規制区間検討委員会
47. 学校防災アドバイザー
48. (重信川)河口ワーキング部会
49. 重信川流域学識者会議
50. 愛媛県総合科学博物館協議会
51. 愛媛県土壌汚染調査・対策検討委員会
52. 重信川の自然をはぐくむ会
53. 愛媛県環境審議会
54. 愛媛県環境審議会 温泉部会

論文・研究発表：

1. 高橋治郎, 道後温泉. 愛媛大学教育実践総合センター紀要, 32 号,15-24, 2014.7
2. 高橋治郎, 理科教育と防災教育 学校教育をめぐる課題. 日本理科教育学会 第 64 回全国大会 論文集 12 号, 74-75、2014. 8
3. 高橋治郎, 地震と道後温泉. 愛媛大学教育学部紀要, 61 卷, 83-86, 2014.10

竹田 正彦

社会貢献活動：

1. 4 月 21 日～25 日 四国災害アーカイブス記念講演会（愛媛地区、徳島地区、香川地区、高知地区）四国クリエイト協会（共催）
2. 5 月 19 日 「水防月間～洪水に備える～」 「四国おはようネットワーク」月曜コーナー「防災ネ

ットワーク」7:40～ NHK ラジオ NHK 松山放送局

3. 5月21日 「南海トラフ巨大地震に備える」 宇和島経済研究会
4. 7月9日 全国新聞販売フォーラム2014松山 第3分科会 愛媛新聞社 全日空ホテル
5. 7月23日 平成26年度第1回「災害時の事業継続力認定」書類審査 四国建設業BCP等審査会
愛媛審査部会 愛媛県庁第1別館土木部会議室
6. 7月29日 「南海トラフ巨大地震に備えた情報提供体制の高度化に関する研究」 河川整備基金
助成事業成果発表会 河川財団
7. 7月30日 「防災について」 松山市職員危機管理研修 松山市役所11階大会議室
8. 8月12日 「自治体BCPの推進に向けて」 自治体業務継続計画研究会・防災GIS研究会合同
研究会 防災情報研究センター 愛媛大学本部会議室
9. 8月18日 「夏休みに家族で防災点検を(前編)」 「四国おはようネットワーク」月曜コーナー
「防災ネットワーク」7:40～ NHK ラジオ NHK 松山放送局
10. 8月18日 平成26年度第1回「災害時の事業継続力認定」面接審査 四国建設業BCP等審査会
愛媛審査部会 松山河川国道事務所会議室
11. 8月25日 「夏休みに家族で防災点検を(後編)」 「四国おはようネットワーク」月曜コーナー
「防災ネットワーク」7:40～ NHK ラジオ NHK 松山放送局
12. 8月26日 学校防災アドバイザー 大洲市教育委員会
13. 8月28日 「南海トラフ巨大地震への備えについて」 防災講演会 四国クリエイト協会
14. 8月29日 学校防災アドバイザー 四国中央市教育委員会
15. 9月6日 四国巨大災害危機管理フォーラム 四国5大学連携防災・減災教育研究協議会 高新文
化ホール
16. 9月10日 自然災害に強いしなやかな国土創出に向けての土木学会の役割 土木学会全国大会研
究討論会 強くしなやかな社会を実現するための防災・減災等に関する研究委員会 大阪大学 豊
中キャンパス
17. 9月12日 四国支部タスクフォース活動報告 土木学会全国大会研究討論会 「安全な国土への
再設計」支部連合 大阪大学 豊中キャンパス
18. 9月27日 「最近の風水害」「地震の仕組みと被害」 愛媛県防災士養成講座 宇和島会場
愛媛県 愛媛県南予地方局会議室
19. 10月9日 学校防災アドバイザー 西予市教育委員会
20. 10月10日 四国支部タスクフォース防災講演会 「安全な国土の再設計」土木学会支部連合タス
クフォース四国支部 土木学会四国支部 高松サンポートホール
21. 10月17日 平成26年度第1回えひめ建設業BCP等審査会 愛媛県土木部 県庁第二別館5階
会議室
22. 10月28日 学校防災アドバイザー 今治市市教育委員会
23. 11月20日 学校防災アドバイザー 松山市教育委員会
24. 12月12日 「自然災害 近年の地震と土砂災害」 救助科研修 愛媛県消防学校
25. 1月19日 平成26年度第2回「災害時の事業継続力認定」書類審査 四国建設業BCP等審査会
愛媛審査部会 松山河川国道事務所会議室

26. 1月20日 南海地震シンポジウム
27. 1月29日 平成26年度第2回「災害時の事業継続力認定」面接審査 四国建設業BCP等審査会
愛媛審査部会 松山河川国道事務所会議室
28. 1月31日 「最近の風水害」「地震の仕組みと被害」 愛媛県防災士養成講座 松山会場 愛媛
県 松山市保健所・消防合同庁舎
29. 2月2日 「地域の防災リーダー・防災士とチームワークについて」「四国おはようネットワーク」
月曜コーナー「防災ネットワーク」7:40～ NHK ラジオ NHK 松山放送局
30. 2月18日 事業継続計画セミナー 西条市危機管理課・産業課 今治市総合福祉センター会議室
31. 2月20日 「自然災害 近年の地震と土砂災害」 警防科研修 愛媛県消防学校
32. 3月5日 防火・防災研修会 松山市防火協会
33. 3月19日 世界防災研究所サミット 京都大学防災研究所 京都大学 宇治おうばくプラザ
34. 3月23日 平成26年度第2回えひめ建設業BCP等審査会 愛媛県土木部
35. 土木学会 強くしなやかな社会を実現するための防災・減災等に関する研究委員会 幹事
36. 「安全な国土の再設計」土木学会四国支部タスクフォース 幹事長
37. 建設業BCP 懇談会愛媛県部会 委員（四国地方整備局）
38. 愛媛県建設工事総合評価審査委員会 委員（愛媛県）
39. えひめ建設業BCP等審査会 委員（愛媛県）
40. 愛媛県学校防災アドバイザー（愛媛県）

新階 寛恭

社会貢献活動：

1. 2014.4.23：「松山まちなかグランドデザイン（仮）構想ベース図について」：愛媛県：愛媛県庁参与
室
2. 2014.4.30：「松山の今後のまちなか施策について」：松山市：松山市役所副市長室
3. 2014.5.8：一番町大街道口景観整備実施設計他業務委託受注候補者選考委員会：松山市：松山市役所
別館会議室
4. 2014.5.9：「全国の中での特徴的なまちづくり」：アーバンデザイン講演会：愛媛大学：南加ホール：
約100名
5. 2014.5.14：「UDCMの取り組みについて」：松山市：松山市役所庁議室：約30名
6. 2014.5.17：第一回道後温泉活性化懇談会：松山市道後事務所：椿の湯2階会議室
7. 2014.5.20：第三回松山市都市再生協議会：松山市：松山市役所別館会議室
8. 2014.5.20：松山市賑わい再生社会実験業務委託受注候補者選考委員会：松山市：市役所別館会議室
9. 2014.6.13：「UDCMの取り組みについて」：日本経済新聞
10. 2014.6.13：「UDCMの取り組みについて」：いよぎんIRC：IRC応接室
11. 2014.6.18：「UDCMと松山のまちづくりについて」：平成26年度広報誌「わかつばき」理事長対
談：松山青年会議所：松山青年会議所会議室
12. 2014.6.25：「UDCMの取り組みについて」：松山商工会議所
13. 2014.7.11：「L字地区のまちづくりの方向性について」：松山銀天街L字地区賑わい再生推進本部会

合

14. 2014.7.15：第二回道後温泉活性化懇談会：松山市道後事務所：椿の湯2階会議室
15. 2014.7.15：「L字地区に関する調査の方向性について」：松山銀天街L字地区賑わい再生推進本部会
合
16. 2014.7.25：第一回一番町大街道口景観整備専門部会：松山市：松山市役所別館会議室
17. 2014.7.29：「松山アーバンデザインセンターについて」：東京大学復興デザイン研究体セミナー：メ
ルパルク広島会議室：約80名
18. 2014.7.31：「L字地区に関する調査の方向性について」：松山銀天街L字地区賑わい再生推進本部戦
略会議
19. 2014.8.1：「UDCMの取り組みについて」：松山商工会議所地域開発委員会会合
20. 2014.8.20：「UDCMについて」：愛媛新聞
21. 2014.8.27：第二回一番町大街道口景観整備専門部会：松山市：松山市役所別館会議室
22. 2014.9.2：「L字地区のコンセプトおよび調査の方向性について」：松山銀天街L字地区賑わい再生推
進本部戦略会議
23. 2014.9.20：風景づくり夏の学校：東京大学復興デザイン研究体・UDCM：南加ホール：約200名
24. 2014.10.6：第四回松山市都市再生協議会：松山市：松山市役所別館会議室
25. 2014.10.16：第三回一番町大街道口景観整備専門部会：松山市：松山市役所別館会議室
26. 2014.10.22：路面電車を主とした公共交通利便性向上検討業務委託受注候補者選考委員会：松山市：
松山市役所別館会議室
27. 2014.10.28：「L字地区再開発における用途配置計画イメージについて」：松山銀天街L字地区賑わい
再生推進本部戦略会議
28. 2014.11.1：「松山アーバンデザインセンター」：まちなかひろばオープニングフォーラム：松山市・
UDCM：坂の上の雲ミュージアム：約80名
29. 2014.11.5：「アーバンデザインセンターについて」：市政広報番組「大好き！まつやま」収録：南海
放送：UDCMおよびみんなのひろば
30. 2014.12.1：「UDCMの取り組みについて」：UDCK・UDCY・立命館大学
31. 2014.12.2：「海外先進都市の都市交通とまちづくりについて」：松山銀天街L字地区賑わい再生推進
本部戦略会議
32. 2014.12.10：「UDCMについて」：大学広報番組「研究室からこんにちは」収録：南海ラジオ
33. 2014.12.12：「UDCMの取り組みのその後」：日本経済新聞
34. 2015.1.27：「L字地区再開発基本計画のレイアウト（配置計画）について」：松山銀天街L字地区賑
わい再生推進本部戦略会議
35. 2015.1.29：松山駅周辺景観計画等策定基礎調査業務委託選考委員会：松山市：松山市役所別館会議
室
36. 2015.1.29：松山駅周辺拠点街区に関する整備計画調査検討業務委託選考委員会：松山市：松山市役
所別館会議室
37. 2015.2.2：「UDCMの取り組みについて」：公共施設マネジメントセミナー：伊予銀行：全日空ホテ
ル会議室：約100名

38. 2015.2.4 : 「松山における自転車と公共交通との連携について」 : (株)伊予鉄自動車部
39. 2015.2.7 : 第四回道後温泉活性化懇談会 : 松山市道後事務所 : 椿の湯 2 階会議室
40. 2015.2.9 : 自転車シンポジウム i n 松山 : 松山市・UDCM : 南加ホール : 約 1 0 0 名
41. 2015.2.13 : 第四回一番町大街道口景観整備専門部会 : 松山市 : 松山市役所別館会議室
42. 2015.2.25 : 「L 字地区 C 街区のまちづくりの考え方について」 : 松山銀天街 G E T 管理組合事務局 : 組合会議室
43. 2015.3.23 : 「松山アーバンデザインビジョン研究会」 : UDCM : UDCM 会議室
44. 2015.3.25 : 第五回松山市都市再生協議会 : 松山市 : 松山市役所別館会議室
45. 2015.3.31 : 「L 字地区 C 街区の再整備の進め方について」 : 松山銀天街 G E T 管理組合事務局 : 組合会議室
46. 一番町大街道口景観整備実施設計他業務委託受注候補者選考委員
47. 松山市賑わい再生社会実験業務委託受注候補者選考委員
48. 路面電車を主とした公共交通利便性向上検討業務委託受注候補者選考委員
49. 松山駅周辺景観計画等策定基礎調査業務委託選考委員
50. 松山駅周辺拠点街区に関する整備計画調査検討業務委託選考委員
51. 一番町大街道口景観整備専門部会 副会長
52. 松山銀天街 L 字地区賑わい再生推進本部アドバイザー

論文・研究発表 :

1. 新階寛恭 : 自転車政策の新たな可能性について～公共交通との連携に関する海外先進事例調査から～ : いよぎん地域経済研究センター : IRC Monthly : 2015/3, N o . 321, pp12-21 : 2015.3

相引 眞幸

社会貢献活動 :

1. 心停止後症候群における低体温療法の将来への展開 相引眞幸 松山 第 31 回日本集中治療医学会中国四国地方会 特別講演 Feb. 8th 2014 194
2. 敗血症における血液・凝固線溶異常への治療戦略 相引眞幸 京都 第 41 回日本集中治療医学会学術集会 特別講演 Feb.28th 2014 195
3. 2015 ILCOR CoSTR 作成の現状と今後の予定-ALS- 相引眞幸 京都 第 8 回 JRESS シンポジウム March 1st 2014 196

論文・研究発表 :

1. Mayuki Aibiki, Satoshi Kikuchi, Kensuke Umakoshi, Saori Ohtsubo. Resuscitation 934 Is hypothermia beneficial even for the depressed heart after the resumption of spontaneous circulation (ROSC) from out-of-hospital cardiac arrest (OHCA)? 856 2014 208
2. Mayuki Aibiki, Kensuke Umakoshi, Satoshi Kikuchi, Saori Ohtsubo. Crit Care Med 3156 Does therapeutic hypothermia improve depressed cardiac functions in post-cardiac arrest patients? 424 2014 209

3. Aibiki M, Fukuoka N, Bando S, Matsumoto H, Ohshita M, Soichi Maekawa and Jun Takeba. J Blood Disorders Transf 210214 25% Albumin Infusion Maintains Antithrombin III (AT) Activity after AT Agent Administration in Critically Ill Patients with Disseminated Intravascular Coagulation (DIC). 5 2014 210
4. 相引眞幸 ICUとCCU 0 心停止後症候群に対する低体温療法の現状 38 2014 211
5. 相引眞幸、馬越健介、菊池聡、松本紘典、大下宗亮、竹葉淳 日本腹部救急医学会誌 日本版敗血症診療ガイドラインにおけるDIC (Disseminated Intravascular Coagulation)治療 2014 212
6. 相引眞幸、松本紘典、竹葉淳 救急・集中治療 敗血症診療ガイドラインとDIC、徹底ガイドDICのすべて 2014 213
7. 相引眞幸、馬越健介、菊池聡、松本紘典、安念優、森山直紀、竹葉淳 救急医学 心拍再開後ケアの基礎的な裏付け 2014 214
8. 相引眞幸、馬越健介、菊池聡 総合医学社、東京 心停止後症候群(PCAS)における神経集中治療心停止後症候群(PCAS)の病態生理 2014 黒田泰弘編 215
9. 相引眞幸、馬越健介、菊池聡、松本紘典、大下宗亮、安念優、森山直紀、竹葉淳 愛媛医学 5964 心停止後症候群(Post-cardiac arrest syndrome: PCAS)に関する最新のトピックス 33 2014 総説 216
10. Aibiki M, Iwata O, Nonogi H, Kinoshita K, Nagao K; Board of Directors of the Japanese Association of Brain Hypothermia. Ther Hypothermia Temp Manag. 104 Target temperature management for postcardiac arrest patients. 4 2014 その他 217
11. Miyoshi S, Ito R, Katayama H, Dote K, Aibiki M, Hamada H, Okura T, Higaki J. Drug Des Devel Ther. 12111219 Combination therapy with sivelestat and recombinant human soluble thrombomodulin for ARDS and DIC patients. 8 2014 原著 218
12. Kikuchi S, Watanabe Y, Sato K, Matsumoto H, Umakoshi K, Aibiki M. Surg Today 0 Minimally invasive necrosectomy using resectoscope for intractable necrotic abscess after severe acute pancreatitis: report of a case. 2014 219

木村 映善

社会貢献活動：

1. 電子情報通信学会 SITE 研究会 委員
2. 愛媛県医師会・松山市医師会 医療情報委員
3. 日本医用画像情報技師専門技師会 監事
4. 特定非営利活動法人 みんなのICT 理事
5. SDM コンソーシアム 理事

論文・研究発表：

1. 鵜川 健太郎, 村永 和哉, 鈴木 豊, et al. 時系列データダイナミックプレビュー用 Web アプリケーションの開発. 2014 04/29/2014; 2014.
2. 松井 孝文, 齋藤 英雄, 大道 太一郎, 木村 映善, 石原 謙. 電子カルテと協働する経営分析システム

～診療行為にもとづく会計情報参照のための Web 連携～. 平成 25 年度大学病院情報マネジメント部門連絡会議抄録集; 2014. p. 298-301.

3. 松井 孝文, 土手 健太郎, 石原 謙, 木村 映善. 診療情報管理士の立場から見た集中治療部入室患者における包括化(DPC)対策会. 2014 日本集中治療医学会中国四国地方会; 2014; 2014. p. 84.
4. 村田 健史, 笠井 康子, 佐藤 晋介, et al. 高速データ処理技術を活用した環境リモートセンシングデータ処理技術. 2014 05/02/2014; 2014.
5. 村田 健史, 渡邊 英伸, 鶴川 健太郎, et al. 分散ファイルシステムによる並列データ I/O 測定. 2014 04/29/2014; 2014.
6. 村田 健史, 渡邊 英伸, 鶴川 健太郎, et al. NICT サイエンスクラウドによるビッグデータ処理技術. 2014 04/30/2014; 2014.
7. 村田 健史, 深沢 圭一郎, 郭 智宏, et al. NICT サイエンスクラウドを活用した高速データ処理技術によるグローバル MHD シミュレーションの流体要素追尾. 2014 05/02/2014; 2014.
8. 村田 健, 磯田 総, 渡邊 英, et al. NICT サイエンスクラウドによる大規模シミュレーションデータ分散可視化処理(宇宙科学情報解析論文誌 第三号). 宇宙航空研究開発機構研究開発報告. 2014 2014-03 JAXA-RR-13-010:57-70.
9. 村田 健, 渡邊 英, 鶴川 健, et al. 科学研究用クラウドシステム(NICT サイエンスクラウド)の提案(宇宙科学情報解析論文誌 第三号). 宇宙航空研究開発機構研究開発報告. 2014 2014-03;JAXA-RR-13-010:39-56.
10. 村永 和哉, 鶴川 健太郎, 鈴木 豊, et al. NICT サイエンスクラウドのビッグデータ処理技術開発と運用. 2014 04/29/2014; 2014.
11. 木村 映善, 西村 妙子, 菅原 美恵子, 首藤 敦子, 石原 謙. 電子カルテの代行入力と承認の運用の検討. 日本医療秘書実務学会 第 5 回全国大会; 2014 2014/08/23; 岡山県倉敷市 川崎医療福祉大学: 日本医療秘書学会; 2014. p. 22-5.
12. 木村 映善, 村田 健史, 石原 謙. NoSQL データベースによる仮想 SS-MIX 標準ストレージの評価. 第 18 回日本医療情報学会春季学術大会シンポジウム 2014. 2014 2014/06/06:85-6.
13. 木村 映善. 医療情報学の視点から見たデータマネジメント: ゲノム時代を見据えて. 日本放射線技術学会医療情報分科会雑誌 2014 2014-10-01; 横浜; 2014. p. 55-64.
14. 木村 映善. 患者プロフィール情報に必要な標準医療情報の要件は何か? ～アレルギー情報に関する検討を通して～. 医療情報学 34(Suppl). 2014 2014/11/8:138-41.
15. 木村 映善. 二次利用の標準化・再利用が可能な DWH は実現できるか. 医療情報学 34(Suppl). 2014 2014/11/8:148-51.
16. 木村 映善. 医療情報部と考えるこれからの情報マネジメント. 第 70 回日本放射線技術学会総会学術大会 教育講演(医療情報文科会); 2014 2014/04/13; 横浜; 2014.
17. 木村 映善. X P 環境下で稼働せざるを得ない情報システムのセキュリティ担保. 月刊新医療. 2014 2014/04/01;41(4):95-8.
18. 木村 映善. ウェアラブル・コンピューティングを支える情報処理技術. 第 15 回愛媛医工連携セミナー; 2014 2014/05/15; 愛媛大学医学部; 2014.
19. 木村 映善. 総合ストレージの構築 ～階層化ストレージとオブジェクトストレージの融合～. 平成

- 25 年度大学病院情報マネジメント部門連絡会議抄録集. 2014 2014/02/13:24.
20. 木村 映. 医療情報学の視点からみたデータマネジメント(教育講演,第 70 回総会学術大会(横浜)第 23 回医療情報分科会抄録). 日本放射線技術学会医療情報分科会雑誌. 2014 2014-04-01;22:9-11.
 21. 木村 映. 電子カルテの代行入力と承認の運用 (創刊 20 周年特別企画) -- (電子カルテの代行入力). 医事業務 2014 2014-08-01 21(456):46-51.
 22. 昇 淳一郎, 木村 映善, 石原 謙. Web 会議システム使用時の音声応答時間を活用したメンタルヘルス不調者の精神運動性評価に関する検討. 日本遠隔医療学会雑誌. 2014 2014-10 10(2):134-6.
 23. 昇 淳一郎, 吉川 武樹, 木村 映善, 石原 謙. 抑うつ傾向を示す労働者に対する顔合わせ程度の面談による症状改善効果の検討: 産業保健現場における無作為化比較試験. 愛媛医学. 2014;33(2):80-6.
 24. 岡田 久仁子, 木村 映善, 高地 泰浩, 石原 謙. 秘密分散方式を利用した地域医療連携システムの性能評価. 医療情報学 34(Suppl). 2014 2014/11/7:960-3.
 25. 山本 和憲, 長妻 努, 久保田 康文, et al. NICT サイエンスクラウドを用いたシミュレーションデータと衛星観測データの大規模統計解析環境の構築. 2014 04/29/2014; 2014.
 26. 八幡 勝也, 武田 裕, 松村 泰志, et al. 病院情報システムにおける紙情報の現状と変化の方向性. 医療情報学 34(Suppl). 2014 2014/11/8:186-9.
 27. 中島 英明, 木村 映善, 高木 大輔, 有家 和也, 水本 昭博, 石原 謙. 統合ストレージ環境におけるオブジェクトストレージのパフォーマンス検証. 医療情報学 34(Suppl). 2014 2014/11/7:1020-1.
 28. 中井 美穂, 木村 映善, 崎田 智美, 田淵 典子, 石原 謙. バイタルサイン測定業務の電子化による看護業務改善の検証. 第 15 回日本医療情報学会看護学術大会; 2014 2014/08/02; 2014. p. 80-3.
 29. 三原 直樹, 松村 泰志, 木村 映善, et al. Secret Share 技術を用いた統合文書管理システム(DACS) 内文書の秘密分散バックアップ環境開発. 医療情報学 34(Suppl). 2014 2014/11/7:656-9.
 30. Nobori J, Ishida H, Inoue A, Yoshikawa T, Kimura E, K I. Ultra-short Daily Briefings Care for sick-listed employees with psychological problems strengthen the sense of coherence in occupational healthcare. 22nd European Congress of Psychiatry; 2014 1-4 March; Munich, Germany; 2014.
 31. Murata KT, Watanabe H, Yamamoto K, et al. A high-speed data processing technique for time-sequential satellite observation data. IEICE Communications Express. 2014 2014;3(2):74-9.
 32. MURATA KT, NAGATSUMA T, YAMAMOTO K, et al. Cloud Technique: Big-data processing of computer simulation and satellite observation. AOGS 11th Annual Meeting (AOGS2014) 2014; Sapporo, Hokkaido (Japan); 2014. p. in printing.
 33. Kurihara Y, Nakajima N, Ishida H, et al. A Framework of Sharing Patient Profile Information among Medical Institutions. Stud Health Technol Inform. 2014;205:1195.
 34. Kimura E, Kobayashi S, Ishihara K. HTML5 Microdata as a semantic container for Medical Information Exchange. Stud Health Technol Inform. 2014;205:418-22.
 35. Kentaro UKAWA, Ken T. MURATA, Hidenobu WATANABE, et al. A Report of Big-Data Processing and Operation of the Science Cloud for Inter- and trans- disciplinary researches. AOGS 11th Annual Meeting (AOGS2014) 2014; Sapporo, Hokkaido (Japan); 2014. p. in printing.
 36. Ken T. MURATA NIOIaCT, Japan, Shinsuke SATOH, NICT, Japan, Hidenobu WATANABE,

National Institute of Information and Communications Technology, Japan, Kentaro UKAWA, Systems Engineering Consultants Co., LTD., Japan, Kazuya MURANAGA, Systems Engineering Consultants Co., LTD., Japan, Yutaka SUZUKI, Systems Engineering Consultants Co., LTD., Japan, Osamu TATEBE, University of Tsukuba, Japan, Masahiro TANAKA, University of Tsukuba, Japan, Eizen KIMURA, Ehime University, Japan. Technique of real-time 3D visualization of Doppler radar for now-casting. AOGS 11th Annual Meeting (AOGS2014) 2014; Sapporo, Hokkaido (Japan); 2014. p. in printing.

37. Hidenobu WATANABE NIIoIaCT, Japan, Ken T. MURATA, National Institute of Information and Communications Technology, Japan, Shinsuke SATOH, NICT, Japan, Kentaro UKAWA, Systems Engineering Consultants Co., LTD., Japan, Kazuya MURANAGA, Systems Engineering Consultants Co., LTD., Japan, Yutaka SUZUKI, Systems Engineering Consultants Co., LTD., Japan, Osamu TATEBE, University of Tsukuba, Japan, Masahiro TANAKA, University of Tsukuba, Japan, Eizen KIMURA, Ehime University, Japan, Eiji KAWAI, National Institute of Information and Communications Technology, Japan. Real-time 3D visualization and big-data processing of Doppler radar using Science Cloud. AOGS 11th Annual Meeting (AOGS2014) 2014; Sapporo, Hokkaido (Japan); 2014. p. in printing.
38. Hidenobu WATANABE NIIoIaCT, Japan, Ken T. MURATA, National Institute of Information and Communications Technology, Japan, Kentaro UKAWA, Systems Engineering Consultants Co., LTD., Japan, Kazuya MURANAGA, Systems Engineering Consultants Co., LTD., Japan, Yutaka SUZUKI, Systems Engineering Consultants Co., LTD., Japan, Osamu TATEBE, University of Tsukuba, Japan, Masahiro TANAKA, University of Tsukuba, Japan, Eizen KIMURA, Ehime University, Japan, Shinsuke SATOH, NICT, Japan, Shoken ISHII, National Institute of Information and Communications Technology, Japan, Yasuko KASAI, National Institute of Information and Communications Technolog. Transfer, management, and processing of meteorological big-data from satellite, ground-based observatory, and simulator. AOGS 11th Annual Meeting (AOGS2014) 2014; Sapporo, Hokkaido (Japan); 2014. p. in printing.

加藤 匡宏

社会貢献活動：

1. 愛媛県緊急被ばく医療ネットワーク構築委員
2. 公益財団法人 原子力安全研究協会 医療支援者会議委員

論文・研究発表：

1. Masuda Y, Tamura Y, Kato T Cyberbullying and dependence of the social networking services Twitter and Line as "Electronic Drugs" - a review of the literature: Bulletin of The Center for Education and Educational Research The Faculty of Education Ehime University 32 pp137-144
2. 壺井圭一 山内加奈子 加藤匡宏：A 型インフルエンザ早期発見の手がかりとなる臨床症状の調査-季節性インフルエンザ臨床的早期診断のアプローチ 第2報 臨床と研究 91(6)：815-818

3. Mori.H, Saito. I , Tanigawa.T, Kato, T Heart rate variability and blood pressure among Japanese men and women: a community-based cross-sectional study Hypertension Research Epub ahead of print

松尾 芳雄

社会貢献活動：

1. 農業農村工学会支部担当理事、中国四国支部長、支部幹事
2. 農業農村工学会農村計画研究部会常任代表幹事
3. 農業農村工学会農業農村情報研究部会運営幹事
4. 中国四国農政局四国土地改良調査管理事務所平成 26 年度道前平野地域環検討委員会委員長
5. 愛媛県建設工事総合評価審査委員
6. 愛媛県中山間ふるさと保全対策推進委員会委員長
7. 愛媛県農村環境保全向上活動検討委員会委員長
8. 愛媛県環境情報協議会委員長
9. 愛媛県松野町文化的景観調査指導委員会委員
10. 愛媛県農業大学校非常勤講師（農村社会）
11. 四国防災教育センター専門家養成事業外部評価委員会委員

小林 範之

社会貢献活動：

1. 2014.6.27：ため池の防災対策について～地震応答解析と Newmark 法を中心として～：「ため池防災・減災」に係る研修会：愛媛県：愛媛県水産会館 6F：96 名
2. 客員研究員：（財）日本水土総合研究所
3. 建設工事総合評価審査委員会：（委員）：愛媛県
4. 史跡松山城整備検討委員会：（委員）：松山市
5. 宇和島城保存整備検討委員会：（委員）：宇和島市
6. 地盤工学会論文集編集委員会：（委員）：地盤工学会
7. 長期供用ダム研究小委員会(専門委員)：農業農村工学会
8. 農業農村工学会材料施工部会：（幹事）：農業農村工学会
9. 日本雨水資源化システム学会：（理事）：日本雨水資源化システム学会
10. 日本雨水資源化システム学会編集委員会：（委員長）：日本雨水資源化システム学会

論文・研究発表：

1. Kobayashi, N., Kimata, T., Ishii, M., Nishiyama, T., Tsukada, Y. and Izumi, T. (2015): Estimation of the Coefficient of Volume Compressibility of Soils Using Artificial Neural Network with Batch Learning Algorithm, Journal of Rainwater Catchment Systems, Vol. 20, No. 2, pp.23-28.
2. 松田 理恵・小林 範之(2014): 屈曲した堤体を有するため池における決壊要因の解析的検討, H26 年農業農村工学会全国大会講演要旨集 pp.720-721.

3. 田所 千尋・小林 範之(2014)：常時微動を用いた溜池の水位変動による振動特性の評価，H26 年農業農村工学会全国大会講演要旨集 pp.722-723.
4. 小林 範之(2014)：防災教育のための簡易実験教材の開発，H26 年農業農村工学会全国大会講演要旨集 pp.52-53.
5. 小林 範之(2014)：GMDH-type ニューラルネットワークによる体積圧縮係数 mv の推定，H26 年農業農村工学会中国四国支部講演要旨集 pp.143-145.
6. 泉智揮・小林範之(2014)：非負値行列因子分解を用いた観測データの特徴抽出，H26 年農業農村工学会中国四国支部講演要旨集 pp.61-63.

吉井 稔雄

社会貢献活動：

1. 松山市都市計画審議委員会 委員長：松山市
2. 愛媛県土地利用審査会 委員：愛媛県
3. 愛媛県都市計画審議会 委員：愛媛県
4. 愛媛県開発審査会 委員：愛媛県
5. 愛媛県道路懇談会 会長：愛媛県
6. 社会資本整備審議会専門委員：国土交通省
7. 愛媛県自転車安全利用研究協議会 構成員：愛媛県
8. 高速道路ネットワークシミュレーションモデルの構築検討委員会 委員
9. 交通技術委員会 幹事：阪神高速道路株式会社
10. 資格委員会 委員：交通工学研究会
11. TOE 分科会 座長：交通工学研究会
12. 交通工学論文集（特集号） 査読委員：交通工学研究会
13. 事業委員会 委員：交通工学研究会
14. 高知工科大学 客員教授
15. 交通工学研究発表会 研究奨励賞
16. 交通工学研究発表会 安全の泉賞
17. ITS シンポジウム 2014 ベストポスター賞

論文・研究発表：

1. 南航太，割田博，山口大輔，吉井稔雄：高速道路における交通事故発生リスク情報の提供に関する研究，第 34 回交通工学研究発表会論文報告集，pp.223-230，2014.8
2. 兵頭知，吉井稔雄，高山雄貴：ポアソン回帰モデルによる高速道路における交通事故発生リスク要因分析，第 34 回交通工学研究発表会論文報告集，pp.93-100，2014.8
3. 兵頭知，吉井稔雄，高山雄貴：車両検知器の 5 分間データを利用した交通流状態別事故発生リスク分析，土木学会論文集 D3，土木学会論文集 D3，Vol. 70, No. 5，pp.I-1127-1134，2014.12
4. 割田博，桑原雅夫，吉井稔雄，稲富貴久：首都高速道路における集計 QK を用いたエリア流入制御の適用に関する研究，第 49 回土木計画学研究発表会，仙台，2014.6.

5. 兵頭知, 吉井稔雄: ショックウェーブを考慮した事故リスク分析, 第 49 回土木計画学研究発表会, 仙台, 2014.6.
6. 村上和宏, 倉内慎也, 吉井稔雄, 大西邦晃, 川原洋一, 高山雄貴, 兵頭知: 事故リスク情報がドライバーの選択行動に与える影響に関する研究, 第 49 回土木計画学研究発表会, 仙台, 2014.6
7. Toshio Yoshii, Satoshi Hyodo, Yuki Takayama: Impacts of Transition of the Traffic States on Traffic Accident Risk, ISTS&IWTDCS 2014, Ajaccio, Corsica, France, June 4, 2014.6
8. 稲富貴久, 割田博, 桑原雅夫, 吉井稔雄: 複数エリアに着目した集計QK関係を用いた エリア流入制御の適用に関する研究, ITS シンポジウム, 2014.12
9. 塩見康博, 西内裕晶, 吉井稔雄: スマートフォンの所持形態を考慮した二輪車・四輪車の車種判別に関する研究, ITS シンポジウム, 2014.12

廣田 清治

社会貢献活動:

1. 2014.07.24: 「中米ホンジュラスでの地すべり防災協力」 16:00-17:30 弘前大学農業生命科学部 講演 (3年生対象: 27名+4年生3名)
2. 2014. 8.13: E-learning in Latin America: Geotechnical engineering for landslides. (授業は Rigoberto Moncada Lopez) Métodos para instalar y monitorear el sistema de la alerta por unos fenómenos de los deslizamientos de tierra. el XLI Curso Internacional de Geografía Aplicada, sobre: LA GEOMORFOLOGÍA Y LA GESTIÓN DE LOS RIESGOS POR DESLIZAMIENTO EN AMÉRICA LATINA.
3. 2014.08.23: 防災士養成講座(後編) (『第1講 近年の自然災害に学ぶ』 矢田部龍一・廣田清治)
4. 2014. 8.26: 防災教育推進連絡協議会: 学校防災アドバイザー (大洲市: 竹田正彦・廣田清治)
5. 2014.8.27: 広島土砂災害現地調査 (竹田正彦・森伸一郎・廣田清治)
6. 2014.8.30-31: 広島土砂災害現地調査 (四国地盤工学会合同: 愛媛大からは矢田部龍一、廣田清治参加)
7. 2014.09.10: 広島土砂災害の調査報告会 「広島土砂災害の調査報告と今後の活動」廣田清治 発表 於 愛媛大学社会連携推進機構研修室 (主催: 愛媛大学防災情報研究センター, 四国 5 大学連携防災・減災教育研究協議会, 共催: 土木学会四国支部四国地域緊急災害調査委員会, 地盤工学会四国支部) ⇒ 愛媛新聞 H26.9.11 「愛媛も土石流対策を 松山で広島災害調査報告」、産経新聞 H26.9.11 広島土砂災害、調査報告会「県内でも土石流の恐れ」、毎日新聞 H26.9.11 「2階でも危険」愛媛大研究者ら調査報告.
8. 2014.09.29: JICA 26 年度秋募集 体験談トークセッション(独立行政法人 国際協力機構 (JICA), 四国支部コムズ-松山市男女共同参画推進センター)
9. 2014.10.27-31: 前期 ME 講座開催_26 名
10. 2014.11.10: 学校防災アドバイザー (宇和島市: 高橋治郎・二神透・廣田清治)
11. 2014.11.17-21: 後期 ME 講座開催_26 名
12. 2014.12.26: 学校防災アドバイザー (新居浜市: 高橋治郎・廣田清治)
13. 2015. 1. 9: 愛媛大学・社会基盤メンテナンスエキスパート (ME) 養成講座シンポジウム-愛媛と四

国の社会基盤を維持管理する技術者人財育成プロジェクト

14. 2015.1.22 「今後の建設業界における社会基盤の維持管理・補修業務に関する講習会」 一般社団法人 愛媛県建設業協会 主催. 於ウエルピア伊予 銀河の間. 教材:『今後の建設業界における社会基盤の維持管理・補修業務について』32p. (151名)
15. 2015.2. 「四国中央市・斜面崩壊現場視察」 四国中央市 (吉田則彦・廣田清治)
16. 社会基盤メンテナンスエキスパート(ME)養成講座: 愛媛大学 特定教員・教授 (平成 26 年 8 月 1 日 ~平成 27 年 2 月 28 日)
17. 愛媛県教育委員会・学校防災アドバイザー (委嘱: 平成 26 年 5 月 21 日)
18. 毎日新聞: 2014.9.28 記事「地盤のプロ防災に貢献」
19. NHK ラジオ第一: 2014.10.20 防マガ「広島土砂災害の経験を忘れずに活かす」(生放送並びに音声収録)
20. 南海放送ラジオ: 平成 26 年 12 月 21 日 (日)、平成 27 年 1 月 4 日 (日)「世界の中心で愛を伝える! 青年海外協力隊」で JICA-SV についてインタビュー(宇都宮民アナウンサー)2回放送

論文・研究発表:

1. Kiyoharu Hirota and Shizuka Kamiya (2014): Re-evaluation of Landslide Caused by Hurricane Mitch 1998, Tegucigalpa Honduras. in K. Sassa et al. (eds.): Landslide Science for a Safer Geoenvironment, Vol. 3, 393-400, Springer.
2. 森脇亮・廣田清治・吉井稔雄・竹田正彦・矢田部龍一 (2014): 愛媛大学における社会基盤メンテナンスエキスパート養成講座. 「四国技報」第 27 号, 2-6.
3. 廣田清治 (2015): 広島土砂災害と斜面維持管理の話題. 平成 26 年 8 月広島土砂災害現地派遣調査・被災者支援 報告書. 公益社団法人 日本技術士会 防災支援委員会 防災会議・中国支部 防災委員会 現地防災会議. pp.50-53, 2015 年 3 月 3 日.
4. Kiyoharu Hirota and Shizuka Kamiya (2014): Re-evaluation of Landslide Caused by Hurricane Mitch 1998, Tegucigalpa Honduras. in K. Sassa et al. (eds.): Landslide Science for a Safer Geoenvironment, Vol. 3, 393-400, Springer. 2014. 6. 5, 北京で [講演].
5. 廣田清治 (2014): ホンジュラス国における地すべり調査と教育: JICA-SV の活動例として 第 53 回日本地すべり学会研究発表会 講演集, p.29. 2014. 8. 21. つくば で [講演].
6. Kiyoharu Hirota (2014): Evaluation method for Slope Stability of Catchments through the Shikoku Highway in Japan. The 12th International Symposium on Geo-disaster Reduction. 2014. 9. 6 (Fullerton, California, USA で [講演])
7. 廣田清治 (2014): ホンジュラス国テグシガルパ首都圏の地すべり特性と対策工. 日本地質学会第 121 年学術大会講演要旨, p. 153. 会場: 鹿児島大学 2014. 09. 15 [講演]
8. 廣田清治・森脇亮・竹田正彦・吉井稔・矢田部龍一 (2014): 愛媛大学における社会基盤メンテナンス・エキスパート (ME) 養成講座の取り組み. 地盤工学会四国支部平成 26 年度技術研究発表会 講演概要集: 平成 26 年 11 月, 公益社団法人地盤工学会四国支部 pp.83-84 : 2014. 11. 14 [講演]
9. 山中稔・廣田清治 (2014): 広島市安佐南区の土石流の土質特性. 地盤工学会四国支部平成 26 年度技術研究発表会 講演概要集: 平成 26 年 11 月, 公益社団法人地盤工学会四国支部 pp.71-72 :

2014. 11. 14 [講演]

10. 廣田清治・矢田部龍一・山中稔・野々村敦子(2014): 2014年8月20日広島土砂災害と斜面維持管理の仕方ー広島市安佐南区の事例. 平成26年自然災害フォーラム論文集,77-84, 土木学会四国支部. 2014.12.22 (サンポートホール高松 61 会議室 [講演])
11. 廣田清治、竹田正彦、二神透、矢田部龍一 (2015): 社会基盤メンテナンスエキスパート養成講座を通じた維持管理防災対応技術者養成への取り組み. 21世紀の南海地震と防災, pp. 31-38. 2015.01.20 (第9回南海地震四国地域学術シンポジウムで [講演])
12. 竹田正彦、二神透、廣田清治、矢田部龍一 (2015): 南海トラフ巨大地震に向けた官民学連携防災組織の結成と防災教育・啓発の展開. 21世紀の南海地震と防災, pp.39-42. 2015.01.20 (第9回南海地震四国地域学術シンポジウムで [講演])

森脇 亮

社会貢献活動：

1. 2014.10.18：愛媛大学における再生可能エネルギー研究の取り組み～サステナブルエネルギー開発プロジェクト～、「環境モデル都市まつやま」地域特性を活かした低炭素まちづくりフォーラム、松山市総合コミュニティセンター（200名）
2. ダム管理フォローアップ委員会：委員（国土交通省四国地方整備局）
3. 堤防決壊に係る調査委員会：委員（国土交通省四国地方整備局）
4. リバーカウンセラー（国土交通省四国地方整備局）
5. 河川・溪流環境アドバイザー（国土交通省四国地方整備局）
6. 四国地方整備局総合評価地域小委員会：委員（国土交通省四国地方整備局）
7. 愛媛県地方港湾審議会：委員（愛媛県）
8. 愛媛県建設工事総合評価審査委員（愛媛県）
9. 松山市総合評価審査員（松山市）
10. 松山市公営企業局総合評価審査員（松山市）
11. 「環境モデル都市まつやま」推進協議会運営委員会：委員長（松山市）

論文・研究発表：

1. 森脇亮、都築伸二、宮尾渉、笹方裕平、梶房開、“太陽光発電を利用した全天日射量の推定”、土木学会論文集 B1(水工学)Vol.71 No.4 ppI_421-I_426(2015年2月)
2. 宮川晃輔、山本拓男、大石直輝、森脇亮、“流跡線解析を用いた松山平野における海風の経路に関する研究”、平成26年度土木学会四国支部技術研究発表会(徳島市)、(2014.5.31)
3. Deepak Bikram Thapa Chhetri、谷川温子、森脇亮、“気象モデル WRF を用いた雲の再現性向上に関する基礎的研究”、平成26年度土木学会四国支部技術研究発表会(徳島市)、(2014.5.31)
4. 松尾悠平、梶房開、森脇亮、“太陽光パネルの日射センサー化に関する基礎的検討”、平成26年度土木学会四国支部技術研究発表会(徳島市)、(2014.5.31)
5. 相原研吾、森脇亮、“自己組織化マップによる風の短期予測を用いた風車のパワーアシスト機能の効率化”、平成26年度土木学会四国支部技術研究発表会(徳島市)、(2014.5.31)

6. 福嶋克武、大石直輝、森脇亮、“大気化学モデルを用いた松山平野における交通起源PMの移流拡散シミュレーション”、平成26年度土木学会四国支部技術研究発表会(徳島市)、(2014.5.31)
7. 藤森祥文、土井内至、森脇亮、“レーダー・アメダス解析雨量を用いた松山平野の降水特性”、日本気象学会2014年度春季大会(横浜市)(平成26年5月24日)
8. 土井内至、藤森祥文、森脇亮、“レーダー・アメダス解析雨量による松山平野の降水特性の基礎的検討”、平成26年度四国支部技術研究発表会(徳島市)(平成26年5月31日)

門田 章宏

社会貢献活動：

1. 重信川の自然をはぐくむ会（国土交通省松山河川国道事務,NPO,大学等）
2. 国土交通省四国地方整備局 リバーカウンセラー（国土交通省）
3. 国土交通省四国地方整備局河川・溪流環境アドバイザー（国土交通省）
4. 愛媛県建設工事総合評価審査委員（愛媛県）
5. 愛媛県建設業協会会員（NPO）
6. 日本河川協会会員（公益財団法人）

論文・研究発表：

1. Submergence effect on flow and resistance due to a single groyne, A. Kadota, W.S.J Uijtewaal, Proceedings of 7th International Conference on Fluvial Hydraulics (RIVERFLOW2014), PaperNo.A117
2. Mean flow structures and control for suitable bed morphology around successive groynes, A.Kadota, C. Asayama, Proceedings of 7th International Conference on Fluvial Hydraulics (RIVERFLOW2014), PaperNo.B004
3. 越流型単独水制の流れの抵抗に関する研究,土木学会論文集 B1(水工学) Vol.71, No.4, I_655-I_660, 2015
4. Akihiro Kadota : Submergence effect on flow and resistance due to a single groyne·Lausanne, Switzerland: 7th International Conference on Fluvial Hydraulics(RIVERFLOW2014): Sep.3-5,2014
5. Akihiro Kadota:Mean flow structures and control for suitable bed morphology around successive groynes·Lausanne, Switzerland: 7th International Conference on Fluvial Hydraulics (RIVERFLOW2014): Sep.3-5, 2014
6. 門田章宏：越流型単独水制の流れの抵抗に関する研究,第59回水工学講演会:早稲田大学 西早稲田キャンパス:2015年3月10日～12日

榊原 正幸

社会貢献活動：

1. 2014.9.21 : インドネシアにおける貧困問題と環境破壊 : 西条環境セミナー : 西条市・愛媛大学 : 西条国際ホテル : 80名

2. 2015.2.22 : 「地球科学から見た西条市の地域資源について」 : 平成 26 年度愛媛大学 COC 公開講座 in 東予 : 愛媛大学 : 西条市役所 5 階大会議室 : 97 名
3. 2015.3.2 : 西予ジオパークを活用した地域活性化 : 平成 26 年度愛媛大学 COC 公開講座 in 南予 : 愛媛大学 : 西予市役所 5 階大会議室 : 108 名
4. 松山市文化財保護審議会 : 松山市文化財保護審議会委員 : 松山市教育委員会
5. 松山市土壌汚染対策専門委員会 : 松山市土壌汚染対策専門委員 : 松山市環境部環境指導課
6. 四国西予ジオパーク推進協議会アドバイザー : 四国西予ジオパーク推進協議会 : 西予市
7. 松山市環境審議会 : 松山市環境審議会委員 : 松山市環境部環境政策課
8. 2014.12.20 : 日本地質学会四国支部第 14 回総会・講演会 優秀講演賞 : 日本地質学会四国支部 : 「カヤツリグサ科マツバイの Cs 吸収能力に関する研究」 竹原明成・榊原正幸・佐藤 康・末岡裕理・佐野 栄

論文・研究発表 :

1. 榊原正幸・畑中真菜美・末岡裕理・竹原明成・佐野 栄・世良耕一郎 : 重金属汚染地域における生物指標としてのヘビノネゴザの有用性 : 第 20 回地下水・土壌汚染とその防止対策に関する研究集会 : 和歌山 : 2014 年 6 月 19-20 日
2. 大川佳子・榊原正幸・迫田昌敏・佐野 栄 : 重金属汚染地域における生物指標としてのヘビノネゴザの有用性 : 第 20 回地下水・土壌汚染とその防止対策に関する研究集会 : 和歌山 : 2014 年 6 月 19-20 日
3. Masayuki Sakakibara, Mohamad Jahja, Yuyu Indriati Arifin, Hasriwiani Habo Abbas, Basri Mahmud, Fitri Lihawa, Sayaka Takakura, Koichiro Sera : Building of regional resilience to mercury pollution in ASGM areas of Southeast Asia : TREPSEA2014 (International Conference of Transdisciplinary Research on Environmental Problem in Southeastern Asia) : Indonesia: September 4-5, 2014
4. Idham Andri Kurniawan, Masayuki Sakakibara, Emmy Suparka, Ryohei Uenosono, and Sayaka Takakura : Geochemical Cycling for Forecasting the Big Eruption: Showa Crater, Sakurajima volcano, Southern Kyushu, Japan : TREPSEA2014 (International Conference of Transdisciplinary Research on Environmental Problem in Southeastern Asia) : Indonesia: September 4-5, 2014
5. Yuyu Indriati Arifin, Masayuki Sakakibara, Koichiro Sera, Zuhriana Yusuf, Nanang Paramata : Mercury Contamination in human hair and health assessment of artisanal gold miners in Northern Gorontalo regency of Gorontalo Province, Northern Sulawesi, Indonesia : TREPSEA2014 (International Conference of Transdisciplinary Research on Environmental Problem in Southeastern Asia) : Indonesia: September 4-5, 2014
6. Kenji Okazaki, M Shishido, Masayuki Sakakibara, Yuri Sueoka, T Kurahashi : Efforts on the purification of wastewater containing with selenium using the plants in civil engineering : TREPSEA2014 (International Conference of Transdisciplinary Research on Environmental Problem in Southeastern Asia) : Indonesia: September 4-5, 2014
7. Masahito Shishido, Kenji Okazaki, Toshiyuki Kurahashi, Masayuki Sakakibara, Yuri Sueoka :

- Consideration of the effect of remedying the Selenium using the plants at indoor cultivation experiment : TREPSEA2014 (International Conference of Transdisciplinary Research on Environmental Problem in Southeastern Asia) : Indonesia: September 4-5, 2014
8. Chisato Nakamura, Masayuki Sakakibara, Sakae Sano, Idham Andri Kurniawan : Integrated identification method of volcanic ash based on igneous petrology : TREPSEA2014 (International Conference of Transdisciplinary Research on Environmental Problem in Southeastern Asia) : Indonesia: September 4-5, 2014
 9. Yoshiko Ohkawa, Masayuki Sakakibara, Masatoshi Sakoda, Sakae Sano : Phytoremediation of heavy metal-contaminated mine drainage by aquatic macrophyte *Eleocharis acicularis* : TREPSEA2014 (International Conference of Transdisciplinary Research on Environmental Problem in Southeastern Asia) : Indonesia: September 4-5, 2014
 10. Yuri Sueoka, Masayuki Sakakibara, Koichiro Sera : Heavy metal accumulation of lichens *Stereocaulon extutum* and *Cladonia* spp. on contaminated substrata and maldistribution of the heavy metals in lichen thallus : TREPSEA2014 (International Conference of Transdisciplinary Research on Environmental Problem in Southeastern Asia) : Indonesia: September 4-5, 2014
 11. Akinari Takehara, Masayuki Sakakibara, Yuri Sueoka, Yasushi Sato, Sakae Sano : Basic experiments of Cs uptake capacity of *Eleocharis acicularis* : TREPSEA2014 (International Conference of Transdisciplinary Research on Environmental Problem in Southeastern Asia) : Indonesia: September 4-5, 2014
 12. Masayuki Sakakibara, Akinari Takehara, Koichiro Sera : Phytoremediation: Using aquatic macrophyte *Eleocharis acicularis* to clean up environments : TREPSEA2014 (International Conference of Transdisciplinary Research on Environmental Problem in Southeastern Asia) : Indonesia: September 4-5, 2014
 13. Hendra Prasetya, Masayuki Sakakibara, Koichiro Sera, Yuri Sueoka : A potential ability of *Pteris cretica* for phytoremediation in abandoned mine site : TREPSEA2014 (International Conference of Transdisciplinary Research on Environmental Problem in Southeastern Asia) : Indonesia: September 4-5, 2014
 14. Basri Mahmud, Hasriwiani Habo, Yuyu Indriati, Masayuki Sakakibara, Koichiro Sera : Mercury Concentration of Hair of Inhabitants in Southern Sulawesi Province : TREPSEA2014 (International Conference of Transdisciplinary Research on Environmental Problem in Southeastern Asia) : Indonesia: September 4-5, 2014
 15. 末岡裕理・榊原正幸・世良耕一郎 : 重金属汚染地域に自生する地衣類における地衣類－基盤相互作用 : 第14回日本地質学会四国支部総会・講演会 : 愛媛 : 2014年12月20日
 16. 竹原明成・榊原正幸・佐藤 康・末岡裕理・佐野 栄 : カヤツリグサ科マツバイのCs吸収能力に関する研究 : 第14回日本地質学会四国支部総会・講演会 : 愛媛 : 2014年12月20日
 17. 大川佳子・榊原正幸・迫田昌敏・世良耕一郎・佐野 栄 : 廃止鉱山における重金属に富む坑廃水のカヤツリグサ科マツバイによるファイトレメディエーション : 第14回日本地質学会四国支部総会・講演会 : 愛媛 : 2014年12月20日

18. Hendra Prasetia, Masayuki Sakakibara, Yuri Sueoka, Koichiro Sera : A Potential Ability of *Pteris cretica* for Phytoremediation in Abandoned Mine Site : 第14回日本地質学会四国支部総会・講演会 : 愛媛 : 2014年12月20日
19. Nurfitri Abdul Gafur, Mohamad Jahja : Boiled Kapok Fibers as Mercury (Hg) Absorber : 第14回日本地質学会四国支部総会・講演会 : 愛媛 : 2014年12月20日

二神 透

社会貢献活動：

1. 平成26年10月14,23日, 小野中学校での講義「小野中プロジェクト～ようこそ先輩～」, 松山市小野中学校, 約40名
2. 平成26年11月12日, 四国多自然川づくり担当者会議講師場所, 国土交通省四国地方整備局, 約30名
3. 平成26年11月14日, 「南海トラフ巨大地震・豪雨災害・土砂災害からかけがえのない命を守るための備え」、約100名
4. 平成26年1月29日, 新居浜市泉川公民館にて防災講演, 泉川公民館(泉川まちづくり協議会), 約40名
5. 平成27年1月15日, 「避難シミュレータについて」松山市自主防災組織ネットワーク会議分科会、西消防署 4階講堂、約50名
6. 平成27年2月18日, 「避難シミュレータについて」松山市自主防災組織ネットワーク会議分科会、市保健所・消防合同庁舎6階大会議室、約50名
7. 平成27年2月19日, 「避難シミュレータについて」松山市自主防災組織ネットワーク会議分科会、市保健所・消防合同庁舎6階大会議室、約50名
8. 平成27年2月20日, 「避難シミュレータについて」松山市自主防災組織ネットワーク会議分科会、南消防署 5階大会議室、約50名
9. 平成27年1月16日, 「運送業の労働災害防止及び運行管理について」トラック協会、大洲市たる井、約50名
10. 平成27年1月24日, 「災害と自主防災会について」、西長戸町内会、メルパルク松山、約30名
11. 平成27年2月5日, 「老人福祉施設における南海地震等災害時の対策について」第3回四国老協セミナー、全日空、約200名
12. 平成27年2月7日, 「南海トラフ巨大地震による愛媛県の被害想定と命を守るための備え」ダンボクラブ、愛媛大学教育学部1号館4階401講義室、約50名
13. 平成27年2月18日, 「愛媛県南海トラフ巨大地震被害想定と物流業のBCP」、愛媛県トラック総合サービスセンター会議室、約50名
14. 平成27年2月24日, 「今後の玉川町における様々な災害の備え」、今治市社会福祉協議会、約50名
15. 平成27年3月11日「南海トラフ巨大地震と青年の役割」第15回志国青年連続講座創価学会愛媛文化会館、約30名
16. 災害に強いまちづくり検討会委員(四国地方整備局)
17. 石手川流域ビジョン委員会

18. 重信川の自然をはぐくむ会 (NPO)
19. 愛媛県国土利用計画審議会委員 (愛媛県)
20. 愛媛県河川整備検討委員会 (愛媛県)
21. 愛媛地域防災力研究連携協議会避難問題研究会座長 (愛媛大学)
22. 平成 26 年度愛媛県教育委員会学校防災アドバイザー (愛媛県)
23. あいテレビ番組審議会委員 (あいテレビ)
24. 愛媛県教育委員会学校防災アドバイザー
25. 愛媛県学校防災教育推進委員会
26. 平成 26 年度愛媛県防災士養成講座講師

論文・研究発表：

1. 二神透、國方祐希：自主防災会・行政・専門家による地域防災力支援システムの開発
土木学会論文集 F6 (安全問題), 安全問題・論文集 8 頁 2014.
2. 二神透、今西桃子、井出皓介：大震時火災延焼シミュレーション・システムを用いた命を守るための地域ルール作りの実践研究
土木学会論文集 F6 (安全問題), 安全問題・論文集 8 頁 2014.
3. 羽鳥剛史、二神透：地震火災に関わるメタ無知と災害シミュレーションの効果検証究, 土木学会論文集 F6 (安全問題)
土木学会論文集 F6 (安全問題), 安全問題・論文集 8 頁 2014.
4. 二神透、今西桃子、國方祐希：災害時避難シミュレータを用いた地域の減災ルールづくりと安全・安心をつなぐ実践研究
第 49 回土木計画学講演集, CD-ROM6 頁, 2014.
5. 二神透、國方祐希、今西桃子：持続可能な地域防災力向上における支援システムの信頼性向上に関する研究、土木計画学研究・講演集
第 49 回土木計画学講演集, CD-ROM6 頁, 2014.
6. 秋月 恵一、二神透、井出皓介：松山市における患者の傷病が救急搬送に与える影響分析
第 49 回土木計画学講演集, CD-ROM6 頁, 2014.
7. 松山 優貴、二神透、河合 玲奈：大震時火災延焼・避難シミュレータを活用した防災教育への展開研究
第 48 回土木計画学講演集, CD-ROM6 頁, 2013.
8. 二神透、國方祐希：緊急開口部を活用した愛媛県における山間部孤立対策・救急支援のためのシミュレータ開発, 平成 26 年度土木
学会四国支部第 20 回技術研究発表会, 愛媛大学, 2014 年 5 月 31 日.
9. 二神透、松山優貴、戸高匠：地震火災延焼・避難シミュレータを用いた防災教育に関する基礎的研究, 平成 26 年度土木
学会四国支部第 20 回技術研究発表会, 愛媛大学, 2014 年 5 月 31 日.
10. 胡子浩輝：津波災害を対象とした避難シミュレータの開発適用, 平成 24 年度土木
学会四国支部第 20 回技術研究発表会, 愛媛大学, 2014 年 5 月 31 日.

岡村 未対

社会貢献活動：

1. 社会資本整備審議会道路分科会 委員 (国土交通省道路局)
2. 堤防研究会 委員 (国土交通省 水資源国土保全局)
3. 堤防研究会耐震 WG 委員 (国土交通省 水資源国土保全局)
4. 河川堤防技術に関する検討会 委員 (国土交通省水管理・国土保全局)
5. 社会インフラのモニタリング技術活用推進検討委員会 委員 河川堤防 WG (国土交通省大臣官房)
6. 未来を切り拓く技術開発のあり方検討WG 委員 (国土交通省大臣官房)
7. 四国地方整備局総合評価地域小委員会 委員 (国土交通省四国地方整備局)
8. Technical Committee 203 - Earthquake Geotechnical Engineering and Associated Problems 委員 (国際地盤工学会)
9. Technical Committee 303 - Coastal and river disaster mitigation and rehabilitation 委員会 委員 (国際地盤工学会)
10. International Journal of Physical Modelling in Geotechnics 編集委員会 委員 (国際地盤工学会)
11. Asian Technical Committee 3 - Geotechnology for Natural Hazards 委員 (地盤工学会)
12. 地盤工学会四国支部 副支部長 (地盤工学会)
13. 土木学会アジア土木学協会連合協議会担当委員会 幹事 (土木学会)
14. 土木学会四国支部 四国ブロック南海地震研究委員会 幹事 (土木学会)
15. 地盤工学会 理事・総務部長 (地盤工学会)
16. 地盤工学会 代議員 (地盤工学会)
17. 地盤工学会 表彰委員会 副委員長 (地盤工学会)
18. 集積場管理対策研究会 (経済産業省原子力保安院) 委員
19. 土木学会地盤工学委員会堤防小委員会 委員長 (土木学会)
20. 土木学会教育企画人材育成委員会 委員長 (土木学会)
21. (財)FLIP 研究会 顧問
22. Air-Des 工法研究会 顧問
23. ネパールエンジニアリングカレッジ客員教授
24. 2014年5月 地盤工学会功労章

論文・研究発表：

1. 岡村未対・高橋章浩(2014)：講座「河川堤防」：第6章地盤工学会誌, Vol. 62, No. 9
2. 岡村未対(2014)：小型遠心模型実験装置，地盤工学会誌, Vol. 62, No. 9
3. M. Okamura and S. Hayashi (2014): Damage to river levees by the 2011 Off the Pacific Coast Tohoku earthquake and prediction of liquefaction in levees, Geotechnics for Catastrophic Flooding Events, pp. 57- 67 (Keynote Lecture)
4. Narayan Marasini and Mitsu Okamura (2014): Numerical simulation of centrifuge tests on seismic behavior of residential building on liquefiable foundation soil. Proc. Computer Methods

and Recent Advances in Geomechanics – Oka, Murakami, Uzuoka & Kimoto (Eds.) Taylor & Francis Group, ISBN 978-1-138-00148-0, pp. 847- 852.

5. Narayan Marasini and Mitsu Okamura (2014): Numerical simulation of dynamic centrifuge tests on seismic behavior of residential building on liquefiable foundation soil. Proc. International Symposium Geohazards: Science, Engineering and Management, November 20-21, 2014, pp. 27-34
6. Mitsu Okamura and Yuichi Tomida (2015): Full scale test on cost effective liquefaction countermeasure for highway embankment, 6IGS-2015 Chennai
7. Narayan Marasini and Mitsu Okamura (2015): Air injection to mitigate liquefaction for under existing structures, Int. J. Physical Modelling in Geotechnics, Vol.15 , No. 1
8. 岡村未対・林秀太朗(2014):薄い砂層の液状化判定法に関する研究, 第14回地震工学シンポジウム, pp. 2427-2436
9. 富田雄一, 紙田直充, 内田純二, 岡本辰也, 岡村未対(2014): 液状化対策としての地盤不飽和工法の道路盛土への適用性に関する研究, 地盤工学ジャーナル Vol. 9, No. 3

松本 啓治

社会貢献活動:

1. 平成 26 年 5 月 9 日 「松山市が進めてきた『坂の上の雲』のまちづくり」 主催: 愛媛大学防災情報研究センター 会場: 愛媛大学南加記念ホール 参加者: 約 200 名
2. 平成 27 年 2 月 18 日 「松山市のまちづくりとアーバンデザインセンター」 全日本建設技術講習会 主催: 全日本建設技術協会 会場: 市民会館中ホール 参加者: 約 250 名
3. 松山市坂の上の雲ミュージアム指定管理者選定審議会 審議会会長

千代田 憲子

社会貢献活動:

1. 2014.8.28:街路の景観・風景づくりについて:平成 26 年度全国景観会議全体研修会 基調講演:全国景観会議:子規記念博物館・講堂:約 110 名
2. 2014.12.3:沿道景観の貢献要素について:平成 26 年度景観法・歴史まちづくり法活用勉強会:国土交通省四国地方整備局:高松サポート合同庁舎・アイホール:約 50 名
3. 景観施策アドバイザー:国土交通省四国地方整備局
4. 愛媛県景観形成アドバイザー:愛媛県
5. 愛媛県公共事業評価委員会:委員:愛媛県
6. 愛媛県地方港湾審議会:委員:愛媛県
7. 愛媛県屋外広告物審議会:委員:愛媛県
8. 愛媛県道路懇談会:委員:愛媛県
9. 松山市景観審議会:委員長:松山市
10. 松山市都市景観景観賞選考部会:委員:松山市
11. 今治市景観まちづくり会議:委員長:今治市

12. 非常勤講師：久留米大学
13. 松山市都市再生協議会(一番町大街道口景観整備専門部会)：委員：松山市都市再生協議会
14. 松山アーバンデザインセンター非常勤スタッフ：プロジェクトアドバイザー：松山アーバンデザインセンター(UDCM)
15. 重信川河口ワーキング部会：委員：重信川の自然をはぐくむ会
16. 公益社団法人愛媛県建築士会建築甲子園委員会：委員：公益社団法人愛媛県建築士会
17. 愛媛県文化財保護審議会：委員：愛媛県
18. 愛媛県伝統的特産品産業振興対策委員会：委員長：愛媛県
19. 愛媛県総合科学博物館協議会：委員：愛媛県
20. JA 共済小・中学校交通安全ポスターコンクール愛媛県審査会：委員長：JA 共済連愛媛
21. 愛媛広告賞：審査員：愛媛広告協会

論文・研究発表：

1. 大橋淳史・段王里菜・隅田学・藤田昌子・石塚真子・千代田憲子：伝統の継承プログラムを通じたグローバルマインドの育成と成果報告：愛媛大学教育実践総合センター紀要：第 32 号・25-39：2014・7
2. 千代田憲子：沿道景観の貢献要素に関する考察-2：愛媛大学教育学部紀要：第 61 巻、171-180：2014・10

羽鳥 剛史

社会貢献活動：

1. 平成 26 年 7 月 24 日 「公的討論と合意形成の課題」：平成 26 年度四国地方整備局管内技術・業務研究発表会 特別講演：四国地方整備局
2. 平成 26 年 6 月 13 日 松山市新玉小学校における環境教育授業『「かしこい電気の使い方」プロジェクト』
3. 平成 27 年 1 月 14 日 松山市新玉小学校におけるまちづくり授業
4. 平成 26 年 7 月 18 日 愛媛大学大学改革シンポジウム『ステークホルダーと共に創る地域の未来～「地域の持続的発展に責任を持つ大学」を目指して～』での講演
「国土・地域の総合的マネジメント：工学部社会デザインコースにおける文理融合の実践」
5. 松山市自転車等駐輪対策協議会委員
6. 文部科学省 地域防災対策支援研究プロジェクト 課題「科学的・社会的好奇心を刺激する自発的減災活動の推進」 ワークショップコーディネータ
7. 国土技術研究センター道路空間委員会委員
8. 松山市都市再生協議会委員
9. 松山市アーバンデザインセンター副センター長
10. 松山市アーバンデザインスクール運営委員会委員
11. 松山市中心市街地賑わい再生社会実験運営委員会委員長
12. 環境省「平成 26 年度 ESD 環境教育プログラムの作成・展開業務（四国地域）」に関する実行委員会

委員

論文・研究発表：

1. 羽鳥剛史・小松佳弘・藤井聡：個人の大衆性が弁証法的議論に及ぼす影響に関する実験検討，
Contemporary and Applied Philosophy, No.5, pp. 1052-1073
2. 羽鳥剛史・中神ちなつ：地域住民の発言行動の規定要因に関する研究，土木学会論文集 D3(土木計画学), Vol.70, No.5
3. 羽鳥剛史・二神透：地震火災に関わるメタ無知と災害シミュレーションの効果検証，土木学会論文集 F6(安全問題), Vol. 70, No. 2
4. 羽鳥剛史・梶原一慶：内省機会の提供が保護価値の変容に及ぼす影響—公共事業合意形成問題への示唆—，人間環境学研究, Vol. 12, No. 2, pp. 105-111
5. Kobayashi, K., Hatori, T., and Jeong, H.: Trust formation in collaborative water management. In: Kobayashi, K., Syabri, I., Dwi, I. R., Jeong A., & Jeong, H. (Eds). Community Based Water Management and Social Capital, pp. 69-88, Intl Water Assn, 2014.

片岡 由香

社会貢献活動：

1. 2014.7.26：「風景づくり夏の学校 2014」：東京大学復興デザイン研究体・UDCM：東京大学：約70名
2. 2014.11.1：「松山アーバンデザインセンター」：まちなかひろばオープニングフォーラム：松山市・UDCM：坂の上の雲ミュージアム：約80名
3. 2014.11.12：「マチ★スキ！」：CATV
4. 2014.12.11：「伊予弁」：愛媛新聞
5. 2014.12.25：第1回道後温泉活性化まちづくり勉強会：椿の湯2階：30名
6. 2014.1.15：愛媛大学工学部環境建設工学科 若手研究会講演
7. 2015.1.22：「伊予弁」：愛媛新聞
8. 2015.1.22：第2回道後温泉活性化まちづくり勉強会：椿の湯2階：30名
9. 2015.1.24：「ミュージアムカフェ vol.128」：産経新聞
10. 2015.2.19：「伊予弁」：愛媛新聞
11. 2015.2.26：第3回道後温泉活性化まちづくり勉強会：椿の湯2階：30名
12. 2015.3.19：「伊予弁」：愛媛新聞
13. 2015.3.30：「マチラヂ」：FM 愛媛
14. 2015.3.31：「Morning Hot Shot」：FM 愛媛
15. 2014.11.5：「アーバンデザインセンターについて」：市政広報番組「大好き！まつやま」収録：南海放送：UDCMおよびみんなのひろば
16. 松山市都市再生協議会（中心市街地賑わい再生社会実験専門部会）委員
17. 松山市都市再生協議会（一番町大街道口景観整備専門部会）委員
18. 松山市美しい街並みと賑わい創出事業審査委員会専門員

19. 松山市社会実験運営委員会 委員
20. アーバンデザインスクール運営委員会 委員

論文・研究発表：

1. 片岡由香，新階寛恭，松本啓治，羽藤英二：公学民協働による都市空間形成に関する研究－松山アーバンデザインセンターの取組みを事例として－：日本都市計画学会中国四国支部：都市計画研究講演集13：pp13-14：2015. 4

5. 管理・運営

5.1 運営委員会議事録

5.1.1 平成26年度 第1回 防災情報研究センター運営委員会（持ち回り）

日 時：平成26年4月10日（木）

場 所：（持ち回り）

出席者：矢田部センター長，高橋副センター長，竹田副センター長，新階副センター長，
榊原委員，相引教授，吉井教授，松尾教授，瀬野社会連携支援部長

審議事項：

1. 防災情報研究センター（アーバンデザイン研究部門）兼任教員の推薦について

防災情報研究センター（アーバンデザイン研究部門）の専任教員として，大学院理工学研究科生産環境工学専攻都市環境工学，松村暢彦教授を推薦することとした。なお，任期は，平成26年4月1日から2年間である。

5.1.2 平成26年度 第2回 防災情報研究センター運営委員会

日 時：平成26年5月19日（月）16：00～16：54

場 所：社会連携推進機構2階研修室

出席者：矢田部センター長，高橋副センター長，竹田副センター長，新階副センター長，
瀬野社会連携支援部長，松尾教授

陪席者：二神准教授，竹村 TL，大野，山内

審議事項：

1. 客員研究員受け入れについて

矢田部センター長から資料1に基づき，大山雄己氏の客員研究員の受け入れについて，履歴書，研究業績等目録の説明があり了承された。

2. 平成25年度活動報告会の開催について

矢田部センター長から資料2に基づき，5月28日（水）開催の平成25年度活動報告について，防災情報研究センター活動報告は，矢田部センター長が四国地方整備局 林総括防災調整官に講演をお願いしているとの報告があった。また，参加人数が少ないようであるから，学生等にも声かけをするようにと指示があった。

3. えひめ防災フォーラム2014について

矢田部センター長から資料3に基づき，8月12日（火）ひめぎんホールメインホールで開催するとの説明があった。なお，サブタイトルに関しては，「愛媛県減災10分の1計画達成を目指して」から「南海トラフ巨大地震から生命を守る」に変更された。パネルディスカッションに関しては，「減災10分の1に向けて，何をなすべきか」から「さらなる減災に向けて，何をなすべきか」に変更さ

れた。

4. 防災キャラバンについて

矢田部センター長から資料4に基づき、6月29日(日)には内子で、9月7日(日)には伊方町で防災キャラバンを実施するようにとの指示があった。9月6日(土)には、高知県で5大学の学長が集まる催し物が行われるが、それに参加した後伊方町へ移動するようにとの指示がなされた。

報告事項：

1. 平成26年度公開講座「防災士養成講座」について

矢田部センター長から資料5に基づき、防災士養成講座についての説明がなされた。また、第1日目の3限目は森准教授から二神准教授へ変更するという報告があった。

2. 社会基盤メンテナンスME人材養成講座 地域定着化・カリキュラム検討委員会について

竹村TLから資料6に基づき、5月23日(金)に工学部大会議室で第1回愛媛社会基盤ME養成講座地域定着化及びカリキュラム検討委員会が行われるとの説明があった。

3. その他

竹田副センター長から、4月21日(月)、23日(水)、24日(木)、25日(金)に行われた「東南海・南海地震防災対策に関する調査研究」報告会について説明があった。また、5つの研究会に関しては継続するとの説明がなされた。これに関し、矢田部センター長から竹田副センター長と二神准教授で今後の方向性を話し合うようにとの指示がなされた。

新階副センター長からは、5月9日(金)南加記念ホールで開催されたアーバンの講演会について200名ほどが参加したと説明がなされた。矢田部センター長からは、10月ぐらいに第2回目の講演会を開催してはどうかとの指示があった。

5.1.3 平成26年度 第3回 防災情報研究センター運営委員会(持ち回り)

日 時：平成26年6月30日(金)

場 所：(持ち回り)

出席者：矢田部センター長、高橋副センター長、竹田副センター長、新階副センター長、
相引教授、松尾教授、吉井教授、瀬野社会連携支援部長

審議事項：

1. 愛媛大学防災情報研究センター特定職員(教員)の選考について

文部科学省「成長分野等における中核的専門人材養成の戦略的推進事業」地域プロジェクトとして本学が採択されることとなり、平成26年8月1日付けで防災情報研究センター教授(特定教員)として、廣田清治氏を任用することとした。

また、任期は、平成27年2月28日までとする。

なお、持ち回り運営委員会として、各委員に上記審議事項を諮った結果、全員異議なく、了承された。

5.1.4 平成26年度 第4回 防災情報研究センター運営委員会

日 時：平成26年11月12日（月）9：00～10：05

場 所：社会連携推進機構2階研修室

出席者：矢田部センター長，高橋副センター長，竹田副センター長，
新階副センター長（代理 松本教授），吉井教授（代理 廣田教授），
松尾教授（代理 二神准教授），瀬野社会連携支援部長

陪席者：竹村 TL，大野

審議事項：

1. 平成27年度年度計画について

資料1に基づき，矢田部センター長から防災情報研究センター関係の平成27年度年度計画の説明があり，防災については，二神准教授が，アーバンに関するところは，アーバンデザイン研究部門で，コンソーシアムについては，矢田部センター長が再度確認をし，25日開催の社会連携推進会議に提出することで，了承された。

2. 防災キャラバンについて

資料2に基づき，二神准教授から今年度末で愛媛県内20のすべての市町で開催することで調整しているとの説明があった。矢田部センター長から防災情報研究センターのHPにおいて，窓（バナー）を作り，趣旨，活動方針，目標を掲載するようとの指示があった。なお，二神准教授が担当することで，了承された。

3. 愛媛大学防災情報研究センター災害調査車(アウトランダー)利用規則等について

資料3に基づき，竹田副センター長から平成24年度補正（復興）予算で購入した経緯があり，原則としては災害・調査用の使用であるが，支障のない範囲で学内でも使用できるように，使用規則等を作成したとの説明があり，了承された。

報告事項：

1. 社会基盤メンテナンスエキスパート養成講座について

資料4に基づき，廣田教授から今年度の社会基盤メンテナンスエキスパート養成講座の概要，日程，受講者（26名），今後の予定等の説明があった。矢田部センター長から概要，目的，講義内容等を防災情報研究センターHPに掲載するようとの指示があった。（廣田教授が作成の上，事務へ提出，セラー広告へ依頼する。）ME（民間）資格については，竹田副センター長が国土交通省に確認することとした。矢田部センター長から来年度以降愛媛大学において，独立した資格認定機関となるように検討していくことが必要であるとの説明があった。

2. えひめ防災フォーラム2014について

二神准教授から来年度以降，地域防災計画を策定していることもあり，地方自治体の危機管理，自主防災会，学校関係者，婦人防災会の連携のあり方について，来年8月にセミナー（フォーラム）を開催する方向で検討するとの報告があった。また，矢田部センター長から防災関連の組織（官・民）からの外部資金を獲得する仕組みが必要，面白い企画を考えるようとの指示があった。

3. 「ICT利活用による防災・減災シンポジウム」を開催

資料5に基づき、矢田部センター長から四国総合通信局（総務省）との共催でICTを活用した防災に関するシンポジウムを実施したとの報告があった。

4. 四国巨大災害危機管理フォーラムを開催

資料6に基づき、矢田部センター長から四国5大学危機管理部門を学長会議の下に設置したこと及び工学系6学会との連携において、9月高知市において、5大学長・6学会長出席の下、四国巨大災害危機管理フォーラムを開催したこと、来年の3月に愛媛大学で開催を計画しているとの報告があった。

5. 広島土砂災害の調査報告会を開催

資料7に基づき、廣田教授から8月20日に（広島市で）発生した土砂災害の調査を、矢田部センター長をはじめ3名の教員が実施した報告を行ったこと等の説明があった。

6. 松山アーバンデザインセンター 拠点施設・まちなか広場のオープンについて

資料8に基づき、松本教授から11月1日に開設した「みんなのひろば・松山アーバンデザインセンター」を平成28年2月までの社会実験として実施すること、アーバンデザインスクールの実施（まちづくり全般に広がりのあるスクールにしたい。）等の説明があった。現在、ひろばと多目的スペースは、子どもたちや若者が主に利用しているが、今後は、大学の教職員も参画していただきたいとの依頼があった。またアーバンデザインセンターの新聞を作成しているとの紹介があり、HPも現在構築中である。（でき次第、広報していく予定である。）特に学生のアイデアや活力を生かしたイベント・スクールが中心であるとの説明があった。矢田部センター長から市民に愛着のある場所にするための方策（お茶会の実施等）を、地域の方々と考えてほしいとの依頼があった。またアーバンデザインスクールに、地元企業の優秀な社員を参加していただき、高度なコミュニティが築けるようなスクールになるように呼びかけて欲しいとの依頼が併せてあった。

5.1.5 平成26年度 第5回 防災情報研究センター運営委員会（持ち回り）

日 時：平成27年1月6日（火）

場 所：（持ち回り）

出席者：矢田部センター長、高橋副センター長、竹田副センター長、新階副センター長、
相引教授、松尾教授、吉井教授、瀬野社会連携支援部長

審議事項：

1. 愛媛大学防災情報研究センター客員研究員の受入について

アーバンデザイン研究部門における社会実験の調査に関する研究を行うために客員研究員として石飛直彦氏を客員研究員として受け入れることとした。

なお受入期間は、社会連携推進会議承認日～平成28年3月31日の予定。

なお、持ち回り運営委員会として、各委員に上記審議事項を諮った結果、全員異議なく、了承された。

5.1.6 平成26年度 第6回 防災情報研究センター運営委員会（持ち回り）

日 時：平成27年1月19日（金）

場 所：（持ち回り）

出席者：矢田部センター長，高橋副センター長（議題2を除く），竹田副センター長，
新階副センター長，相引教授，松尾教授，吉井教授，瀬野社会連携支援部長

審議事項

1. 愛媛大学防災情報研究センター特定職員（教員）の退職について

文部科学省「成長分野等における中核的専門人材養成の戦略的推進事業」の地域プロジェクトが採択され，特定教員として任用した廣田清治教授の期間満了に伴う退職。

平成27年2月28日退職予定。

2. 客員教授等の称号付与について（新規申請）

別紙1に基づき，今年度退職予定の高橋治郎氏を来年度から客員教授として称号を付与することについて了承された。なお，社会連携推進機構，人事委員会の審議を経て，4月1日任用の予定である。

3. 客員教授等の称号付与について（任期更新）

別紙2に基づき，来年度引き続き客員教授等として称号を付与することについて了承された。なお，社会連携推進機構，人事委員会の審議を経て，1年間の任期更新の予定である。

以上，持ち回り運営委員会として，各委員に上記審議事項を諮った結果，全員異議なく，了承された。

5.1.7 平成26年度 第7回 防災情報研究センター運営委員会（持ち回り）

日 時：平成27年2月10日（火）

場 所：（持ち回り）

出席者：矢田部センター長，高橋副センター長，竹田副センター長，新階副センター長
相引教授，松尾教授，瀬野社会連携支援部長

審議事項：

1. 防災情報研究センター副センター長の変更について

別紙1のとおり高橋治郎副センター長の退職に伴い，本センター兼任教員の吉井稔雄教授を防災情報研究センター副センター長として平成27年4月1日～平成28年3月31日までの1年間職務付加させてることです承された。

2. 愛媛大学防災情報研究センター特定職員（教員）の任用更新について

別紙2のとおりアーバンデザイン研究部門を担当している松本啓治（特定教員）教授及び片岡由香（特定教員）助教の任用を平成27年4月1日～平成28年3月31日までの1年間任用を更新することです承された。

5.1.8 平成26年度 第8回 防災情報研究センター運営委員会（持ち回り）

日 時：平成27年3月10日（火）

場 所：（持ち回り）

出席者：矢田部センター長，高橋副センター長，竹田副センター長，
相引教授，吉井教授，松尾教授，榊原教授，瀬野社会連携支援部長

審議事項：

1. 愛媛大学防災情報研究センター特定職員(教員) の採用について

資料1に基づき、防災情報研究センター・アーバンデザイン研究部門の充実を図ることを目的に、今年度退職予定の愛媛大学副学長曲田清維教授を特定教員(教授)として、平成27年4月1日～平成28年3月31日までの1年間任用することです承された。

2. 愛媛大学客員教授の称号付与について(新規)

資料2に基づき、防災情報研究センター・アーバンデザイン研究部門の充実を図ることを目的に、今年度退職予定の防災情報研究センター新階寛恭教授を客員教授として、平成27年4月1日～平成28年3月31日までの1年間称号を付与することです承された。

5.1.9 平成26年度 第9回 防災情報研究センター運営委員会

日 時：平成27年3月11日（水）10：00～10：52

場 所：社会連携推進機構2階研修室

出席者：矢田部センター長，高橋副センター長(代理 二神准教授)，竹田副センター長，新階副センター長，相引教授，吉井教授，松尾教授，瀬野社会連携支援部長

陪席者：池内副課長，竹村TL，大野

審議事項：

1. 兼任教員の任命について(新規)

資料1に基づき、矢田部センター長から説明(全先生は、社会基盤メンテナンス等の人材育成をはじめ社会基盤部門の充実を図る必要があること、ネトラ先生は、アジア・地域防災情報ネットワーク部門の中心的役割を担っている。)があり、兼任教員2名の任命が了承された。

2. 客員研究員の受入れについて

資料2に基づき、矢田部センター長から説明(アーバンデザイン研究部門の立ち上げからワークショップ等を担当するなどの支援をいただいた。)があり、客員研究員の受け入れについて、了承された。

3. 後期外部評価委員会の開催について

資料3に基づき、矢田部センター長から後期について3月26日に実施することです承された。

4. 愛媛大学防災情報研究センター外部評価実施規程の一部改正について

資料4に基づき、矢田部センター長から防災情報研究センターでは、外部評価を年2回実施しているが、開催目的である受託研究及び共同研究についての評価及び改善の指導が年度での契約が多

いことや外部委員の日程調整が困難なため、年度末に1回開催することで了承された。(規程の一部改正についても了承)

5. NEXCOとの連携会議の開催について

資料5に基づき、矢田部センター長からNEXCOとの(協定に基づく)連携会議を明日、校友会館2階サロンにおいて、15時から実施するとの説明があり了承された。

6. 防災キャラバンについて

資料6に基づき、二神准教授から防災キャラバンを平成23年から愛媛県下20の市町で開催してきたが、今年の6月7日砥部町を最後に一巡することから、次回からは自主防災士会を中心とした一般市民を対象とした講演会を計画したいとの説明があり、矢田部センター長からフォーラムを含めて、次回の運営委員会までに企画(案)を作成することの指示があった。また相引教授から地域には拠点病院も多く、病院関係者も参画できるイベントも計画してほしいとの説明があった。

7. 愛媛大学公開講座「防災士養成講座」の開催について

資料7に基づき、二神准教授から来年度の防災士養成講座についての実施について説明があり、了承された。なお、矢田部センター長から松山市と協力し、防災士の継続教育について、次回の運営委員会までに企画(案)を作成することの指示があった。

8. 肱川総合水防演習への参加について

資料8に基づき、竹田副センター長から5月31日(日)大洲市において肱川総合水防演習が開催され、竹田副センター長がラジコンヘリによる空撮調査などのイベントがあるとの説明があり、矢田部センター長から折角の機会なので留学生等を連れて行きたいとの報告があった。

報告事項:

1. 社会基盤メンテナンスエキスパート養成講座について

資料9に基づき、竹田副センター長から養成講座の概要及びシンポジウムの内容等の説明があり、来年度以降についても、社会基盤の維持管理・診断について人材養成の中核的な役割を果たしていきたいとのことであった。矢田部センター長からシンポジウムのような報告会を松山市以外の地域での開催、また愛媛ME認定者の同窓会を作るようにとの指示があった。

2. 四国地方12月豪雪災害対策と長野県神城断層地震被害調査報告

資料10に基づき、矢田部センター長から調査報告会の開催報告があった。

3. 国際防災講演会「ネパールの斜面防災の現状と防災組織の役割」報告

資料11に基づき、矢田部センター長から国際防災講演会の報告があった。

4. 松山アーバンデザイン研究センター運営委員会報告

資料12に基づき、新階副センター長からアーバンデザイン研究部門の運営委員会報告及び今年度の松山アーバンデザインセンターの取り組みについての説明があった。

5. その他

机上配付に基づき、竹田副センター長から京都大学で開催される第2回世界サミットへの情報提供を英語版で行いたいとの説明があり、また、防災情報研究センターHPでも見られるようにしたいとの説明が併せてあった。

5.2 外部評価委員会議事録

5.2.1 平成26年度防災情報研究センター前期外部評価委員会

日 時：平成26年10月7日（火）10：00～10：55

場 所：愛媛大学社会連携推進機構2階研修室

委員出席者：

南海放送（株）社長室局次長兼番組審議会事務局長	白石 享三
株式会社芙蓉コンサルタント日本技術士会四国本部副本部長	須賀 幸一
放送大学愛媛学習センター所長	森 孝明
（株）いよぎん地域経済研究センター取締役社長	山崎 正人

陪 席 者：

矢田部センター長、高橋副センター長、竹田副センター長、新階副センター長、相引教授、吉井教授、榊原教授、瀬野社会連携支援部長、竹村TL、岩崎

議事に先立ち、ここ近年の噴火や土砂災害、震災などの自然災害がタイミング悪く立て続けに発生したこと、将来首都直下型地震や南海トラフ巨大地震が発生する可能性が非常に高くなったことに伴い、地域の防災力を向上させていかななくてはならない。なお今年度から防災情報研究センターは、松山市都市再生協議会からの寄附を受け、アーバンデザイン研究部門を設置し、松山市が安心、安全で、魅力のあるまちづくり構想を目指しているとの説明が矢田部センター長からあった。

また愛媛大学防災情報研究センター外部評価委員会要領第4条第1項に基づき、森孝明放送大学愛媛学習センター長を委員長（議長）に選出された。

審議事項：

議題1. センター活動の概要報告について

矢田部防災情報研究センター長から資料3に基づき、平成26年度の上半期における活動報告等があった。

議題2. 受託研究・共同研究に対する概要

矢田部防災情報研究センター長等から資料4に基づき、受託研究3件、寄付講座1件の説明が下記のとおり説明があり、全委員から先導的な活動であり、防災情報研究センターとして、ふさわしい研究であるとの評価をいただいた。

受託研究1「科学的・社会的好奇心を刺激する自発的減災活動の推進」

研究者 森伸一郎

発表者 矢田部龍一

受託研究2「平成26年度成長分野等における中核的専門人材養成等の戦略的推進」

研究者 矢田部龍一

発表者 吉井稔雄

寄付講座「寄附講座 アーバンデザイン研究部門」

研究者 新階寛恭, 松本啓治, 片岡由香

発表者 新階寛恭

受託研究 3「道後温泉活性化基本計画策定教務委託」

研究者 新階寛恭, 松本啓治, 片岡由香

発表者 新階寛恭

議題 3. センター活動への助言について

山崎委員から社会基盤インフラに関して、民間にもできることはないか助言してほしいとの依頼があり、吉井教授から①インフラの維持管理について現状を理解していただくこと②優先順位（アセットメントマネジメント）を理解していただくこと③社会インフラに関する情報発信について協力いただきたいとの回答を行った。

白石委員から防災情報研究センターは、アーバンデザイン研究部門も含めて、新しい幅広い活動（U・30都市計画都市設計提案協議など）をされていることと評価いただき、新階副センター長から道後温泉を含めた松山市全体の都市デザインを模索しているところであるとの説明があった。併せて高橋副センター長から道後温泉については、駐車場、観光客や地元の人々の流れなどマネジメントをしているところであると説明があった。

須賀委員から防災土育成等地域の防災力向上に向けた活動、ME 講座なども含め社会人教育にも力を入れていることは地域にとってはありがたいことであると説明があり、矢田部センター長からリカレント教育においては、①外部資金を活用したい②受講料を徴収できるようなシステムを構築する③各自治体との連携において、競争的資金や補助金を獲得していきたいとの説明があった。

5.2.2 平成 26 年度防災情報研究センター後期外部評価委員会

日 時：平成 27 年 3 月 26 日（木）14：00～15：00

場 所：愛媛大学社会連携推進機構 2 階研修室

委員出席者：

南海放送（株）社長室局次長兼番組審議会事務局長	白石 享三
株式会社芙蓉コンサルタント日本技術士会四国本部副本部長	須賀 幸一
放送大学愛媛学習センター所長	森 孝明

陪 席 者：

矢田部センター長、竹田副センター長、新階副センター長、松尾教授、瀬野社会連携支援部長、池内副課長、竹村 T L、大野、泉

愛媛大学防災情報研究センター外部評価委員会要領第 4 条第 1 項に基づき、森孝明放送大学愛媛学習センター長を委員長（議長）に選出された。

審議事項：

議題 1. センター活動の概要報告について

矢田部防災情報研究センター長から資料 3 に基づき、平成 26 年度の下半期における活動報告等があ

った。

議題 2. 受託研究・共同研究に対する概要

矢田部防災情報研究センター長等から資料 4 に基づき、受託研究 4 件の説明が下記のとおり説明があり、全委員から先導的な活動であり、防災情報研究センターとして、ふさわしい研究であるとの評価をいただいた。

受託研究 1 「平成 26 年度肱川管理方策検討業務」

研究者 門田 章宏

発表者 矢田部 龍一

受託研究 2 「平成 26 年度水域生物を指標とした瀬切れ河川影響評価」

研究者 矢田部 龍一

発表者 矢田部 龍一

受託研究 3 「地下水流動解析調査（重信川中流域）に伴うボーリング調査」

研究者 森脇 亮, 藤森 祥文

発表者 矢田部 龍一

受託研究 4 「地下水流動解析調査（重信川中流域）に伴う検証」

研究者 小林 範之, 泉 智揮

発表者 矢田部 龍一

議題 3. 報告事項

矢田部防災情報研究センター長等から資料 5 に基づき、外部評価実施規程の一部改正についての説明があった。

議題 4. センター活動への助言について

白石委員から、松山アーバンデザインセンターの来年度以降の活動計画があるようであれば教えていただきたいと質問があり、新階副センター長から情報を発信するための番組（テレビ、ラジオ等）作成、研究会の立ち上げ、フィールドの拡大を進めていく予定であるとの回答を行った。白石委員からは、これらの取り組みは防災情報研究センターの新しい存在価値を示す意味でも重要な取り組みであると評価いただいた。

須賀委員から、社会基盤メンテナンスエキスパート養成講座は非常に有益な講座であったと評価している。今後講座を継続していく中で、新たな人材を養成すること同時に、ME の活用や補講が必要と思うがどうお考えかとの質問があり、矢田部センター長から、活動報告会や現場報告会の実施等、大学側がサポートしていく必要があり、養成講座についてはカリキュラムの強化、テキストの作成及び広く情報発信を行う必要があると回答を行った。また、竹田副センター長からは、行政等と協力し、ME の活躍の場を作っていくよう進めていくとの回答を行った。

6. 規程等

6.1 愛媛大学防災情報研究センター規則

〔平成18年4月1日
規則第 64号〕

(趣旨)

第1条 この規則は、国立大学法人愛媛大学基本規則第30条第2項の規定に基づき、愛媛大学防災情報研究センター（以下「センター」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 センターは、学内共同施設として、自然科学と防災技術の融合により自然災害の実態を解明し、防災・減災のための新たな学際分野を創出し、もって地域の人材育成を含めた地域防災の拠点としてアジア及び地域社会に貢献することを目的とする。

(研究部門等)

第3条 前条の目的を達成するため、センターに次の各号に掲げる研究部門を置く。

- (1) 災害救急医療・ケア研究部門
- (2) 地域防災システム研究部門
- (3) 社会基盤整備部門
- (4) アジア・地域防災情報ネットワーク部門
- (5) 東南海・南海地震研究部門

2 前条の目的を達成するため、必要に応じて、センターに地域サテライトを置くことができる。

(組織)

第4条 センターに、次の各号に掲げる職員を置く。

- (1) センター長
- (2) 副センター長
- (3) 部門長
- (4) 寄附研究部門教員
- (5) 兼任教員
- (6) その他必要な職員（以下「センター職員」という。）

2 第2条の目的を達成するため、必要に応じて特定領域の学識を有する専任教員を置くことができる。

(管理機関)

第5条 センターの管理運営に関する重要な事項は、国立大学法人愛媛大学社会連携推進機構管理委員会（以下「管理委員会」という。）において審議する。

(運営委員会)

第6条 センターの運営に関する事項を審議するため、センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

2 運営委員会に関する事項は、別に定める。

(緊急対策委員会)

第7条 センターに、緊急の防災対策を検討するために緊急対策委員会を置くことができる。

(センター長)

第8条 センター長候補者は、愛媛大学（以下「本学」という。）の専任の教授のうちから管理委員会が推薦し、学長が選考する。

2 センター長の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠により任命されたセンター長の任期は、前任者の残任期間とする。

（副センター長）

第9条 副センター長候補者は、本学の専任の教授のうちから、センター長が当該教授の所属する部局等の長の同意を得て推薦し、学長が選考する。

2 副センター長の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠により任命された副センター長の任期は、前任者の残任期間とする。

（部門長）

第10条 部門長は、当該部門の寄附研究部門教員又は兼任教員のうちから、センター長が委嘱する。

2 部門長の委嘱期間は、センター長が定める。ただし、委嘱期間の末日は、当該部門長を委嘱するセンター長の任期の末日を超えないものとする。

（寄附研究部門教員）

第11条 寄附研究部門教員は、管理委員会が推薦し、学長が選考する。

（兼任教員）

第12条 兼任教員は、本学の専任教員のうちからセンター長の推薦により、学長が任命する。

2 兼任教員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠により任命された兼任教員の任期は、前任者の残任期間とする。

（職務）

第13条 センター長は、センターの業務を掌理する。

2 副センター長は、センター長の職務を補佐し、センター長から指示された具体的な事項を行う。

3 部門長は、当該部門の業務を処理する。

4 兼任教員は、センターの研究計画に基づき、研究に従事する。

5 センター職員は、センターの業務に従事する。

（協力教員）

第14条 センターに、協力教員を置くことができる。

2 協力教員は、センター長があらかじめ定めた期間、センターの活動に参加することができる。

3 協力教員は、本学の専任教員のうちから、センター長が委嘱する。

（客員教授等）

第15条 センターに、客員教授等を置くことができる。

2 客員教授等の選考は、愛媛大学客員教授等選考基準の定めるところによる。

（客員研究員）

第16条 センターに、客員研究員を置くことができる。

2 客員研究員の選考は、愛媛大学客員研究員規程の定めるところによる。

（事務）

第17条 センターに関する事務は、社会連携支援部社会連携課において処理する。

（雑則）

第18条 この規則に定めるもののほか、センターに関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規則は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成22年10月14日から施行し、平成22年10月1日から適用する。

6.2 愛媛大学防災情報研究センター運営委員会規程

平成18年4月1日
規則第 65 号

(趣旨)

第1条 この規程は、愛媛大学防災情報研究センター規則第6条第2項の規定に基づき、愛媛大学防災情報研究センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）の組織及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

(審議事項)

第2条 運営委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 愛媛大学防災情報研究センター（以下「センター」という。）の運営に関する基本事項に関すること。
- (2) その他センターの運営に関すること。

(組織)

第3条 運営委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) センター長
- (2) 副センター長
- (3) 部門長
- (4) 社会連携支援部長
- (5) その他委員長が必要と認めた者

2 前項第5号の委員は、運営委員会の議を経て委員長が推薦し、学長が任命する。

(委員長)

第4条 運営委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。

- 2 委員長は、運営委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。

(議事)

第5条 運営委員会は、委員（代理者を含む。以下同じ）の過半数が出席しなければ議事を開くことができない。

- 2 議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第6条 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者を出席させ、説明又は意見を聴くことができる。

(専門部会)

第7条 運営委員会は、専門的事項を調査検討するため、専門部会を置くことができる。

- 2 専門部会に関する事項は、運営委員会が定める。

(事務)

第8条 運営委員会に関する事務は、社会連携支援部社会連携課において処理する。

(雑則)

第9条 この規程に定めるもののほか、運営委員会の運営に関し必要な事項は、運営委員会が定める。

附 則

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成20年4月1日から施行する。

6.3 愛媛大学防災情報研究センター外部評価実施規程

平成 18 年 11 月 10 日
社会連携推進機構管理委員会

(趣旨)

第1条 この規程は、愛媛大学防災情報研究センター（以下「センター」という。）における外部評価（以下「評価」という。）の実施に関する基本的事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 評価は、愛媛大学以外の機関等から申込のあった共同研究及び受託研究が、愛媛大学において受け入れる研究としてふさわしいものであるかについて客観的な立場で検証し、その評価及び改善への助言等を行うことにより、共同研究及び受託研究の業務の適正化を図り、もって、センターの円滑な運営に資するものとする。

(評価審査)

第3条 評価に係る審査は、法令、学内諸規則及び社会良識に照らして厳正中立に行わなければならない。

2 評価審査の結果には、共同研究及び受託研究を実施する上での問題点の有無等について、その具体的な判断理由を明示するものとする。

(審査機関)

第4条 前条の審査を行うために、センターに愛媛大学防災情報研究センター外部評価委員会（以下「外部評価委員会」という。）を置く。

2 外部評価委員会に関する事項は、別に定める。

(審査の時期)

第5条 審査は、原則として、年度ごとの定期審査とする。

2 外部評価委員会への審査の要請は、センター長が行う。

(審査結果の効力)

第6条 センター長は、外部評価委員会の定期審査による評価及び改善への助言等を十分に尊重し、共同研究及び受託研究の実施にあたらなければならない。

(事務)

第7条 センターの外部評価に関する事務は、社会連携支援部社会連携課が所掌する。

附 則

この規程は、平成 18 年 11 月 10 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

6.4 愛媛大学防災情報研究センター外部評価委員会要項

平成 18 年 11 月 10 日
社会連携推進機構管理委員会

(趣旨)

第1条 この要項は、愛媛大学防災情報研究センター外部評価実施規程第4条第2項の規定に基づき、愛媛大学防災情報研究センター外部評価委員会（以下「外部評価委員会」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(審議事項)

第2条 外部評価委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 共同研究及び受託研究のテーマ又は内容が、学術的又は社会貢献としての価値を損なうものでないか。
- (2) 共同研究又は受託研究を実施する者が、社会規範を逸脱したと思われる行為を行っていないか。
- (3) 前各号のほか、愛媛大学（以下「本学」という。）が実施するにふさわしくない事情が認められないか。

(組織)

第3条 外部評価委員会は、次の各号に掲げる本学外の委員をもって組織する。

- (1) 愛媛大学防災情報研究センター（以下「センター」という。）の学術分野に関連のある有識者 2人
- (2) 民間機関の有識者 2人
- (3) その他社会連携推進機構長が必要と認めた者

2 前項第2号の委員は、同一の機関から選出することができない。

3 第1項の委員は、社会連携推進機構長が推薦し、学長が任命する。

4 委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、委員に欠員が生じたときは直ちにこれを補充し、その任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第4条 外部評価委員会に委員長を置き、委員長は、委員の互選とする。

2 委員長は、センター長の要請に基づき外部評価委員会を開催し、その議長となる。

3 委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名する委員がその職務を代行する。

(議事)

第5条 外部評価委員会は、委員の過半数の出席がなければ議事を開くことができない。

2 議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第6条 委員長が認めるときは、委員以外の者を出席させ、説明又は意見を聴くことができる。

(審査結果の報告)

第7条 委員長は、外部評価委員会における評価の審査結果を、速やかにセンター長に報告しなければならない。

(事務)

第8条 外部評価委員会に関する事務は、社会連携支援部社会連携課において処理する。

(雑則)

第9条 この要項に定めるもののほか、外部評価委員会の審査に関し必要な事項は、外部評価委員会が定める。

附 則

1 この要項は、平成18年11月10日から施行する。

2 この要項施行後、最初に任命される第3条第1項各号の委員の任期は、同条第4項の規定にかかわらず、平成20年3月31日までとする。